

平成30年度
内閣府委託調査

**女子生徒等の理工系分野への
進路選択支援に向けた
保護者等の理解促進に関する
調査研究**

調査報告書

平成31年3月

株式会社リベルタス・コンサルティング

目次

第1章 調査概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査の内容	2
1-2-1 企画委員会の設置	2
1-2-2 オンライン調査の実施	4
1-2-3 広報媒体・内容	5
1-2-4 シンポジウムの実施	7
1-3 分析結果の概要	12
第2章 オンライン調査結果の分析	14
2-1 保護者調査	14
2-1-1 回答者の概要	14
2-1-2 子への期待・希望、教育状況	16
2-1-3 進路等に関する情報	22
2-1-4 子の将来について	27
2-1-5 小括	30
2-2 教員調査	32
2-2-1 回答者の概要	32
2-2-2 進路についての考え・情報	33
2-2-3 進路指導について	40
2-2-4 小括	43
2-3 保護者・教員への両調査結果の整理	45
第3章 広報・シンポジウムの実施	47
3-1 広報・シンポジウムの実施	47
3-1-1 開催地域の検討	47
3-1-2 シンポジウムの企画・検討	48
3-1-3 日程の設定	48
3-1-4 登壇者の検討	48
3-1-5 広報内容	49

3-1-6 申込者数	50
3-2 実施結果（来場者等）	51
3-2-1 来場者	51
3-2-2 来場者のシンポジウムに対する評価	55
3-2-3 来場者のシンポジウム全体に対する評価	58
3-2-4 シンポジウムに対する感想や、望む情報発信の内容等に関する自由回答 ...	58
3-3 小括.....	62
第4章 まとめと課題	63
4-1 本調査研究における成果	63
4-2 本調査研究の課題・今後の方針.....	68
4-2-1 保護者や教員に対する情報提供について	68
4-2-2 よりよいシンポジウムの開催に向けての検討	71
第5章 参考資料	74
5-1 オンライン調査集計結果	74
5-1-1 保護者調査.....	74
5-1-2 教員調査	88
5-2 リーフレット	96
5-3 調査票.....	100

第1章 調査概要

本調査研究は、内閣府から委託を受けてリベルタス・コンサルティング（調査事務局）が実施したものである。調査概要は以下のとおり。

1-1 調査目的

我が国の理工系分野における女性研究者・技術者の割合は、増加傾向にあるものの依然として低い水準となっており、今後、本格的な人口減少社会を迎える中でイノベーションの創出によって社会の課題を解決するためにも、女性研究者等の活躍を推進することは急務である。しかしながら、いわゆる理系（自然科学系における理学系、工学系農学系、保健系（医学・歯学・薬学系・その他））の中でも特に理工系分野において次代を担う女子学生比率は低い状況であり、女子生徒等の理工系分野への進路選択が促進されることが必要である。

内閣府が平成 28 年度に実施した「理工系分野における女性活躍の推進を目的とした関係国の社会制度・人材育成等に関する比較・分析調査」においては、「より多くの生徒が理工系の職業イメージを具体的に持てるような取組の充実が必要であること」「家族や保護者も対象とした施策について検討すべきであること」等が示され、また平成 29 年度に実施した「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」においては、「中学生が進路を選択・決定する上では、本人の意識だけではなく、家庭環境や学校環境、また地理的環境からの影響があり、特に女子生徒においてその傾向が強い」こと等が明らかになっている。

また、生徒の進路選択においては、保護者や教員等からの影響もある状況下においては、本人だけではなく理工系分野への進路選択に関する保護者や教員等に十分な現状認識が求められる。そのため、理工系進路選択に関する保護者等と生徒間のコミュニケーションや情報提供方法等について示唆を得る観点から、保護者等に対する調査等を通じ、有効な取組の検討を行うとともに、対話形式のシンポジウムを試行実施・分析することにより効果や課題を明らかにし、今後の取組拡大に向けた調査研究を行う。

1-2 調査の内容

1-2-1 企画委員会の設置

本事業の実施にあたり、女子生徒等の理工系分野への進路選択や、メディア及び理系分野に関する教育等の広報等に精通した有識者 5 名からなる企画委員会を設置した。企画委員一覧は以下のとおりである。

図表 1 企画委員名簿

	所属	役職	氏名
委員	山形大学学術研究院	教授	河野 銀子
	東京大学社会科学研究所	教授	佐藤 香
	(株)リクルートホールディングス リクルートワークス研究所	主幹研究員	豊田 義博
	(学)河合塾 教育研究部	みらいぶプラス編集長	山本 真司
	国立研究開発法人科学技術振興機構	副理事 ダイバーシティ推進室長	◎渡辺 美代子

(氏名 50 音順、◎は座長)

企画委員会においては、本事業の主題となるシンポジウムの開催と、その前段階において実施するオンライン調査それぞれにつき、企画実施方針、終了後の分析等を実施した。企画委員会の開催日程及び検討内容は以下のとおりである。

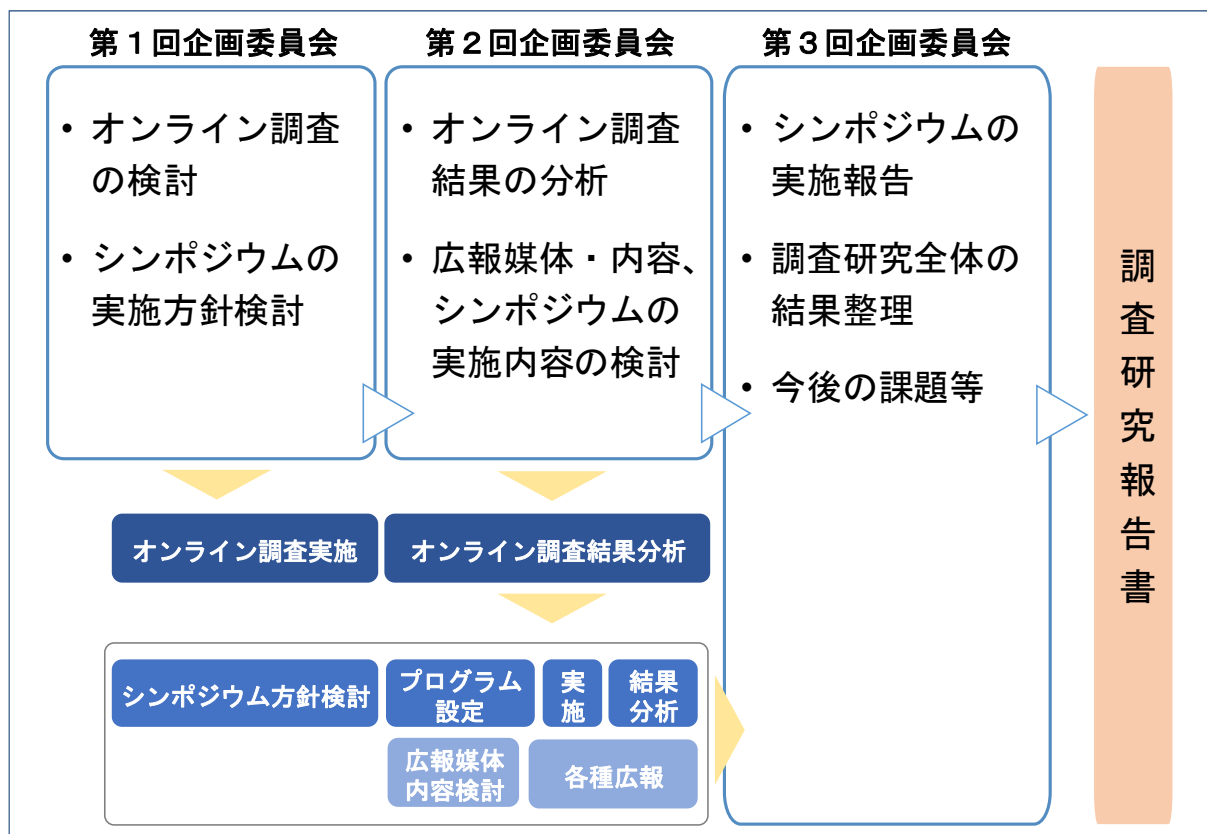
図表 2 企画委員会日程及び検討内容

回数	時期	検討事項
第 1 回	平成 30 年 8 月 24 日	座長の選出、オンライン調査の検討（オンライン調査方針・調査項目の検討）、シンポジウムの実施方針の検討（会場等の決定方針の検討）
第 2 回	平成 30 年 11 月 20 日	オンライン調査の結果分析、広報媒体・内容及びシンポジウムの実施内容の検討
第 3 回	平成 31 年 2 月 21 日	シンポジウム結果の報告（来場者アンケート等の集計結果を含む）、調査結果のとりまとめ方針の検討

※会議はいずれも、事務局（株式会社リベルタス・コンサルティング）内会議室にて開催した。

前掲のとおり、本事業では、企画委員会において、保護者・教員の抱える課題や傾向を把握するためのオンライン調査を企画・実施し、この結果を踏まえて各種広報媒体・内容及びシンポジウムについて検討するとともに、実施した結果についての分析・整理を実施した。

図表 3 事業の実施の流れ



1-2-2 オンライン調査の実施

WEB アンケート回答モニター会員に登録している方（ただし、女子中高生の保護者と中学・高校に勤務する教員に限定する）を、対象都市及び属性に偏りが出ないように、調査対象の絞込みやサンプル数の配分等を考慮した上で、オンライン調査を行った。

具体的な方針については、企画委員会において検討を行い、以下の仕様にて実施した。

項目	内容
目的	生徒の進路に関する情報の提供において、どのような情報を提供することが効果的であるかを把握する等のために実施
調査対象	① 女子生徒（中学・高校）の保護者 ② 中学・高校に勤務する教員（男子校除く）
サンプルサイズ	①②とも各 1,000 件以上を回収目標として設定 (①につき 1,000 件を回収、②につき 1,064 件を回収した)
割付	①②とも地域区分（居住地が東名阪の 3 大都市圏 ¹ か否か）、年代（45 歳未満、45 歳以上）を均等に割り付ける。 ただし、教員については母数が少なく、完全に均等な割付は困難なため、可能な限り調整することとした。
実査期間	平成 30 年 9 月 20 日～同年 10 月 1 日
主な調査項目	<①保護者調査> ・ 自身の子の進路についての考え ・ 子の教育費 ・ 進路選択に関する情報の入手方法 ・ 進路選択に関する情報として重要なもの、不足しているもの、子に知らせるべきと考えるもの ・ 自身の教科毎の選好 ・ 子の教育へのかかわり方 ・ 理系の進路に対するイメージ

¹ 東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、愛知県、大阪圏（大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、兵庫県）の 11 都府県を指す。以降、「東名阪（11 都府県）」と表記する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終学歴 <p><②教員調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当教科・役職 ・ 最終学歴（大学・大学院の学問分野） ・ 進路選択に関する情報の入手方法 ・ 進路選択に関する情報につき、教員から見て保護者が重要と考えている情報、提供が不足していると思われる情報、生徒に知らせるべきと思われる情報 ・ 理工系への進学を希望する生徒への指導に際して必要と考えている情報 ・ 理工系への進学を希望する生徒への指導に際し不安な点、苦勞する点
--	--

※ 調査結果は第2章に示す。また調査票については、参考資料に示す。

1-2-3 広報媒体・内容

オンライン調査の結果を踏まえ、広報媒体・内容を検討するとともに、シンポジウムに開催に向け、以下の取組を行った。

(1) WEB サイト・SNS

広報媒体については、広く募集を受け付けるため、参加申込み用のWEBページを作成したほか、株式会社講談社や学校法人河合塾が運営する、主に理系分野に興味を持つ生徒や保護者向け情報サイトにも情報を掲載した。

あわせて、情報サイトと連携する学校法人河合塾のSNSアカウントから、シンポジウムの実施について情報発信を行った。

(2) 電子メール

主に、教員や、男女共同参画及び内閣府男女共同参画局が推進する理工チャレンジ(リコチャレ)の取組に関心がある層を対象とする広報として、文部科学省及び科学技術振興機構(JST)から、メールマガジン等を活用し、シンポジウム開催に

ついて情報配信を行った。

(3) 郵送・電話及び FAX

シンポジウムの開催を告知するチラシを作成し、開催会場近郊の市区町村内中学校・高校に配布（郵送）した。また、郵送物の送付については電話でも連絡し、チラシを目にしてもらえる可能性を高めるようにするとともに、紛失等の申し出を受けた場合には、FAX でチラシを再度配布した。

1-2-4 シンポジウムの実施

(1) シンポジウム実施概要

① シンポジウムの名称

女子生徒等の理工系分野への進路選択支援に向けた保護者・教員に対するシンポジウム ～理工系女子の活躍とロールモデル～

② シンポジウムの開催目的

理工系進路選択に関する保護者等と生徒間のコミュニケーションや情報提供方法等について示唆を得る観点から、対面での情報提供方法として、対話形式のシンポジウム実施により、その効果や課題を把握・分析を行うもの。

③ 対象者

主な対象者は、女子生徒の保護者及び中学・高校の教員とした。

なお、広く告知を行うとともに、事業の認知度を向上させる観点から、参加条件は設けず、募集を行った。

※ 告知文の例 「(主に女子中高生の) 保護者の方、学校教員の方 ※ 左記以外の方もご参加いただけます」

④ 日程及び開催地

シンポジウムの日程及び開催地については以下のとおり。

	盛岡会場 ² (岩手県)	東京会場(東京都港区)	松本会場(長野県)
日時	平成 31 年 1 月 27 日(日) 13:00～15:00	平成 31 年 2 月 4 日(月) 13:30～15:30	平成 31 年 2 月 6 日(水) 13:30～15:30
会場	盛岡マリオス 18 階 188 会議室 (岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-9-1)	東京工業大学キャンパスイノ ベーションセンター国際会議 室 (東京都港区芝浦3-3-6)	まつもと市民芸術館 小ホール (長野県松本市深志3-10- 1)
アクセス	盛岡駅徒歩 3 分	田町駅徒歩 1 分	松本駅徒歩 10 分 または路線バス 5 分

² 以降は、「盛岡会場」、「東京会場」、「松本会場」と表記する。

(2) プログラムの策定

① 目的（構成のねらい）

オンライン調査結果を踏まえ、実際に理工系分野を学び、働く女性の声を通じて、保護者・教員が知りたいと考えている情報を提供することとしてプログラム策定を行った。

なお、オンライン調査によって明らかになった主な事項は以下のとおりである。

○ 保護者調査

保護者自身が必要な情報、不足している情報、子に知らせるべき情報いずれにおいても「各大学・学部・学科で学ばれる基本的な学問等」が多く挙げられている。また、保護者は理工系について、生物学・農学系に比べて「就職先は家庭と仕事の両立がしづらい」との回答が多い。

○ 教員調査

教員による保護者への提供が不足している情報として「大学の各学部・学科の基本的な学問内容」「各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況」が多く挙げられている。また、理工系への進学を希望する生徒への指導に必要な事柄として「生徒に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい」が多く挙げられている。

上記を含む保護者・教員のニーズを充足させることを目指し、実際に、理工系分野での学びを活かして働いている女性の体験等を豊富に聞くことができるよう、基調講演及びパネルディスカッションを中心にシンポジウムプログラムを構成することとした。

② プログラム

シンポジウムのプログラムは以下のとおりである。原則として、基調講演及びパネルディスカッションについては、各プログラム終了前 5 分程度を会場からの質問時間として設定した（パネルディスカッションでの質問の際にも、質問内容に応じて基調講演登壇者の回答機会を設ける等、当日の発言状況等に応じてフレキシブルに運営。）。

図表 3 シンポジウムのプログラム

時間配分	内容
—	開場
5分	開会・開会挨拶
15分	内閣府挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業及びシンポジウムの目的 ・ 科学技術分野における現状と課題 ・ 内閣府の取組 ・ 関連調査(生徒回答、保護者回答、教員回答)からみた傾向・特徴
35分	基調講演(大学・大学院で理工系の学問を学び、現在研究者として活躍されている女性) <ul style="list-style-type: none"> ・ ご自身の進路選択や理工系での学習・研究のご経験等 ・ 現在の研究領域を選んだきっかけ、時期 ・ 周囲での女性研究者の活躍している状況 ・ 仕事と生活の調査(ワーク・ライフ・バランス)の観点から、仕事と家庭生活、趣味等の状況について
5分	基調講演に対する質疑応答
50分	パネルディスカッション(シンポジウム開催地近郊の企業等に勤める女性) 自身が理系に進もうと考えた時期について <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路選択について周囲の反応、進路選択にあたっての不安の有無等) ・ 理工系を学ぶことや働くことのやりがい・楽しさ、苦勞とその解決策
5分	パネルディスカッションに対する質疑応答
(3分)	総評(東京会場のみ実施)
—	閉会

(3) 各会場の登壇者(敬称略、所属はシンポジウム開催時のもの)

① 盛岡会場

- 開会挨拶 : 岩手大学副学長 菅原 悦子 氏
- 内閣府挨拶 : 内閣府男女共同参画局
- 基調講演 : 岩手大学理工学部助教 阿部 貴美 氏

- パネリスト：岩手大学工学部助教 阿部 貴美 氏
株式会社ミクニ 開発本部先進技術開発室 照井 茜 氏
岩手大学技術部理工学系技術部 理工学系第一技術室
電気電子通信技術グループ 増山 静香 氏
- ファシリテータ：山形大学学術研究院教授 河野 銀子 氏

② 東京会場

- 開会挨拶：内閣府大臣官房審議官 渡邊 清
- 内閣府挨拶：内閣府男女共同参画局
- 基調講演：(株)steAm 代表、内閣府「STEM Girls Ambassador」
中島 さち子 氏
- パネリスト：鹿島建設株式会社土木設計本部
地盤基礎設計部鉄道・基礎グループ設計主査 竹之内 綾子 氏
株式会社島津製作所東京支社
官庁大学営業部第1グループ 前田 千秋 氏
株式会社トヨタ自動車 コネクティッドカンパニー
コネクティッド先行開発部 依田 みなみ 氏
株式会社ドワンゴ ニコニコ事業統括本部 DMC セクション
セクションマネージャ 島崎 抄子 氏
- ファシリテータ：内閣府男女共同参画局
- 総評：学校法人河合塾 教育研究部 みらいぶプラス編集長 山本 真司 氏

③ 松本会場

- 開会挨拶：信州大学学長 濱田 州博 氏
- 基調講演：公立諏訪東京理科大学工学部助教 上矢 恭子 氏
- パネリスト：公立諏訪東京理科大学工学部助教 上矢 恭子 氏
オリオン機械株式会社 電子技術本部 松橋 恵 氏
セイコーエプソン株式会社 技術開発本部 小川原 綾子 氏
- ファシリテータ：国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事 渡辺 美代子 氏

(4) 後援団体

本シンポジウムの実施に当たり、文部科学省からご後援をいただいた。また盛岡会場については岩手大学及び岩手理系女子育成研究会から、松本会場については信州大学からそれぞれご後援をいただいた。

(5) 配布物

配布物として、関係調査結果を整理したリーフレット（参考資料として掲載）、会場アンケート調査票を配布した。

1-3 分析結果の概要

本調査研究結果の要点を以下に示す。

<保護者>

- ・ オンライン調査の回答者（女子生徒の保護者）について最終学歴をみると、東名阪（11都府県）と東名阪（11都府県）以外の地方で大卒以上の割合が約7ポイント離れている（東名阪（11都府県）の方が大卒以上の割合が高い）。
- ・ 保護者の進路に関する情報入手経路としては、「学校の教員」が最も多く挙げられた。次いで、「保護者仲間・職場の同僚・友人」となっている。東名阪（11都府県）においては、相対的に「塾の先生・スタッフ」が多い。東名阪（11都府県）以外では、「学校の教員」を掲げる傾向がより顕著である。
- ・ 保護者が重要と考える情報は進学にかかる費用や大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い等である。進学にかかる費用は、不足している情報としても挙げられている。また重要と考える情報ではやや回答が少なかった、新しい入試の仕組み・内容は、不足している情報としては2番目に多く挙げられている。

<教員>

- ・ 理工系への進学を希望する生徒への指導に当たっては、大学での具体的な学習や、その先にある就職の情報、また理工系分野全体への情報を入手し活用したいと考える教員が多い。
- ・ 理数系科目の担当教員においても、「理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかわからない」29.8%が回答しており、理数系科目の担当教員でも、必ずしも理工系分野を学んだ人材が、どういった職業等で求められているのか、また、どのように活躍できるのか、という実態・動向を把握しているわけではない。

<保護者調査・教員調査の比較>

- ・ 進路に関し保護者が不足していると考える情報、教員から見て保護者への提供が不足していると考えられる情報については、「新しい入試の仕組み・内容」の回答割合が比較的

高い点は両者に共通した傾向である（保護者 25.2%、教員 25.9%）。他方、「各大学・学部・学科の出身女性の活躍情報」（保護者 10.8%、教員 23.4%）や「社会全体の動向（働き方や男女の役割、科学技術の動きなど）」（保護者 11.4%、教員 19.3%）については教員の回答割合が高く、「進学にかかる費用」（保護者 29.8%、教員 17.2%）は保護者の回答割合が高い。

<広報・シンポジウム>

- ・ 既存の調査結果等を整理したリーフレットの配布や、ロールモデルの提示を主な要素としたシンポジウムは、概ね参加者によって有益であり、理解の促進につながった。
- ・ 今後、同様のシンポジウム等イベントを開催するのであれば、早期からシンポジウムの開催について告知するなどし、多くの方の参加を促す必要がある。告知方法についても、実施地域により効果的と考えられる方法が異なるため、工夫が必要である。

第2章 オンライン調査結果の分析

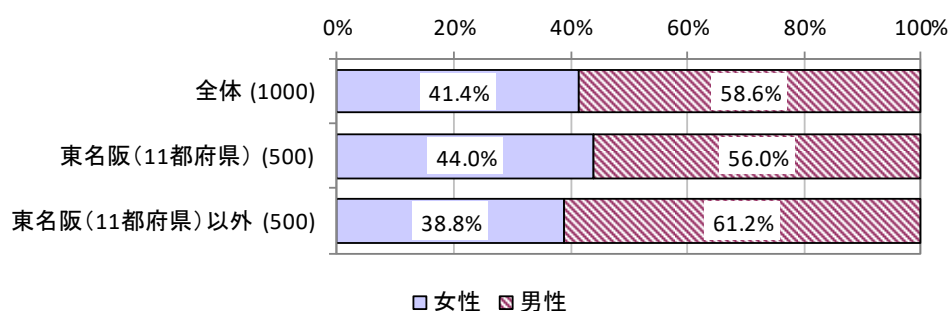
2-1 保護者調査

2-1-1 回答者の概要

本調査は女子生徒（中学・高校）を子に持つ保護者を対象に実施したものであり、年代（45歳未満／45歳以上）、住所地（東名阪（11都府県³）／東名阪（11都府県）以外）の割合はそれぞれ均等とし、1,000件の回答を得た。本調査の回答者像をはじめに示す。

回答者の性別は以下のとおりである。東名阪（11都府県）の回答者の女性割合は44.0%であるのに対し、東名阪（11都府県）以外では38.8%であり、東名阪（11都府県）の方が女性の回答が5ポイント以上、多かった。

図表 4 回答者の性別（n=1,000）



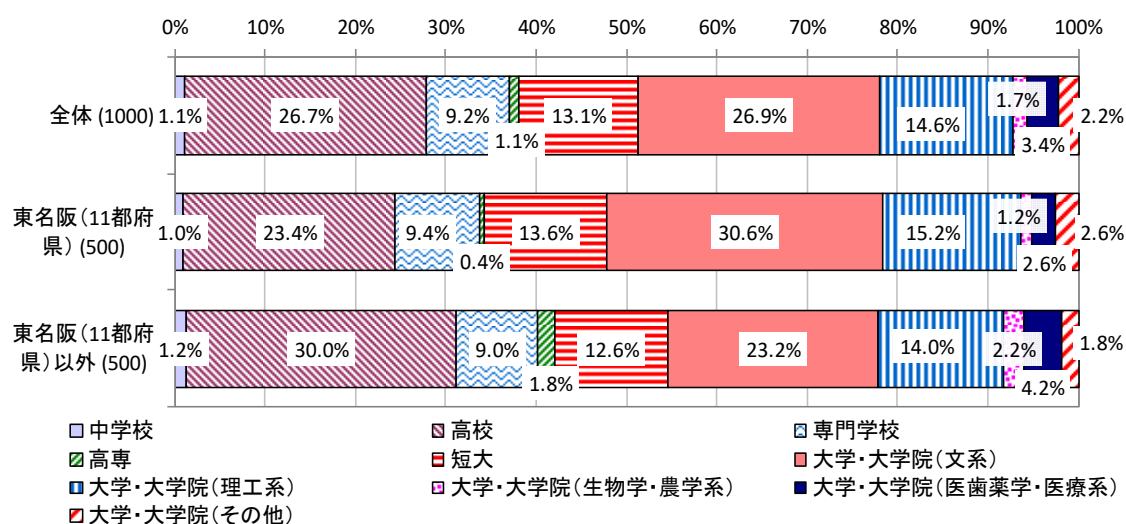
³ 東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、愛知県、大阪圏（大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、兵庫県）の11都府県を指す。以降、「東名阪（11都府県）」と表記する。

回答者の最終学歴は以下のとおりである。

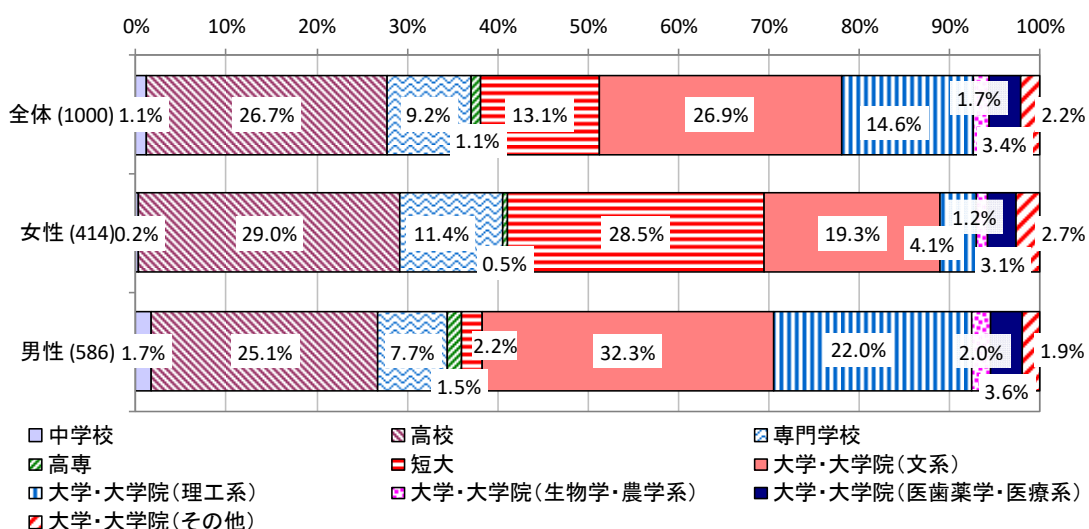
東名阪（11 都府県）の回答者の最終学歴が大学・大学院の者の割合は **52.2%** であるのに対し、東名阪（11 都府県）以外では **45.4%** であり、東名阪（11 都府県）の方が、大学・大学院を最終学歴とする回答が、7 ポイント近く多かった。

性別にみると、女性では「高校」（29.0%）、「短大」（28.5%）、「大学・大学院（文系）」（19.3%）の順に多く、男性では「大学・大学院（文系）」（32.3%）、「高校」（25.1%）、「大学・大学院（理工系）」（22.0%）の順に多い。

図表 5 回答者の最終学歴 (n=1,000)



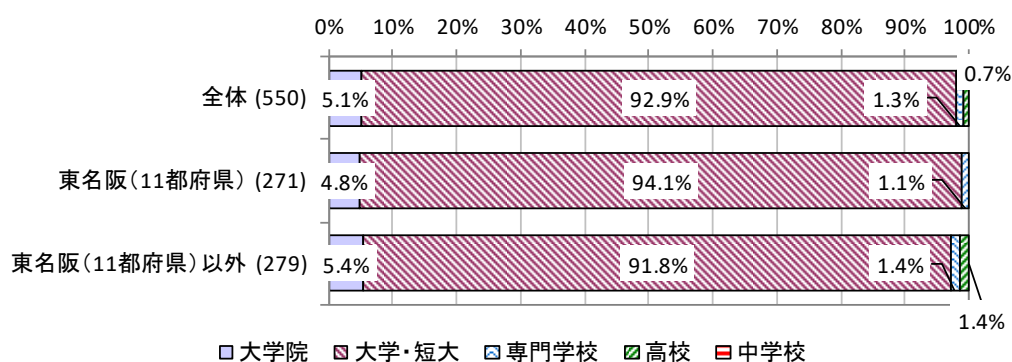
図表 6 回答者の最終学歴 (性別、n=1,000)



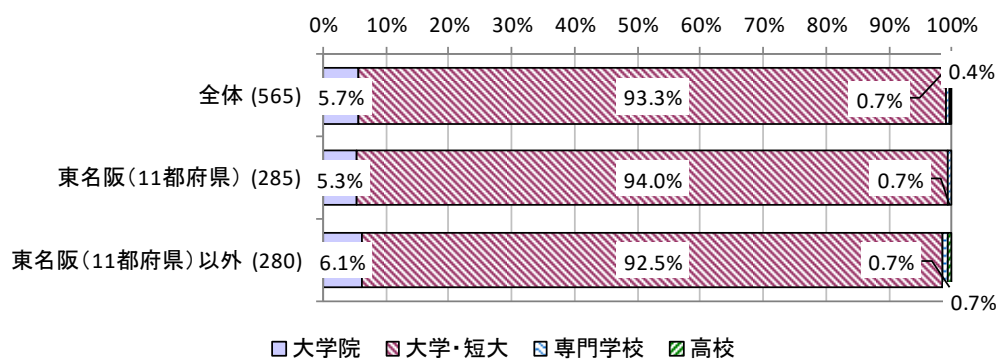
2-1-2 子への期待・希望、教育状況

子に、どの教育機関にまで進学してほしいか（最終学歴）、希望をたずねたところ、概ね5%程度が大学院と回答し、大学院・短大と合わせると97%以上となった。

図表 7 子に進学してほしい教育機関（中学生の保護者、n=550）



図表 8 子に進学してほしい教育機関（高校生の保護者、n=565）

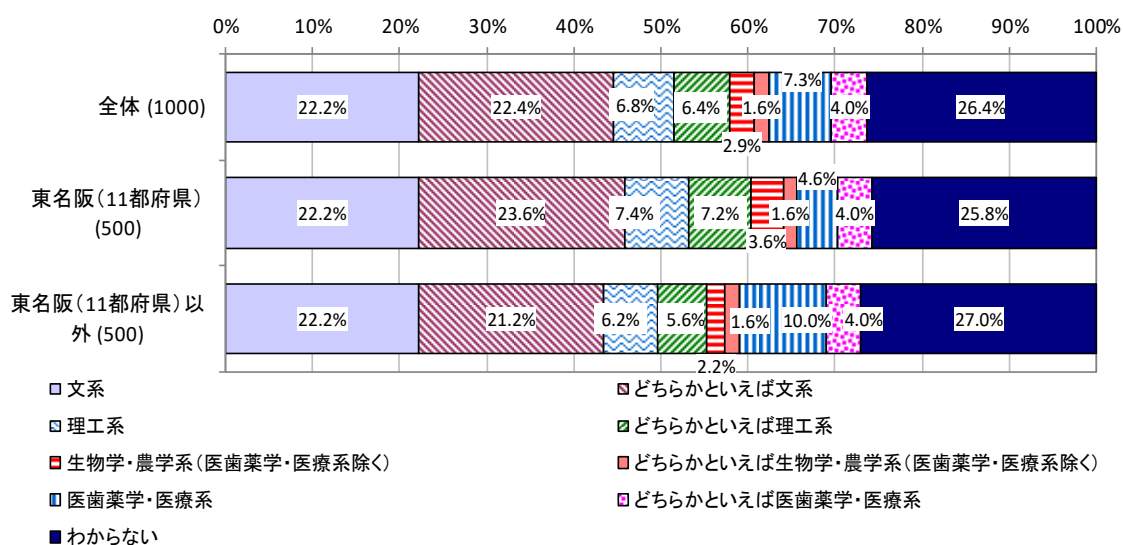


※ 中学・高校に在籍する2名以上の子がいる保護者は、上記両方のグラフに対し回答が反映されているため、合計回答者数が1,000件を超える。

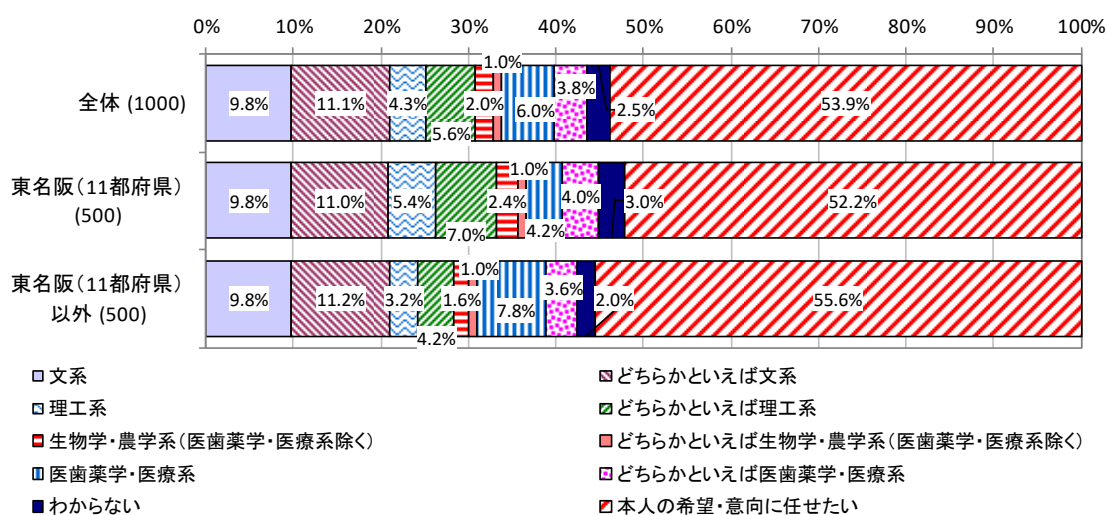
子が希望している進路については、「文系」「どちらかといえば文系」があわせて 40%を
超え、いずれの地域でも最も多い。「理工系」「どちらかといえば理工系」は東名阪（11 都
府県）で 14.6%、東名阪（11 都府県）以外で 11.8%であった。

一方、保護者が子に進学してほしい進路については、「本人の希望・意向に任せたい」が
半数以上となっている。

図表 9 子が希望している進路 (n=1,000)

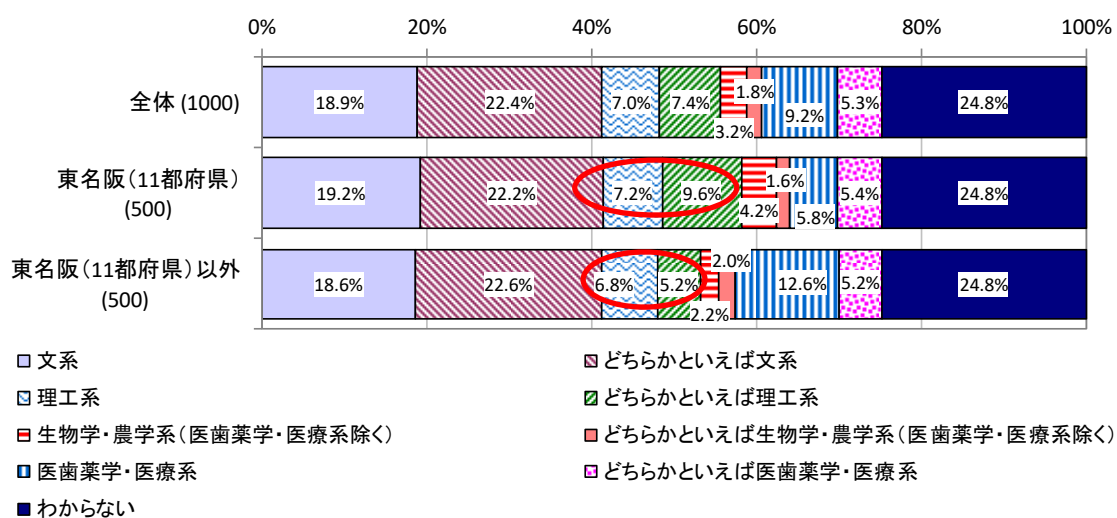


図表 10 子に進学してほしい進路 (n=1,000)



図表 10「子に進学してほしい進路」の回答のうち「本人の希望・意向に任せたい」との回答のみ、図表 9「子が希望している進路」の回答に置き換えて、再集計した結果は次のとおりである。文系が最も多いのは前頁と同様の傾向である。また、「理工系」「どちらかといえば理工系」は、東名阪（11 都府県）で 16.8%、東名阪（11 都府県）以外で 12.0%となっている。

図表 11 子に進学してほしい進路 (n=1,000、子本人の希望・意向を反映)



子が進学するとよいと思う学部については、薬学部が最も多く 20.6%であり、理学部、工学部はそれぞれ 13.9%、12.0%であった。地域別に比較すると、東名阪（11 都府県）では理学部、工学部、経済学・経営学部が相対的に多く、東名阪（11 都府県）以外では医学部、薬学部、保健・看護学部が相対的に多い。

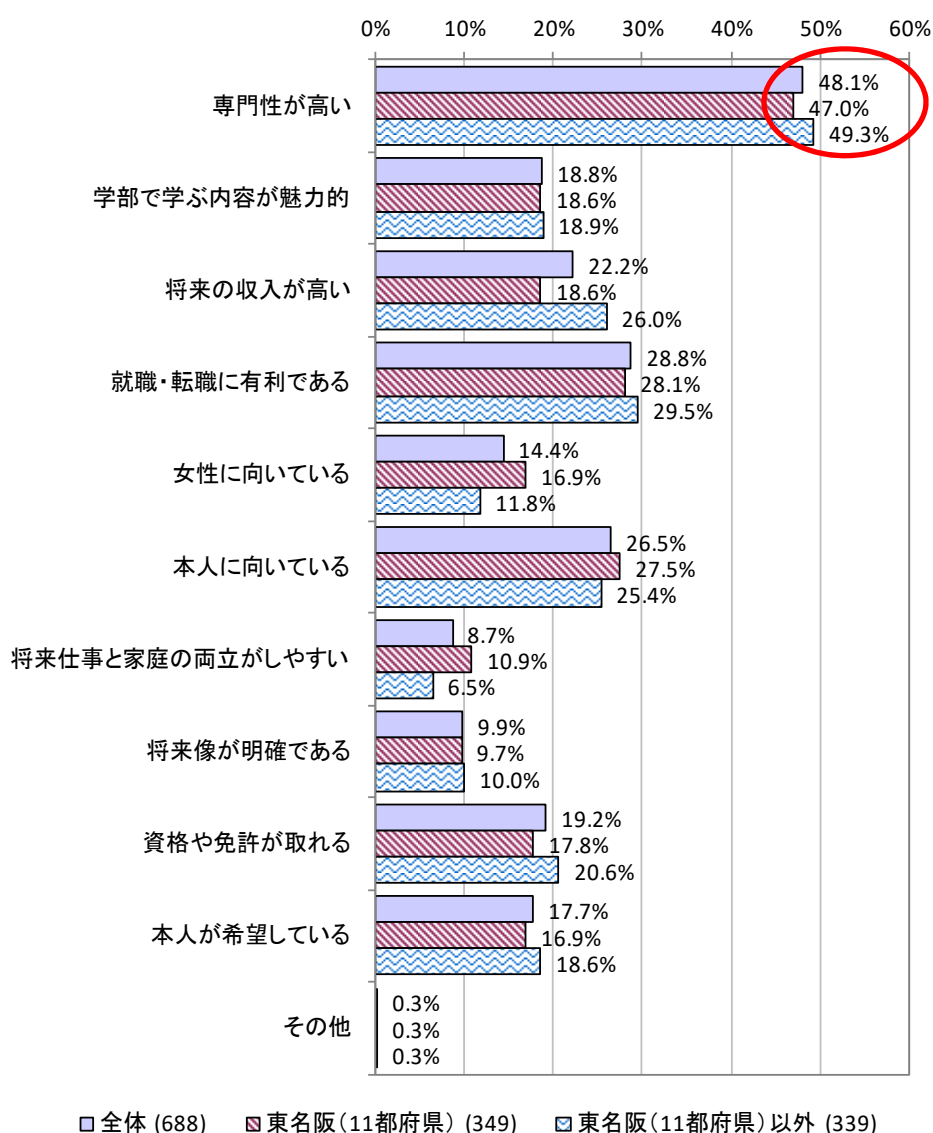
図表 12 子が進学するとよいと思う学部⁴（複数回答、n=1,000）

	全体	理学部	工学部	医学部	薬学部	保健・看護学部	歯学部	農学部
全体	1000 (1.91)	139 (13.9%)	120 (12.0%)	117 (11.7%)	206 (20.6%)	163 (16.3%)	39 (3.9%)	63 (6.3%)
東名阪(11都府県)	500 (1.90)	80 (16.0%)	70 (14.0%)	44 (8.8%)	90 (18.0%)	64 (12.8%)	17 (3.4%)	36 (7.2%)
東名阪(11都府県)以外	500 (1.92)	59 (11.8%)	50 (10.0%)	73 (14.6%)	116 (23.2%)	99 (19.8%)	22 (4.4%)	27 (5.4%)
	全体	文学部	経済学・経営学部	法学部	社会学部	外国語学部	その他	特にない
全体	1000 (1.91)	136 (13.6%)	176 (17.6%)	130 (13.0%)	98 (9.8%)	164 (16.4%)	49 (4.9%)	312 (31.2%)
東名阪(11都府県)	500 (1.90)	71 (14.2%)	99 (19.8%)	67 (13.4%)	52 (10.4%)	89 (17.8%)	21 (4.2%)	151 (30.2%)
東名阪(11都府県)以外	500 (1.92)	65 (13.0%)	77 (15.4%)	63 (12.6%)	46 (9.2%)	75 (15.0%)	28 (5.6%)	161 (32.2%)

⁴ 「全体」列における括弧囲み内の数値は、回答者 1 人あたりの回答件数を示す。例えば、本設問は 1,000 名の回答者につき、平均 1.91 個の選択肢を回答している。

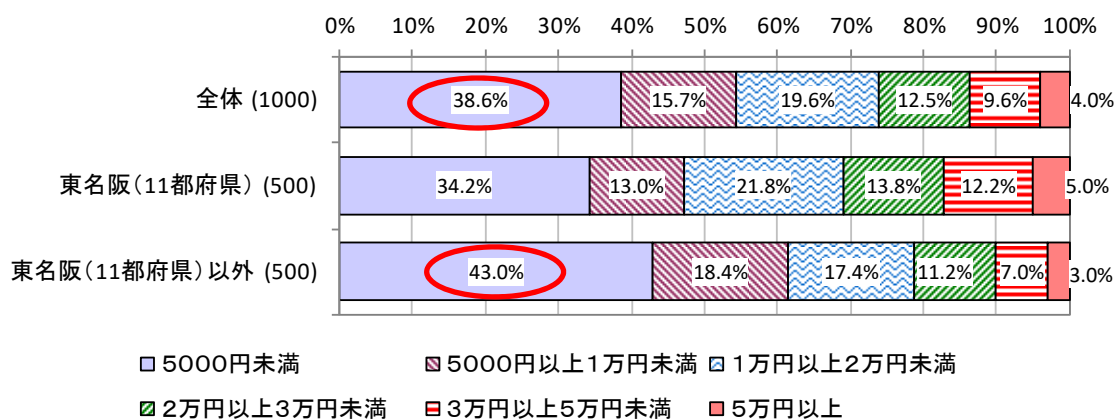
前頁で回答した学部を選択した理由についてたずねたところ、最も多く挙げられたのは「専門性が高い」(48.1%)であり、以下「就職・転職に有利である」、「本人に向いている」が続く。地域別に比較すると東名阪(11都府県)では「女性に向いている」、「将来仕事と家庭の両立がしやすい」が相対的に多く、東名阪(11都府県)以外では「将来の収入が高い」が相対的に多い。

図表 13 学部の回答理由 (n=1,000)

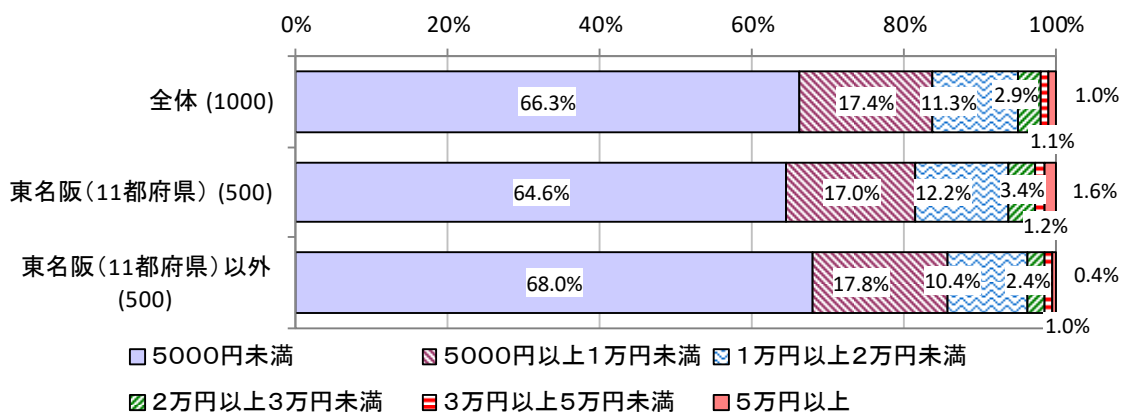


教育投資についてみると、全体で 38.6%が学習塾等について「5,000 円未満」、15.7%が「5,000 円以上 10,000 円未満」としている。地域別にみると、東名阪（11 都府県）では「5,000 円未満」が 34.2%、「5,000 円以上 10,000 円未満」が 13.0%で、合わせて 47.2%であるのに対し、東名阪（11 都府県）以外では「5,000 円未満」が 43.0%、「5,000 円以上 10,000 円未満」が 18.4%で、合わせて 61.4%に達している。

図表 14 1 か月あたり教育額（学習塾、予備校、通信教育等）（n=1,000）



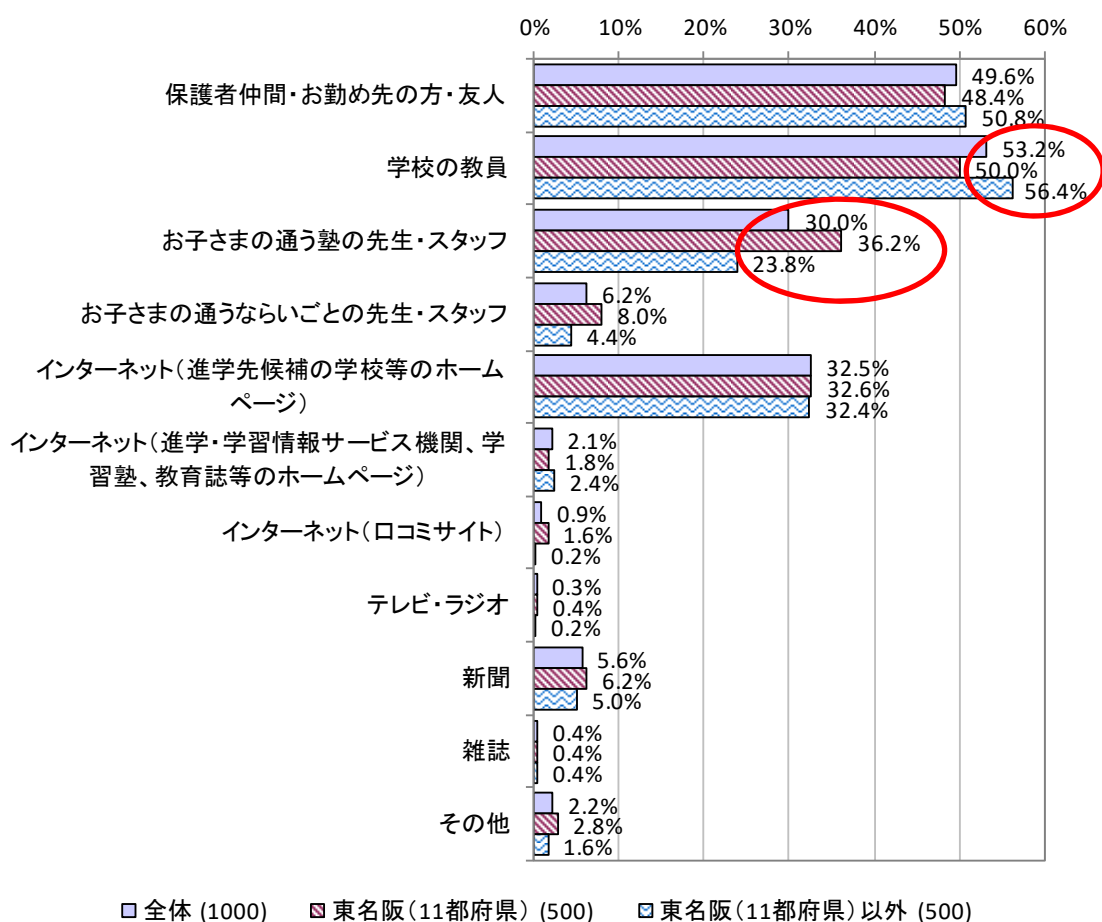
図表 15 1 か月あたり教育額（習い事）（n=1,000）



2-1-3 進路等に関する情報

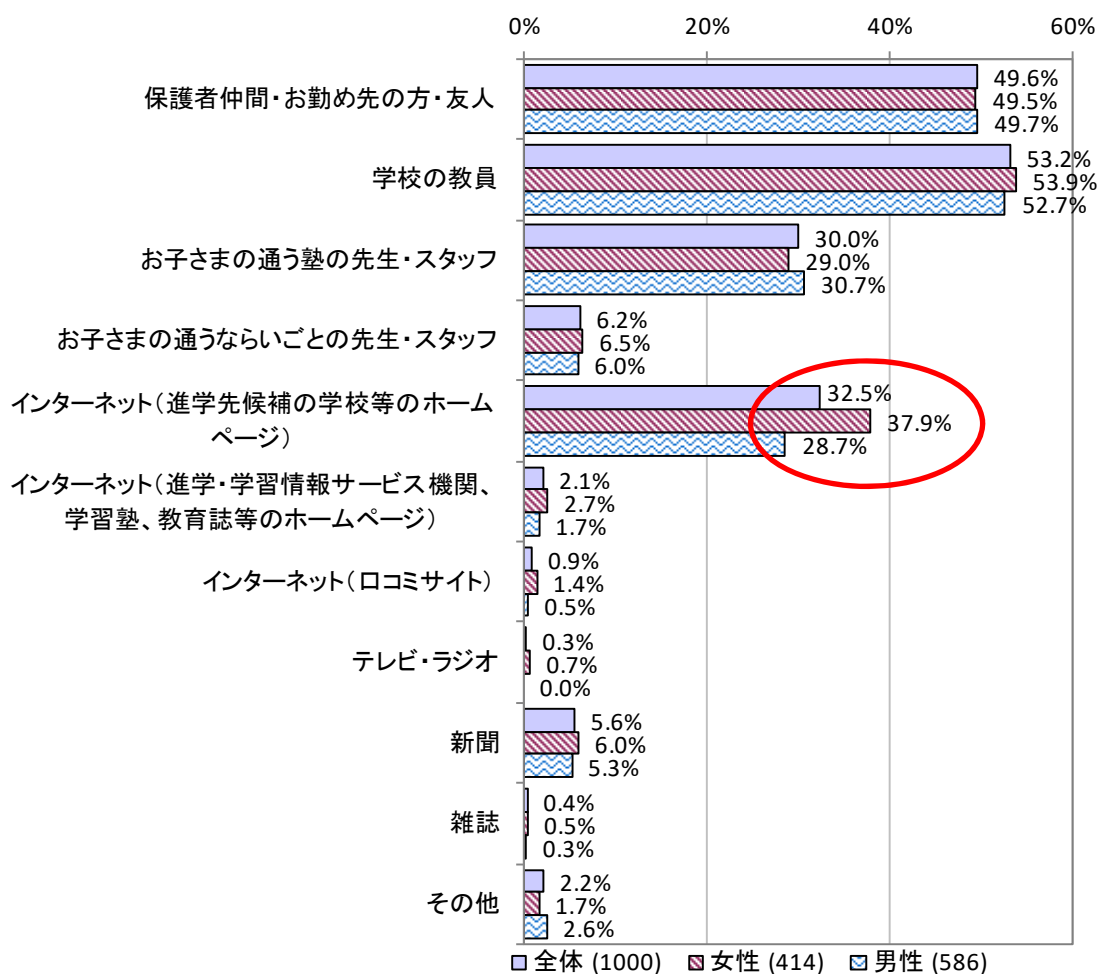
進路に関する情報の入手経路について、最も多いのは「学校の教員」、次いで「保護者仲間・お勤め先の方・友人」が多い。次に多いのは、東名阪（11都府県）では「お子さまの通う塾の先生・スタッフ」が多く、東名阪（11都府県）以外では「インターネット（進学先候補の学校等のホームページ）」が多い。東名阪（11都府県）以外の地域においては、東名阪（11都府県）に比べて、特に学校の教員が担う役割・影響力が大きいと考えられる。

図表 16 進路に関する情報の入手経路 (n=1,000)



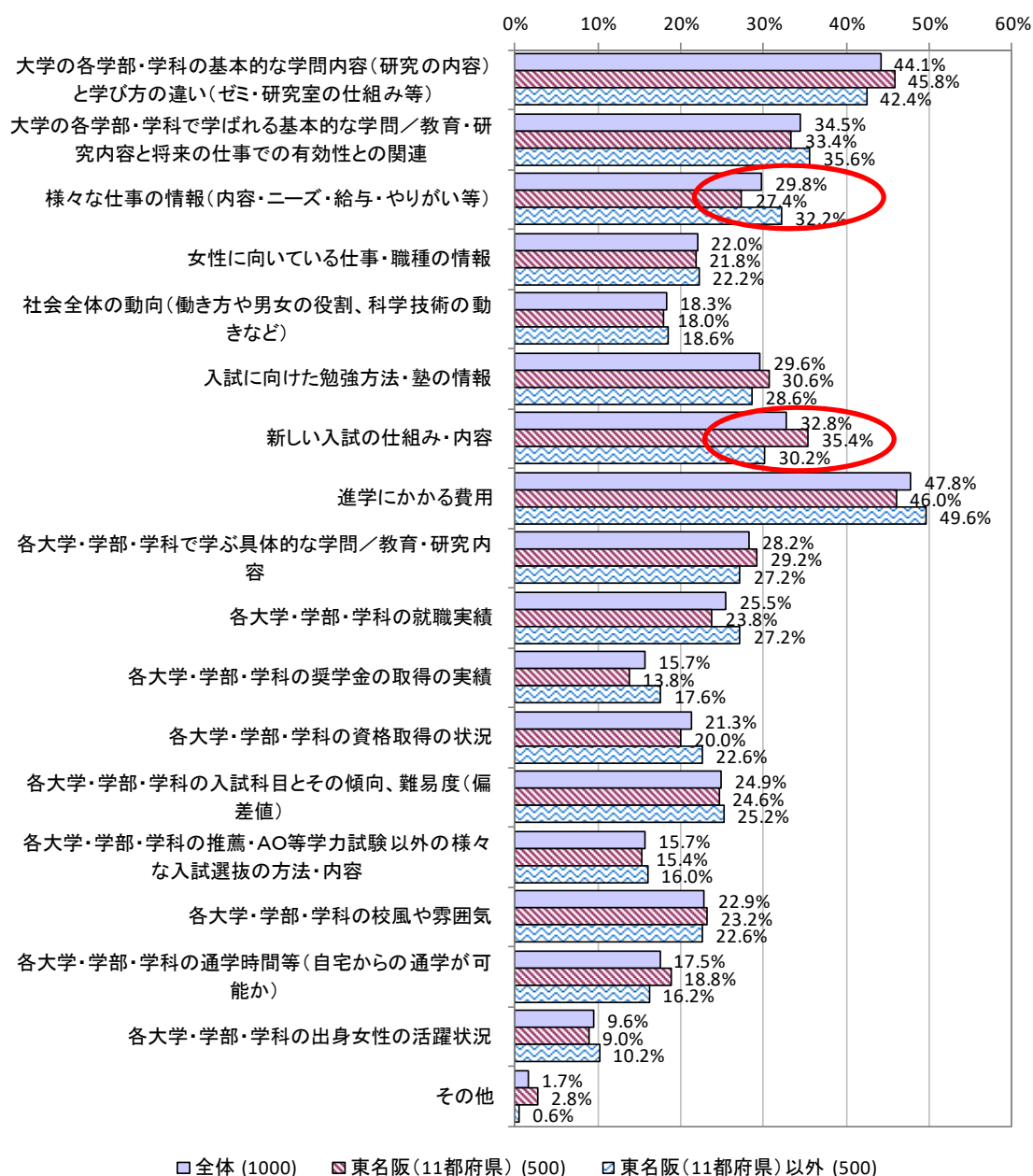
進路に関する情報の入手経路について、性別に集計した結果を以下に示す。男女間に回答傾向の差はあまり見られないが、男性に比べ女性の方が「インターネット（進学先候補の学校等のホームページ）」が 9.2 ポイント高くなっており、能動的な進学先候補学校等の情報収集は、インターネットによって直接的に行う女性保護者が多い。

図表 17 進路に関する情報の入手経路（性別、n=1,000）



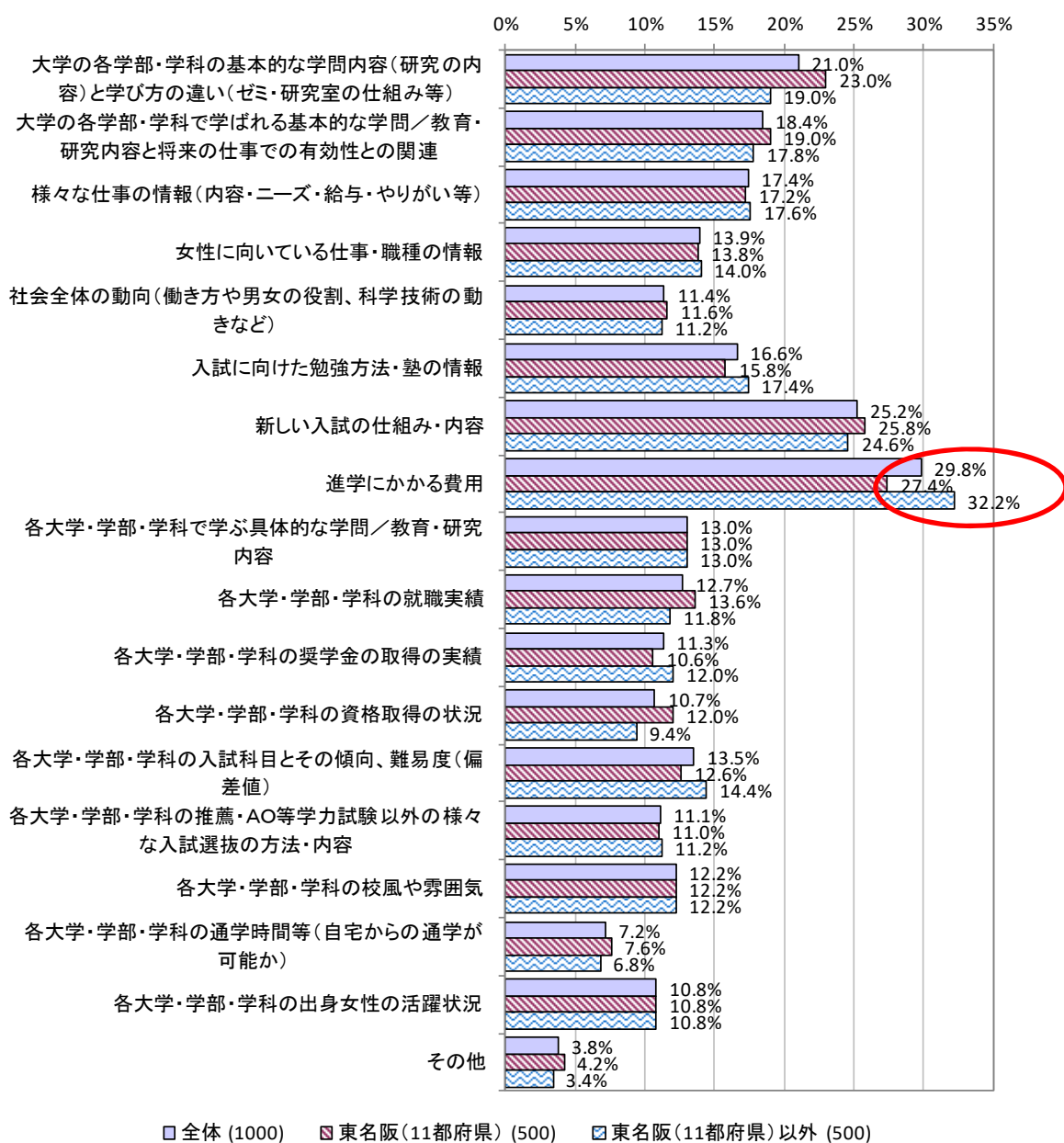
子の進路に関する情報につき、重要なものが何かをたずねたところ、最も多いのは「進学にかかる費用」(47.8%)であり、次いで「大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い」(44.1%)となっている。地域別にみて、大きな傾向の違いはないが、東名阪(11都府県)と東名阪(11都府県)以外で5ポイント程度の差があったのは「様々な仕事の情報」「新しい入試の仕組み・内容」であった。

図表 18 子の進路選択に関する情報で重要なもの (n=1,000)



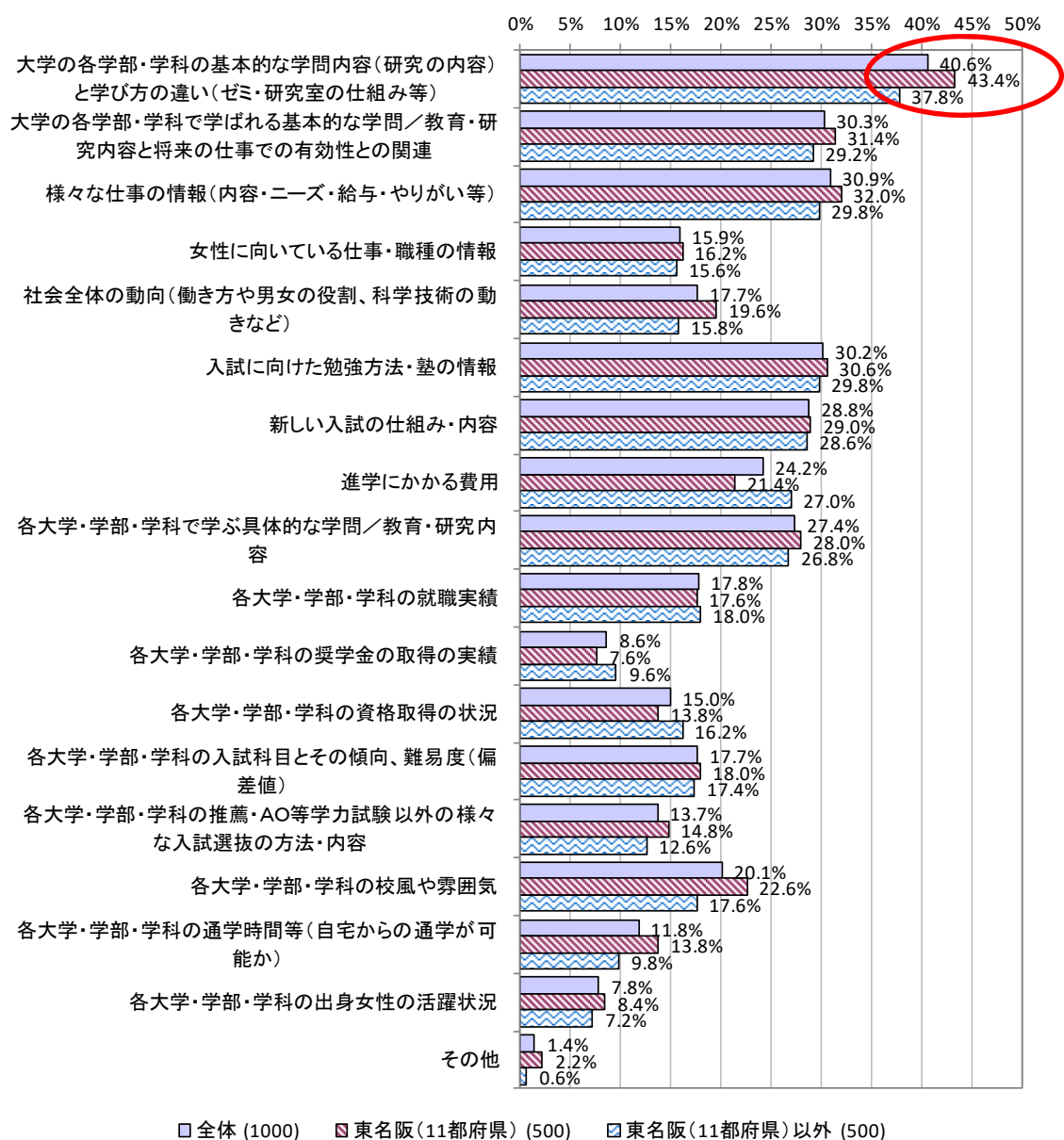
同様に、子の進路選択に関する情報につき、不足しているものが何かをたずねたところ、最も多いのは「進学にかかる費用」(29.8%)であり、次いで「新しい入試の仕組み・内容」(25.2%)となっている。地域別にみて、大きな傾向の違いはなく、東名阪(11都府県)と東名阪(11都府県)以外で5ポイント以上の差はみられない。その中でも、最も差が大きかったのは「進学にかかる費用」(東名阪:27.4%、東名阪(11都府県)以外:32.2%)であった。

図表 19 子の進路選択に関する情報で不足しているもの (n=1,000)



同様に、子に伝えるべき情報についてみると、「大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い」が40.6%で最も多く、次いで「様々な仕事の情報」(30.9%)となっている。地域別にみて、大きな傾向の違いはないが、東名阪(11都府県)と東名阪(11都府県)以外で5ポイント以上の差があったのは「大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い」「各大学・学部・学科の校風や雰囲気」であった。

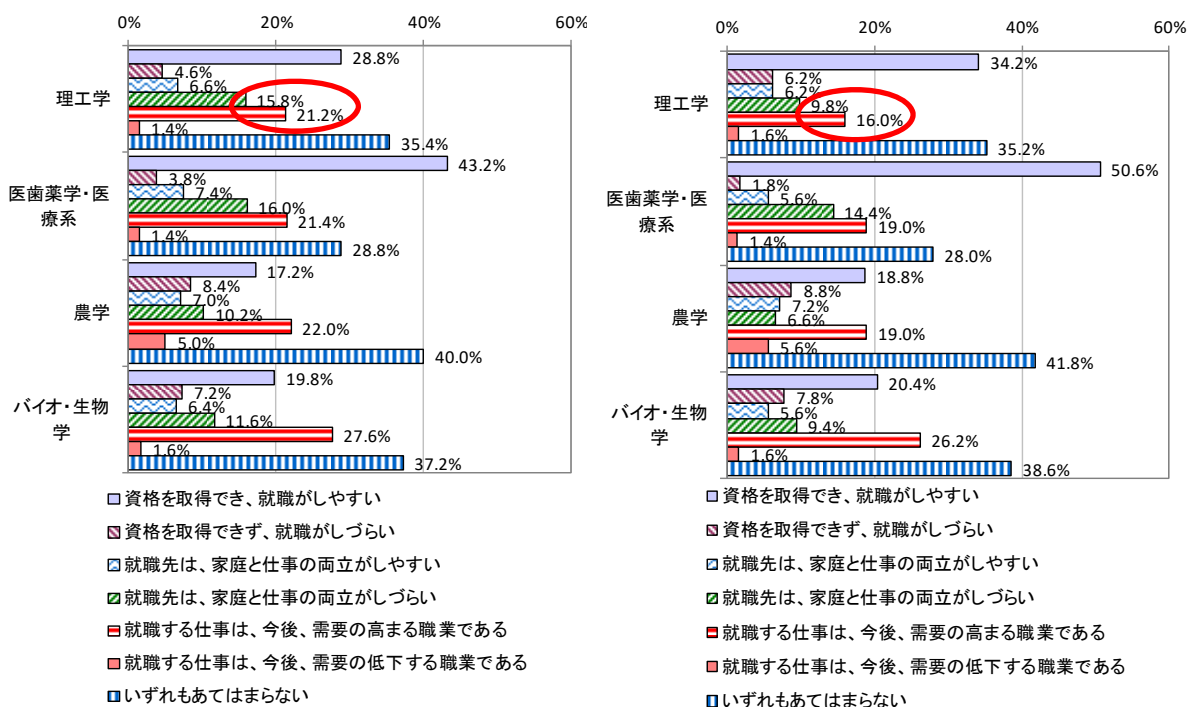
図表 20 子の進路選択に関する情報で、子に伝えるべきもの (n=1,000)



2-1-4 子の将来について

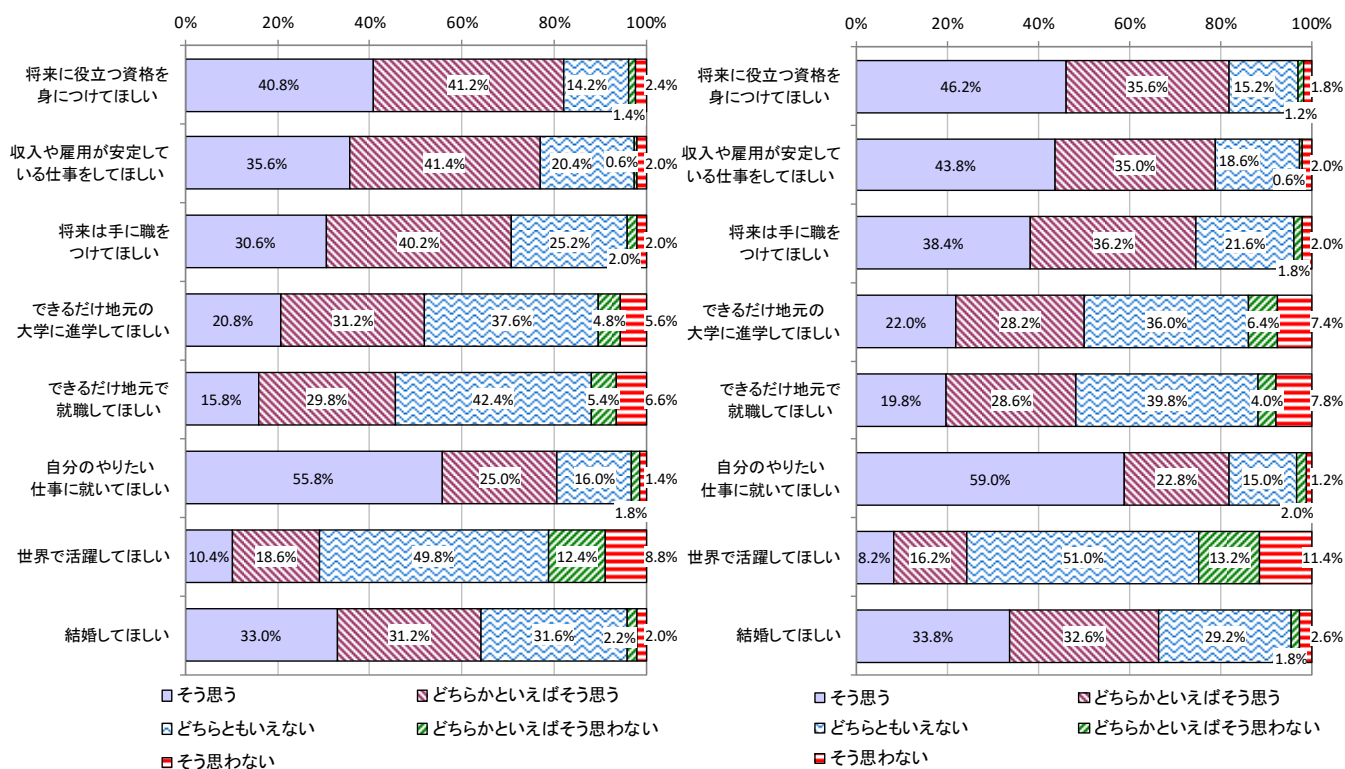
理系の各学問群と就職との関係につき、回答者のイメージをたずねたところ、医歯薬学・医療系は特に「資格を取得でき、就職がしやすい」の割合が高い。理工学に着目すると、「資格を取得しやすい」は東名阪（11都府県）、東名阪（11都府県）以外とも30%前後で比較的高いが、理系の4学問群の中では「家庭と仕事の両立がしづらい」との回答が相対的に多い。また「今後、需要の高まる職業である」も比較的低く、はたらきづらい、また将来性が必ずしも高くない、というイメージを持つ保護者が少なくない。

図表 21 理系の学問と就職のイメージ
(左：東名阪 右：東名阪（11都府県）以外、n=各500)



子の将来についての考えで、それぞれ「そう思う」～「そう思わない」のいずれか、最もあてはまるものをたずねたところ、「将来に役立つ資格を身につけてほしい」、「収入や雇用が安定している仕事をしてほしい」、「将来は手に職をつけてほしい」のいずれも、東名阪（11 都府県）に比べて東名阪（11 都府県）以外の地域の方が、「そう思う」の回答割合が高い。「できるだけ地元の大学に進学してほしい」「できるだけ地元で就職してほしい」は、それぞれ東名阪（11 都府県）で 20.8%、15.8%であるのに対し、東名阪（11 都府県）以外の地域では 22.0%、19.8%と、その差は 5%未満で小さく、地域による差はあまりみられなかった。

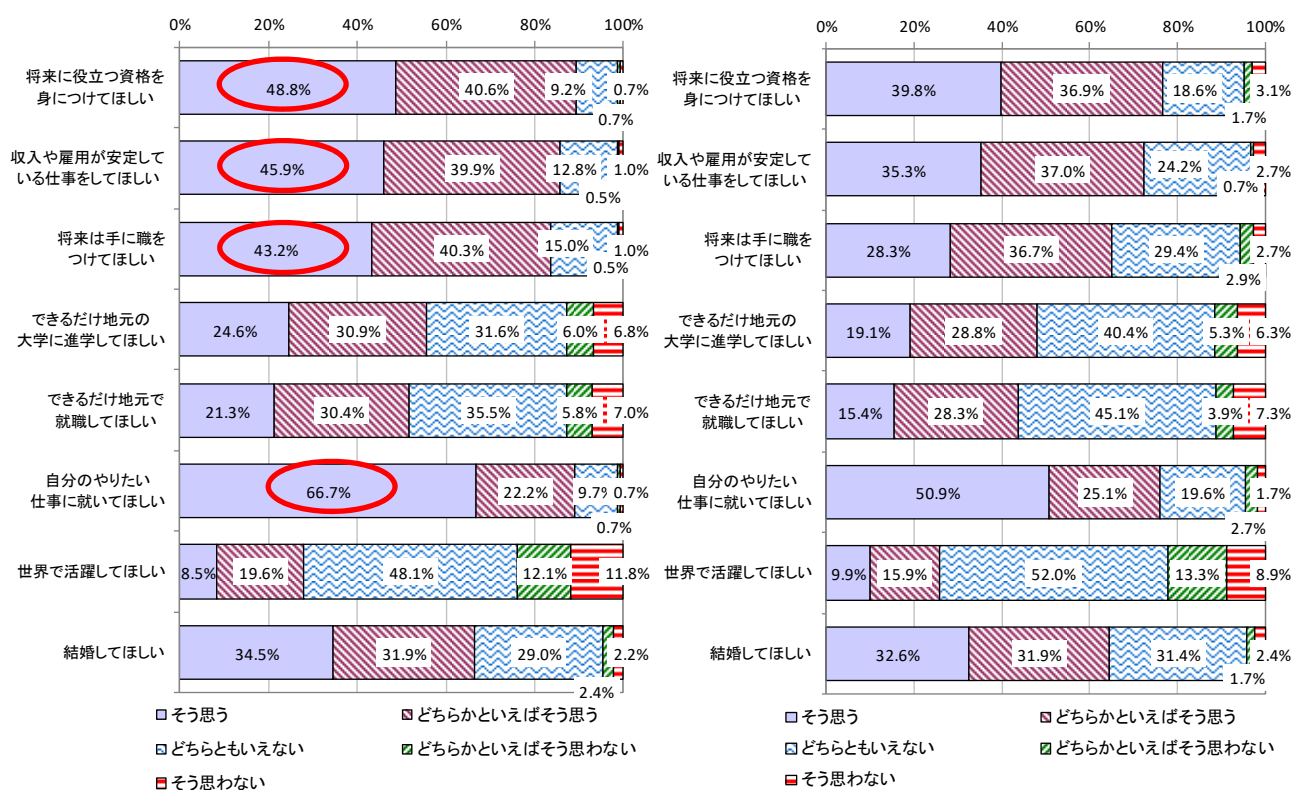
図表 22 子の将来についての考え(左：東名阪（11 都府県）、右：東名阪（11 都府県）以外、n=各 500)



子の将来についての考えにつき、性別に集計した結果をみると、男性に比べ女性の方が、安定志向の傾向が高く、「将来に役立つ資格を身につけてほしい」、「収入や雇用が安定している仕事をしてほしい」、「将来は手に職をつけてほしい」のいずれの回答も、男性に比べ女性の方が「そう思う」の割合が9ポイント以上高い。また、地元志向に関する質問（「できるだけ地元の大学に進学してほしい」、「できるだけ地元で就職してほしい」）についても、男性に比べ女性のほうが「そう思う」の割合が高い。

また「自分のやりたい仕事に就いてほしい」についても、「そう思う」の割合は男性（50.9%）に比べ女性（66.7%）の方が高い。

図表 23 子の将来についての考え(左：女性 n=414、右：男性 n=586)



2-1-5 小括

<属性>

- ・ 回答者（保護者）の最終学歴をみると、東名阪（11 都府県）と東名阪（11 都府県）以外の地域で大卒以上の割合が約 7 ポイント離れている（東名阪（11 都府県）の方が大卒以上の割合が高い。）。ただし、子に期待する最終学歴は、東名阪（11 都府県）と東名阪（11 都府県）以外の地域で大きな差はない。

<子の進路に対する考え>

- ・ 子の進学してほしい学部について、地域別にみると東名阪（11 都府県）の方が、理工系を推す考えが強く、東名阪（11 都府県）以外では医歯薬学・医療系を推す意見が強い。
なお、「本人の希望・意向に任せたい」の回答が半数以上となっている。
また、学部選択理由は、「専門性が高い」、が最も多く、続いて、「就職・転職に有利である」、「本人に向いている」となっている。

<進路等に関する情報>

- ・ 進路に関する情報入手経路としては、学校の教員が最も多く挙げられており、特にその傾向がより顕著である東名阪（11 都府県）以外の地域では、保護者への情報のインプットという観点から、学校・学校教員のルートは重要である。次いで、塾等の先生やスタッフも、東名阪（11 都府県）では多く挙げられた。さらに、保護者間ネットワーク等についても、情報入手経路として多く挙げられた。
また、保護者が重要と考える情報は進学にかかる費用や大学の各学部・学科の基学問内容と学び方の違い等である。進学にかかる費用は、不足している情報としても挙げられている。いずれも地域別にみて大きな傾向の違いは見られなかった。

<理工系へのイメージ>

- ・ 理工系の学問と就職とのイメージをみると、理工系は家庭と仕事の両立がしづらいいというイメージを持たれている。また、今後需要の高まる職業、との認識もあまり持たれていない。

<子の将来に対する考え>

- 子の将来についての考えをみると、女性の方がより安定志向、地元志向を持っている。この点を地域別にみると、「将来に役立つ資格を身につけてほしい」、「収入や雇用が安定している仕事をしてほしい」、「将来は手に職をつけてほしい」といった安定志向は東名阪(11都府県)に比べ、東名阪（11都府県）以外の地域の方が強く、「できるだけ地元の大学に進学してほしい」「できるだけ地元で就職してほしい」といった地元志向に関しては、地域間の回答傾向に大きな差がみられなかった。

2-2 教員調査

2-2-1 回答者の概要

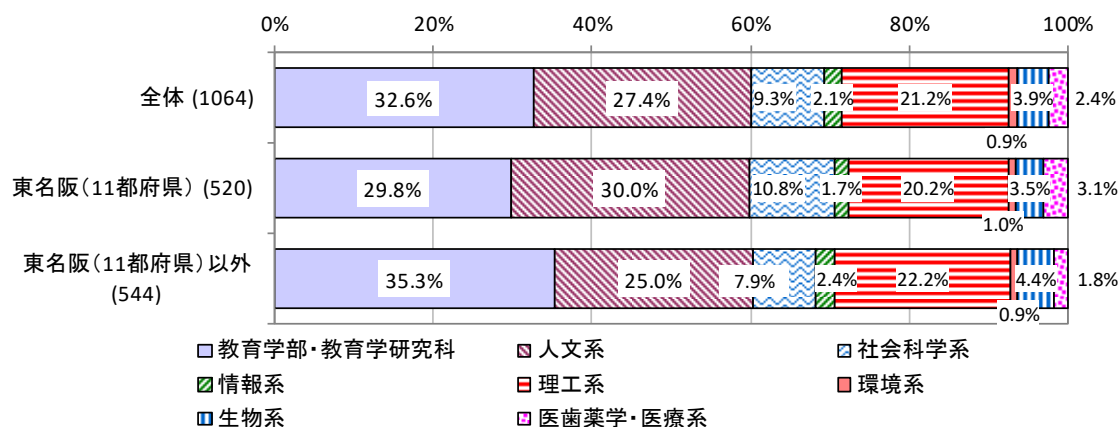
教員調査は共学または女子中・高校の教員を対象として実施し、女子生徒（中学・高校）を子に持つ保護者を対象に実施したものであり、回答者の性別と住所地（東名阪（11 都府県）／東名阪（11 都府県）以外）の割合はそれぞれ以下のとおりである。

図表 24 回答者住所地・性別 (n=1,064)

	全体	女性	男性
全体	1064 (100.0%)	281 (26.4%)	783 (73.6%)
東名阪(11都府県)	520 (100.0%)	146 (28.1%)	374 (71.9%)
東名阪(11都府県)以外	544 (100.0%)	135 (24.8%)	409 (75.2%)

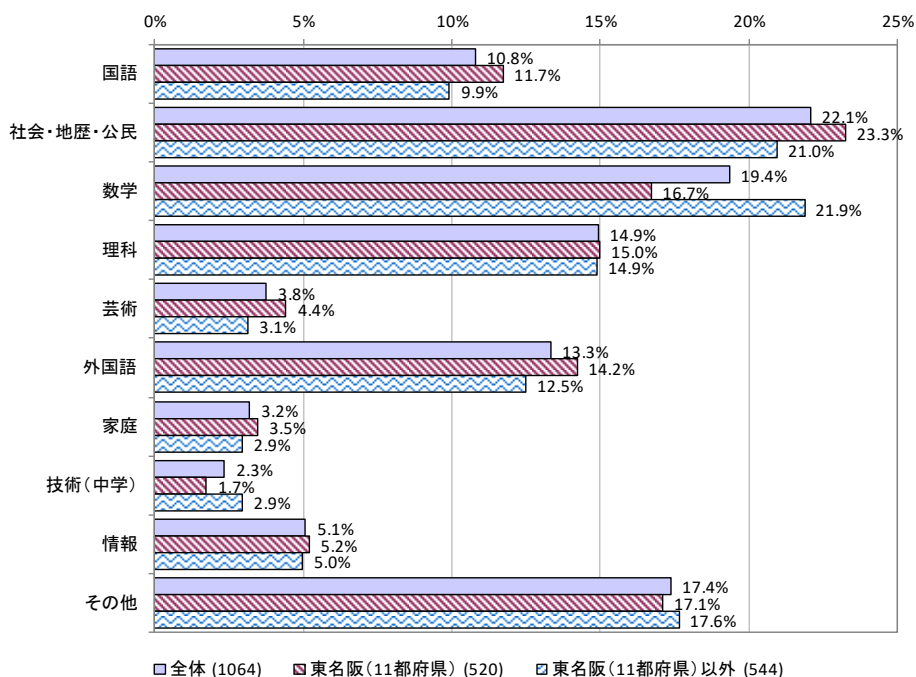
本調査の回答者の最終学歴は以下のとおりである。回答者のうち、およそ3分の1が教育学部または教育学研究科の出身者である。地域別にみると、教育学部・教育学研究科出身者は東名阪（11 都府県）で29.8%であるのに対し、東名阪（11 都府県）以外では35.3%とやや多い。

図表 25 最終学歴 (n=1,064)



本調査の回答者の担当教科は数学が最も多く 19.4%、理科は 14.9%であった。なお、その他は主に保健体育や、高校の専門科（商業、工業、福祉）に関するものであった。

図表 26 回答者の担当教科 (n=1,064)



2-2-2 進路についての考え・情報

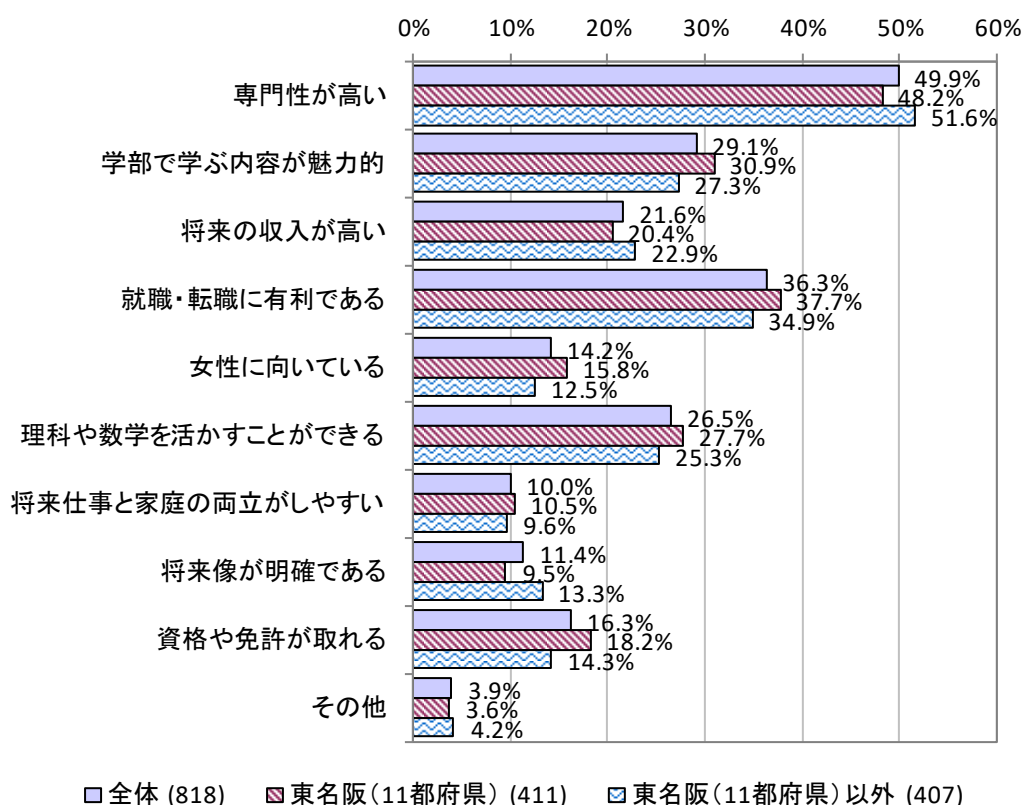
進学するとよいと思う学部については、「特にない」を除くと「理学部」が最も多く、これは地域別にみた場合の東名阪（11 都府県）、東名阪（11 都府県）以外でも共通の傾向である。全体集計や、東名阪（11 都府県）以外の地域では「理学部」の次に「工学部」が多いが、東名阪（11 都府県）では「理学部」の次に「薬学部」、「経済学・経営学部」が多い。

図表 27 進学するとよいと思う学部 (n=1,064)

	全体	理学部	工学部	医学部	薬学部	保健・看護学部	歯学部	農学部
全体	1064 (100.0%)	185 (17.4%)	107 (10.1%)	35 (3.3%)	104 (9.8%)	82 (7.7%)	4 (0.4%)	48 (4.5%)
東名阪(11都府県)	520 (100.0%)	98 (18.8%)	44 (8.5%)	22 (4.2%)	51 (9.8%)	30 (5.8%)	1 (0.2%)	27 (5.2%)
上記以外	544 (100.0%)	87 (16.0%)	63 (11.6%)	13 (2.4%)	53 (9.7%)	52 (9.6%)	3 (0.6%)	21 (3.9%)
	全体	文学部	経済学・経営学部	法学部	社会学部	外国語学部	その他	特にない
全体	1064 (100.0%)	43 (4.0%)	102 (9.6%)	23 (2.2%)	43 (4.0%)	30 (2.8%)	12 (1.1%)	246 (23.1%)
東名阪(11都府県)	520 (100.0%)	26 (5.0%)	50 (9.6%)	15 (2.9%)	22 (4.2%)	17 (3.3%)	8 (1.5%)	109 (21.0%)
上記以外	544 (100.0%)	17 (3.1%)	52 (9.6%)	8 (1.5%)	21 (3.9%)	13 (2.4%)	4 (0.7%)	137 (25.2%)

上掲の学部を選択した理由としては「専門性が高い」が最も多く、次に「就職・転職に有利である」が多い。

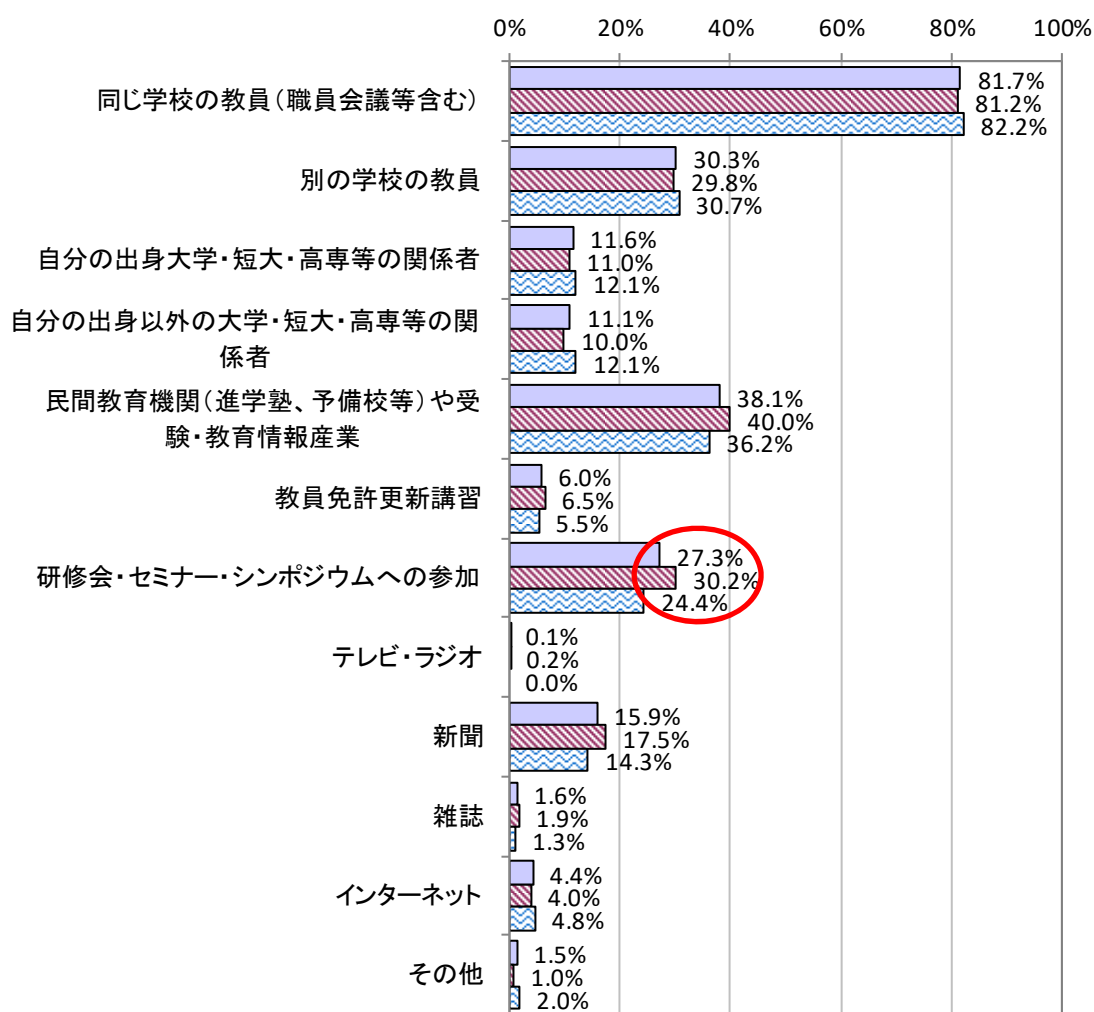
図表 28 進学するとよいと思う学部の選択理由 (n=818⁵)



⁵ 図表 27 で「特にない」を選択した方は回答していない。

進路に関する情報の入手経路としては、「同じ学校の教員（職員会議等含む）」が 81.7%で最も多く、次に「民間教育機関（進学塾、予備校等）や受験・教育情報産業」が多い。「研修会・セミナー・シンポジウムへの参加」は東名阪（11 都府県）で 30.2%であるのに対し、東名阪（11 都府県）以外では 24.4%に留まっている。外部に出向いて情報を入手する、という手段は、東名阪（11 都府県）の方が比較的多く行われている。

図表 29 進路に関する情報の入手経路 (n=1,064)



□ 全体 (1064) ■ 東名阪(11都府県) (520) ▨ 東名阪(11都府県)以外 (544)

進路に関し、教員の立場から「保護者がどのような情報を重視していると思うか」をたずねたところ、最も多かったのは「進学にかかる費用」（56.0%）であり、次いで「大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連」（40.0%）、「新しい入試の仕組み・内容」（39.0%）となっている。

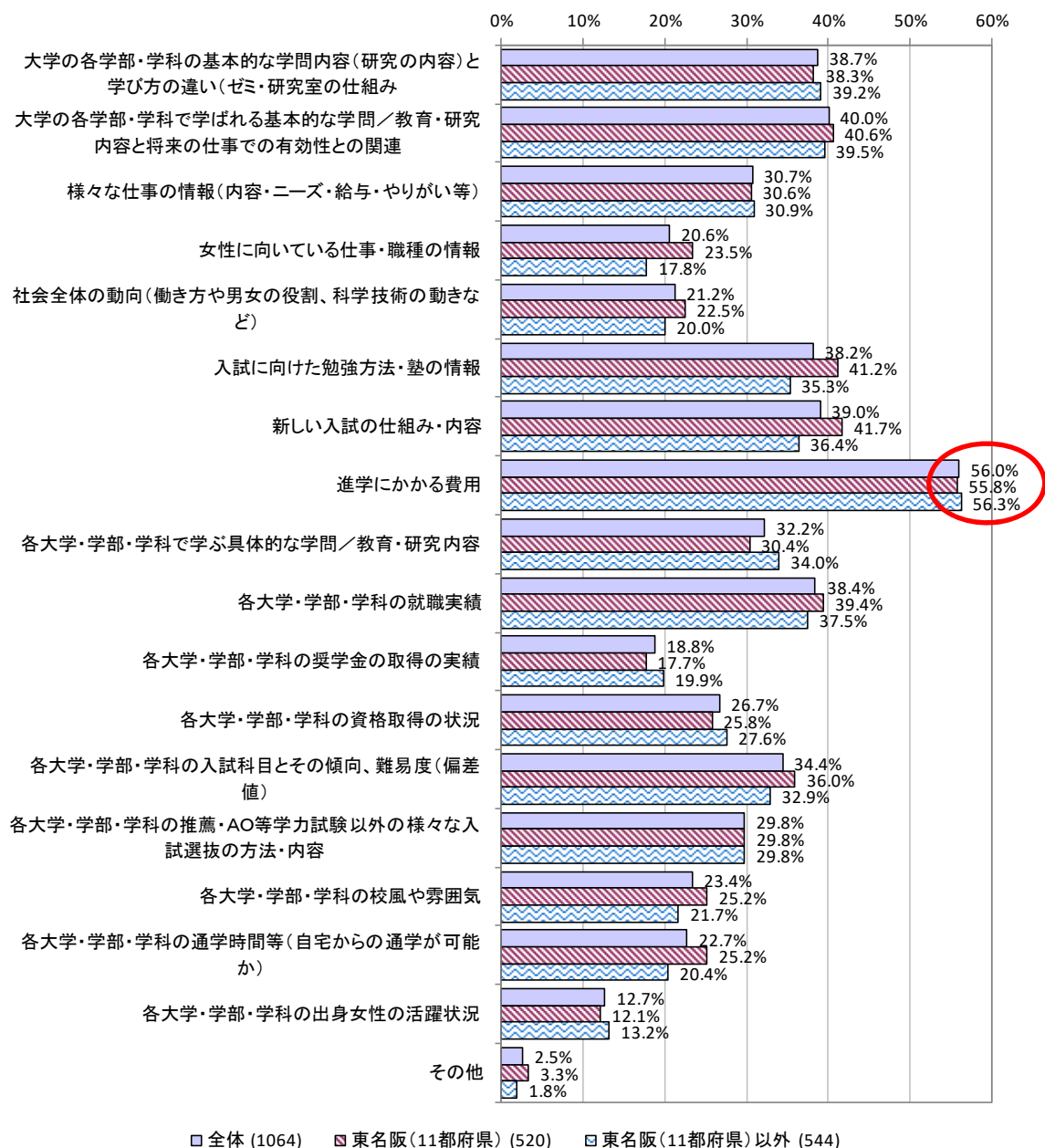
地域別にみると、東名阪（11 都府県）では東名阪（11 都府県）以外に比べ「入試に向けた勉強方法・塾の情報」「新しい入試の仕組み・内容」「女性に向いている仕事・職種の情報」の割合が 5 ポイント以上高くなっている。

また、教員の立場から「保護者に不足していると考えられる情報」としては、「大学の各学部・学科の基本的な学問内容（研究の内容）と学び方の違い（ゼミ・研究室等）」が 26.3%で最も多く、次いで「大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連」「新しい入試の仕組み・内容」（それぞれ 25.9%）、「各大学・学部・学科の女性の活躍状況」（23.4%）となっている。必ずしも保護者が重視していないとしても、女性の活躍情報については保護者にとって不足している（インプットが必要な）情報であると教員からは認識されている。

なお、生徒本人に対して伝えるべきと考えられる情報については、上位 3 件は、保護者に不足している情報と同様であった。

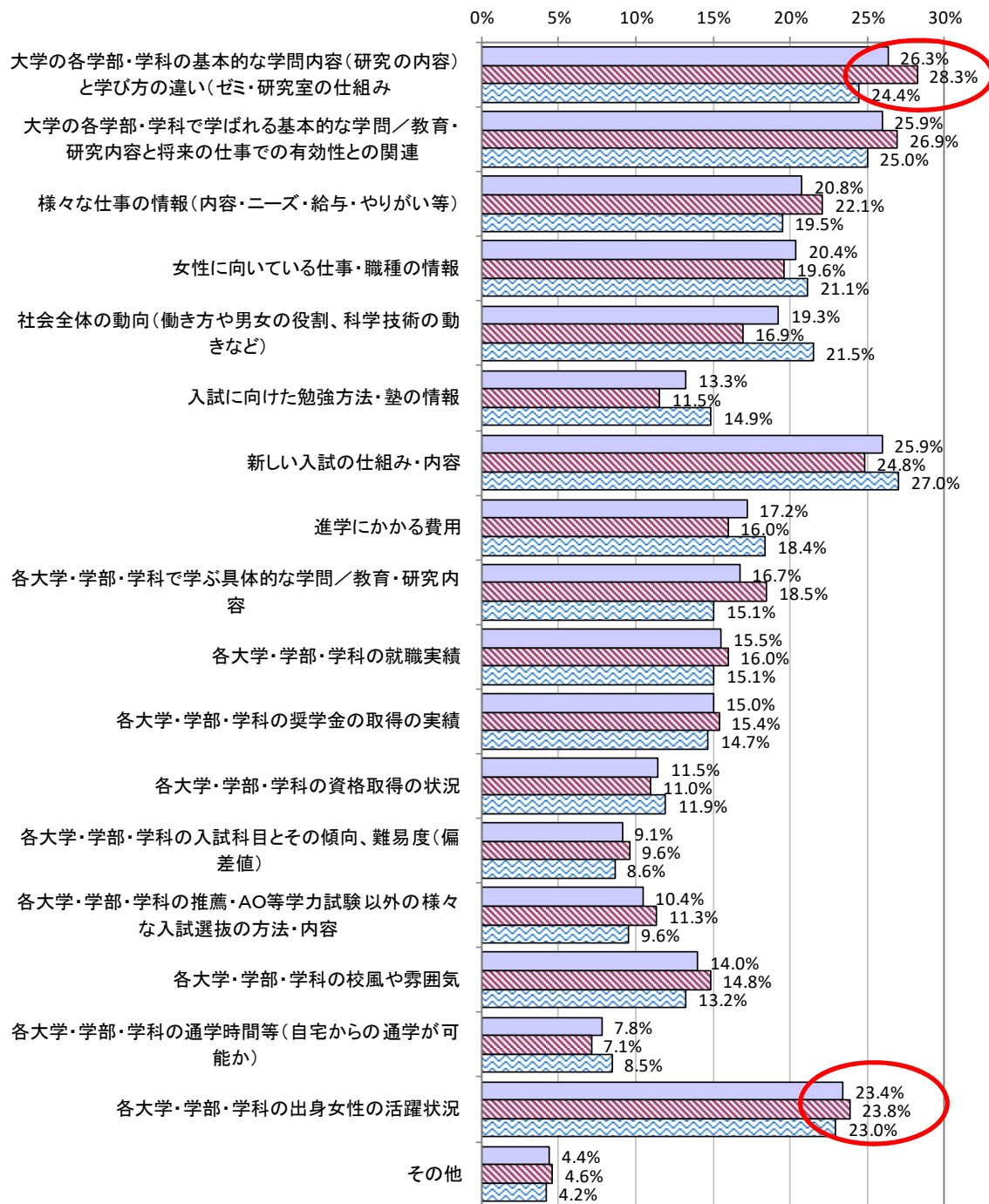
図表 30 教員の立場から「保護者が重視していると考えられる」進路に関する情報

(n=1,064)



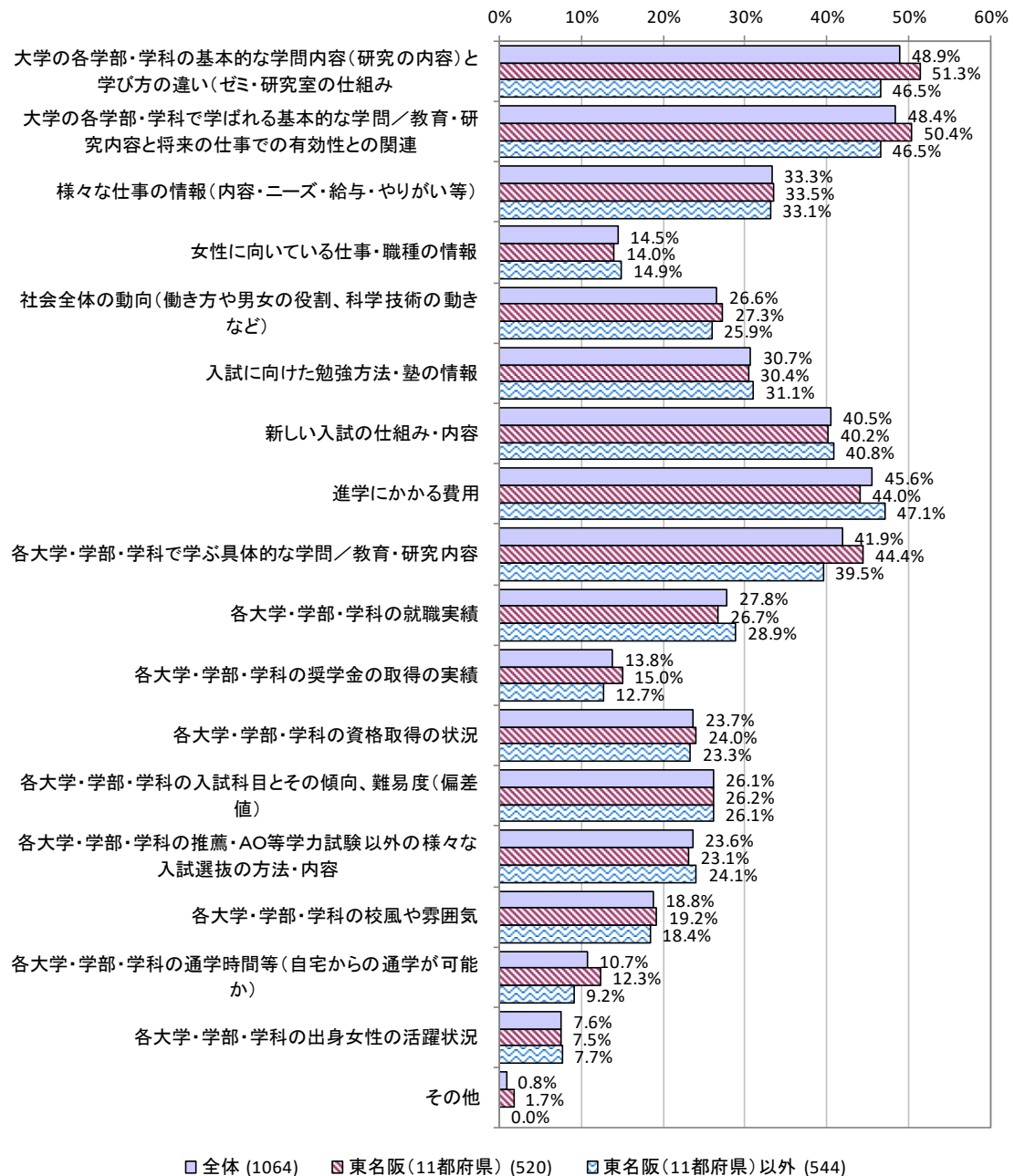
図表 31 教員の立場から「保護者に不足していると考えられる」進路に関する情報

(n=1,064)



□全体 (1064) ■東名阪(11都府県) (520) ▨東名阪(11都府県)以外 (544)

図表 32 生徒に伝えるべきと考えられる、進路に関する情報 (n=1,064)

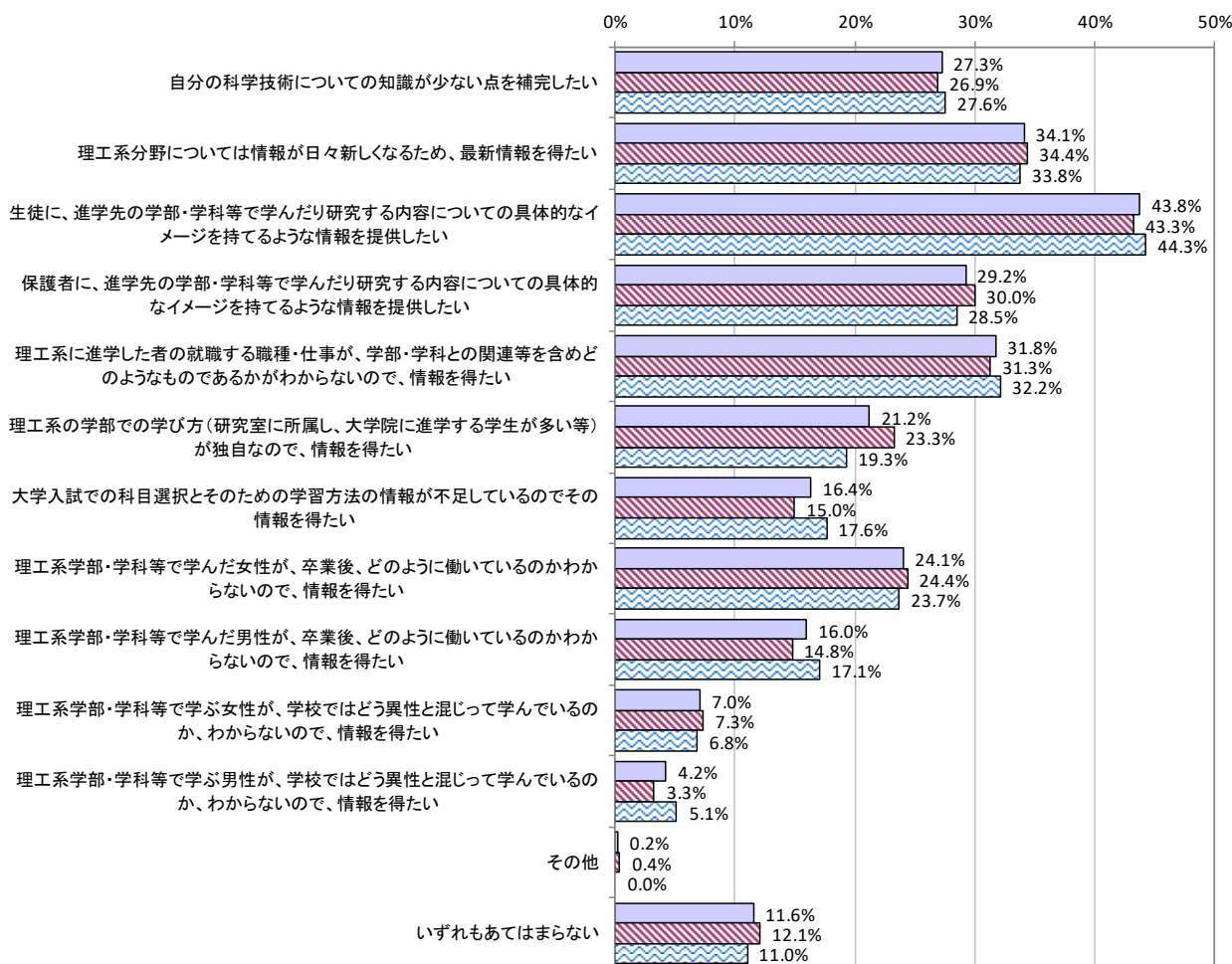


2-2-3 進路指導について

教員の立場から、理工系への進学を希望する生徒への指導に必要な情報についてたずねたところ、「生徒に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい」が43.8%で最も多く、以下「理工系分野については情報が日々新しくなるため、最新情報を得たい」(34.1%)、「理工系に進学した者の就職する職種・仕事が、学部・学科との関連等を含めどのようなものであるかがわからないので情報を得たい」(31.8%)が続いている。

大学での具体的な学習や、その先にある就職の情報、また理工系分野全体への情報についても必要と考えられていることを把握することができた。

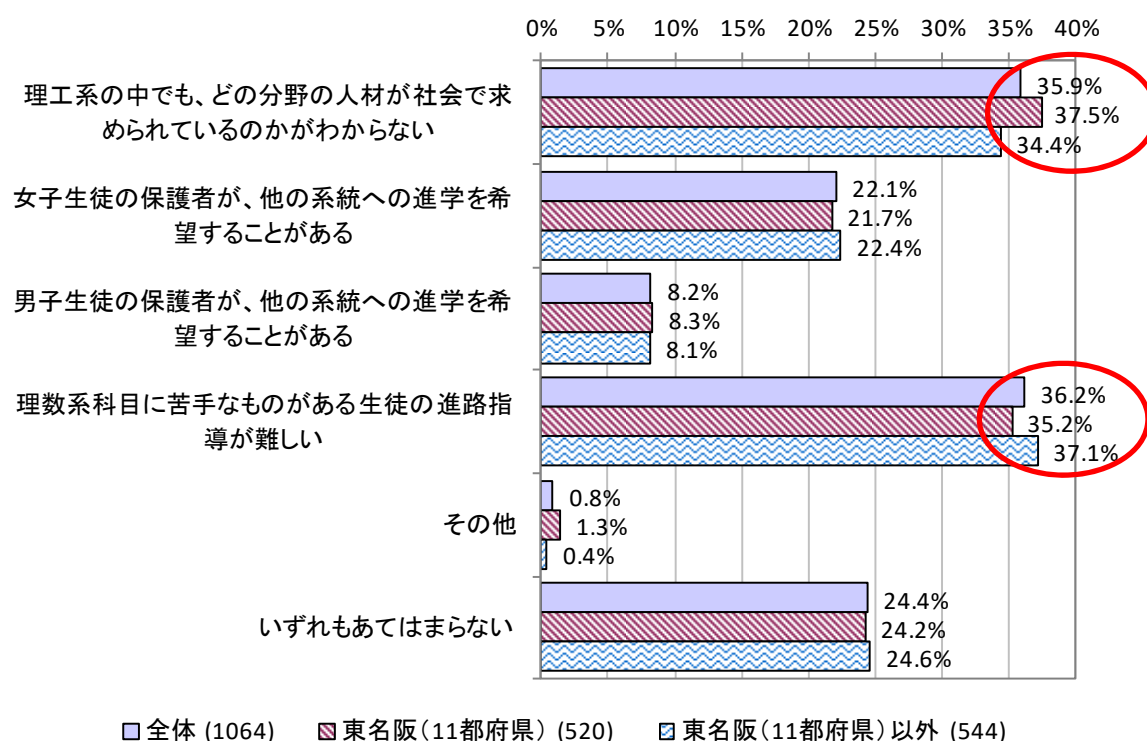
図表 33 理工系への進学をする生徒への指導に必要な情報 (n=1,064)



□全体 (1064) ■東名阪 (11都府県) (520) ▨東名阪 (11都府県) 以外 (544)

理工系への進学を希望する生徒への指導に際して不安な点・苦勞する点についてたずねたところ、「理数系科目に苦手なものがある生徒への進路指導が難しい」(36.2%)、「理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかがわからない」(35.9%)がほぼ同程度の回答割合であった。前者は主に受験指導や、進学した場合の進学先での学習に必要な学力に関わる事柄が主なものと考えられることに対し、後者については、進路指導に当たっ

図表 34 理工系への進学を希望する生徒への指導に際して不安な点・苦勞する点 (n=1,064)



担当教科別にみると、「理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかがわからない」は文系教科担任のみならず、理数系教科・情報担当においても比較的多くの教員が回答している (29.8%)。

図表 35 理工系への進学を希望する生徒への指導に際して不安な点・苦勞する点

(担当教科別、n=1,064⁶)

	全体	理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかがわからない	女子生徒の保護者が、他の系統への進学を希望することがある	男子生徒の保護者が、他の系統への進学を希望することがある	理数系科目に苦手なものがある生徒の進路指導が難しい	その他	いずれもあてはまらない
全体	1064 (1.28)	382 (35.9%)	235 (22.1%)	87 (8.2%)	385 (36.2%)	9 (0.8%)	260 (24.4%)
理数系教科・情報担任	389 (1.28)	116 (29.8%)	89 (22.9%)	34 (8.7%)	157 (40.4%)	2 (0.5%)	100 (25.7%)
文系教科担任	452 (1.32)	188 (41.6%)	102 (22.6%)	40 (8.8%)	170 (37.6%)	6 (1.3%)	89 (19.7%)
その他	223 (1.19)	78 (35.0%)	44 (19.7%)	13 (5.8%)	58 (26.0%)	1 (0.4%)	71 (31.8%)

⁶ 「全体」列における括弧囲み内の数値は、回答者1人あたりの回答件数を示す。例えば、本設問は1,064名の回答者につき、平均1.28個の選択肢を回答している。

2-2-4 小括

<属性>

- ・ 回答者の最終学歴をみると、教育学部・教育学研究科が32.6%で最も多く、次に人文系が27.4%が多い。理工系は21.2%であった。
- ・ 地域別にみると、教育学部・教育学研究科出身者は東名阪（11都府県）で29.8%であるのに対し、東名阪（11都府県）以外では35.3%とやや多い。

<進路等に関する情報>

- ・ 教員が進路に関する情報を入手するにあたっては、同じ学校内の教員（職員会議を含む）からの入手（81.7%）のほか、民間の塾や予備校等、教育産業の情報を活用している場合（38.1%）も比較的多い。シンポジウム等に出向いての情報入手は、そもそも開催されている件数などの環境に違いがある可能性があるものの、東名阪（11都府県）の教員が実施している（全体：38.1%、東名阪（11都府県）：40.0%、東名阪（11都府県）以外：36.2%）。

<生徒の進路に対する考え>

- ・ 進学するとよいと思う学部については、「特になし」を除くと「理学部」が最も多い。これは地域を問わず共通の傾向である。2番目に多かった学部は、東名阪（11都府県）では「薬学部」であったが、東名阪（11都府県）以外では工学部が多かった。

<理工系進学希望者への指導>

- ・ 理工系への進学を希望する生徒への指導にあたっては、進学先で学んだり研究する内容についての具体的なイメージの提供や、その先にある就職の情報、また理工系分野全体への情報を入手し活用したいと考える教員が多い。

<理工系への進学を希望する生徒への指導に際して不安な点・苦勞する点>

- ・ 理数系科目の担当教員は、「理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかわからない」について29.8%が該当している（文系担当教員：41.6%）。理数

系担当教員だからといって、必ずしも理工系人材がどこで活躍できるのか、という実態・動向を把握しているわけではない。

2-3 保護者・教員への両調査結果の整理

保護者調査の小括は2-1-5に、また、教員調査の小括は2-2-4に記載のとおりであるが、保護者調査・教員調査の結果を比較することにより、次のことが明らかになった。

<進路等に関する情報>

- ・ 進路に関し、保護者が重要と考えている情報、教員の立場から保護者が重視していると考えられる情報としては、「進学にかかる費用」がともに上位である点が共通している（保護者 47.8%、教員 56.0%）。そのほか、「新しい入試の仕組み・内容」について、東名阪（11 都府県）の方が、東名阪（11 都府県）以外よりも回答割合が高い点も共通している（保護者（東名阪（11 都府県））：35.4%、東名阪（11 都府県）以外：30.2%、教員（東名阪（11 都府県））：41.7%、東名阪（11 都府県）以外：36.4%）。「各大学・学部・学科の就職実績」については、教員の回答割合が高い一方、保護者の回答割合はさほど高くない（保護者 25.5%、教員 38.4%）。
- ・ また、進路に関し、保護者が不足していると考えられる情報、教員の立場から保護者への提供が不足していると考えられる情報については、「新しい入試の仕組み・内容」の回答割合が高い点は両者に共通した傾向である（保護者 25.2%、教員 25.9%）。他方、「各大学・学部・学科の出身女性の活躍情報」（保護者 10.8%、教員 23.4%）や「社会全体の動向（働き方や男女の役割、科学技術の動きなど）」（保護者 11.4%、教員 19.3%）については教員の回答において、また、「進学にかかる費用」（保護者 29.8%、教員 17.2%）は保護者において回答割合が顕著に高い。
- ・ これら、必要な情報、不足している情報の2つの質問に関しては、保護者回答をみると上位の選択肢がある程度共通している（進学にかかる費用、大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い、新しい入試の仕組み・内容等が上位）が、教員回答では2つの質問で回答傾向に違いが出ており、例えば「不足している情報」についてのみ「各大学・学部・学科の出身女性の活躍情報」の回答が多くなっている。
- ・ さらに、進路に関し、保護者が子に伝えるべきと考える情報及び教員が生徒に伝えるべきと考える情報については、「大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違

い」(保護者 40.6%、教員 48.9%) がともに最も高い。加えて、教員は保護者に比べ、大学の先にある「就職」に着目している割合が高い。例えば、「大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教員・研究内容と将来の仕事での有効性との関連」(保護者 30.3%、教員 48.4%)、「各大学・学部・学科の就職実績」(保護者 17.8%、教員 27.8%) についてはいずれも教員の方が、回答割合が高かった。

<進路・将来に対する考え>

進学するとよいと思う学部について、保護者の回答では「薬学部」が最も多く、東名阪(11都府県)に限ると、「理学部」(16.0%)や「工学部」(14.0%)との回答が「薬学部」(18.0%)に匹敵している。教員の回答は、地域を問わず「理学部」が最も多くなっており、保護者回答において特に、薬学部の期待する考え強い結果となった。

第3章 広報・シンポジウムの実施

本調査研究においては、全国 3 地域においてシンポジウムを開催することとし、具体的な開催地や、登壇者像については、企画委員会で計画を検討した。この検討内容を踏まえ、シンポジウムの開催方針について事務局が調整を行った。

以降に、広報・シンポジウムの検討から開催結果までについて示す。

3-1 広報・シンポジウムの実施

3-1-1 開催地域の検討

シンポジウムを開催する 3 地域を検討するに当たって、大都市圏のみ 3 か所（例えば東京、名古屋、大阪）を選定してしまうと、今後の他地域での開催につき、必ずしも参考に資さない可能性がある点が企画委員会で指摘された。そこで、大都市圏 1 地域、それ以外の地域 2 地域を選定する方針とした。

検討に当たっては、人口のほか、大学進学に対する興味関心の高さを考慮するために大学等進学率（学校基本調査による）を参考としたほか、地域による特性や特徴を把握・分析するとともに、今後、同趣旨のシンポジウムが各地域で企画・開催される際の示唆を得るため、各地域に焦点を当てることとし、地域産業創生の観点も踏まえ、大学進学者の他県への流出率（学校基本調査から計算）を参照した。

その結果、以下の 3 地域を選定した。

- ①東京都（女子の大学等進学率 全国 1 位、 他県流出率 46 位）
 - 大学等進学率が高く、地元進学率も高い地域（特別区⁷）
 - 会場として、駅からの利便性が高い東京工業大学キャンパスイノベーションセンターを設定（港区）

- ②岩手県（女子の大学等進学率 全国 44 位、 他県流出率 25 位）
 - 大学等進学率が低く、地元進学率が中程度の地域
 - 県庁所在地である盛岡市を選定（中核市⁸）

⁷ 大都市の一体性及び統一性の確保の観点から導入されている制度。現在は東京都のみに設定されている。

⁸ 政令指定都市が処理することができる事務の一部につき、都道府県から移譲を受けることができる、人口 20 万人以上の地方公共団体。平成 30 年 4 月 1 日現在、54 市が指定されている。

③長野県（女子の大学等進学率 全国 26 位、 他県流出率 3 位）

→大学等進学率が中程度で、地元進学率が低い地域

→国立大学である信州大学の本部所在地として松本市を選定（一般市⁹）

3-1-2 シンポジウムの企画・検討

シンポジウムの企画・検討に当たっては、第 2 章で示したオンライン調査結果を参考とした。具体的には、保護者調査において「子に知らせるべき情報」として多く挙げられた、「大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い」、「様々な仕事の情報」について、また、教員調査において理工系への進学を希望する生徒への指導に必要な情報として多く挙げられた「生徒に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい」、「理工系に進学した者の就職する職種・仕事が、学部・学科との関連等を含めどのようなものであるかがわからないので情報を得たい」といった内容を充足するため、基調講演及びパネルディスカッションを、本シンポジウムにおけるメインプログラムとして構成することとし、理工系分野で活躍する様々なロールモデルに関する情報や実態に即した情報の提供を可能とするプログラムの企画・検討を行った。

また、前提として、当事業の目的や内閣府が推進する「理工チャレンジ（リコチャレ）」の取組についても、理解向上を図るため、昨年度調査結果等と合わせて内閣府による説明時間を設けることとした。

なお、本シンポジウムの主な対象者は、女子生徒の保護者及び中学・高校の教員とした。

3-1-3 日程の設定

日程については、事業の進捗を鑑み平成 31 年 1～2 月の開催で調整することとなった。その際、試行的な実施であることを鑑み、平日開催の回（2 回）と日曜開催の回（1 回）を開催し、開催日の設定効果が測定できるよう配慮した。

3-1-4 登壇者の検討

登壇者像の設定に当たっては、第 2 章に掲載したオンライン調査結果を参照した。すなわ

⁹ 政令指定都市、中核市以外の市。原則として人口 5 万人以上の地方公共団体である。

ち、女性生徒の保護者及び中学・高校の教員が必要としている情報を提供する、という要請に応えられる人材による情報発信を行うこととした。

具体的には、保護者調査において、進路に関して不足していると考えられている情報や、子に伝えたい情報とされた「大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い」、「様々な仕事の情報」のほか、教員調査において、保護者に不足している情報として指摘された「大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連」の情報発信に適した者として、比較的「女性生徒」に近い年代であったり、大学教員（若手教員）や民間企業で活躍する若手女性であったり、女子生徒の将来像としてイメージしやすい層から登壇者の検討を行った。

3-1-5 広報内容

本シンポジウムの開催に際して、WEB サイトへの情報掲載・SNS やメールによる情報配信、チラシの郵送・FAX 送付や電話等によって周知を図った。

(1) WEB サイト等における情報掲載・参加者募集

平成 31 年 1 月 8 日に、事務局である株式会社リベルタス・コンサルティングの WEB サイトのコンテンツの一つとして、本シンポジウムの申込みサイトを開設した。あわせて、内閣府男女共同参画局サイト内掲載している「リコチャレイベント情報」にシンポジウムの情報掲載を行った。

また、WEB 媒体では、内閣府男女共同参画局の SNS に、株式会社講談社のサイト「Rikejo」に、本シンポジウムに関する情報を掲載した。そのほか、学校法人河合塾が運営するサイト「みんなの教育」及び、同サイトの SNS に、本シンポジウムに関する情報を掲載した。

(2) チラシの作成・配布

シンポジウム名称、会場、開催日時及びプログラムと、申込サイトの URL 及び QR コードを掲載したチラシを作成し、シンポジウム開催地近郊の中学・高等学校宛てに郵送にて送付した。

なお、同チラシは後述の FAX によっても各所に送付している。

(3) 電話・FAX・メール等による案内

上記チラシの配布を行った後、各中学校及び高校に対し、順次チラシの到着確認を兼ねた周知依頼の電話を行い、チラシの到着が不明確な場合には FAX を送付し、改めてシンポジウム概要についてお知らせを行った。

このほか、大学や地方公共団体の男女共同参画関連部署に対してメールにて案内送ったほか、本事業の事務局が協力関係を持つアンケートサイトにおけるモニター登録者のうち、1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）及び長野県在住の女子生徒の保護者向けにメールを配信し、本シンポジウムの概要についての周知・閲覧機会をとった（約4.5万件配信、1万件閲覧）。

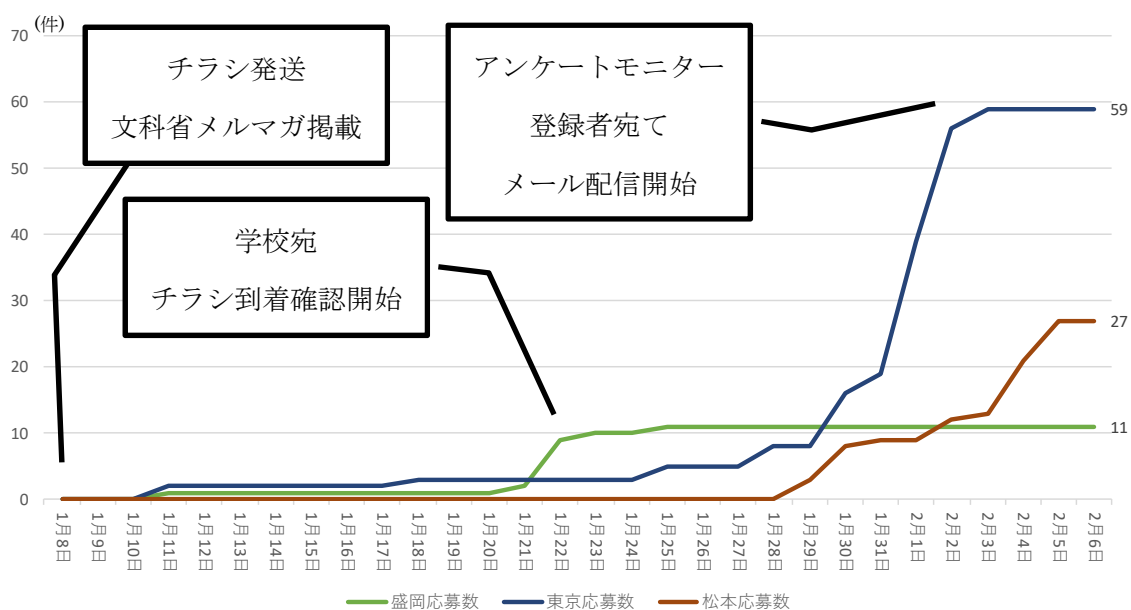
なお、平成31年1月11日に文部科学省初等中等教育局から配信されたメールマガジンに本シンポジウムの開催情報を掲載したことにより、多くの学校関係者に周知されたものと考えられる。

3-1-6 申込者数

本シンポジウムの申込サイト開設後の応募者数の推移は以下のとおりである。

最終的に盛岡会場 11件 東京会場 59件 松本会場 27件の申込受付があった。

図表 36 来場申込み者数の推移



3-2 実施結果（来場者等）

3-2-1 来場者

シンポジウム3会場の来場者数は、それぞれ以下のとおりであった。

	参加者数 ¹⁰
盛岡会場（平成31年1月27日）	28名
東京会場（平成31年2月4日）	37名
松本会場（平成31年2月6日）	44名

次頁以降に、来場者に対して会場にて配布・回収したアンケートの集計結果を示す。

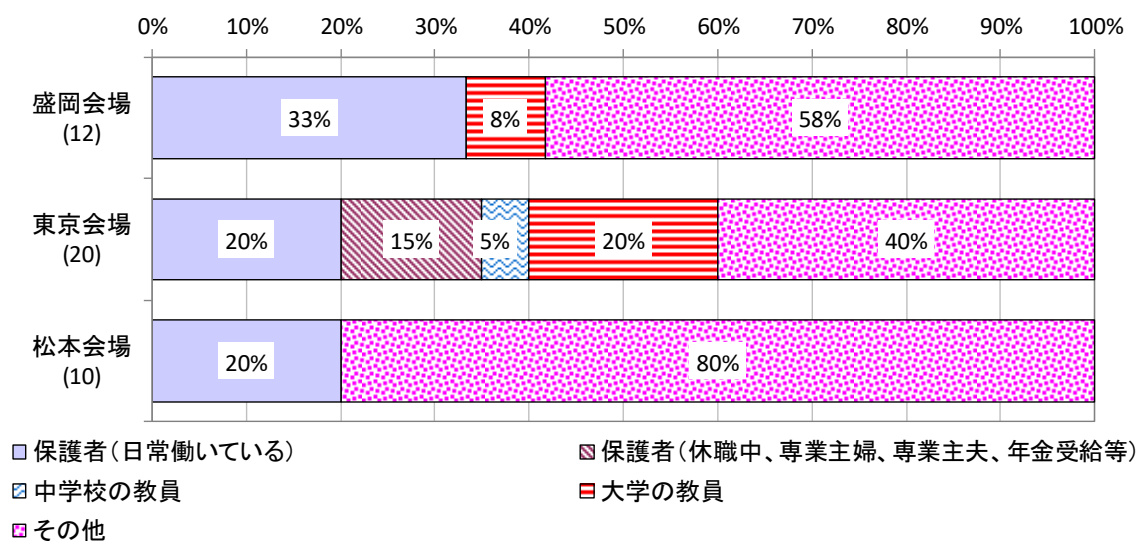
なお、アンケートの回答数は、盛岡会場 12件、東京会場 20件、松本会場 12件であり、質問によって無回答があるため、回答数は設問ごとに異なる。

¹⁰ 参加者には登壇者等を含む。

(1) 来場者の属性

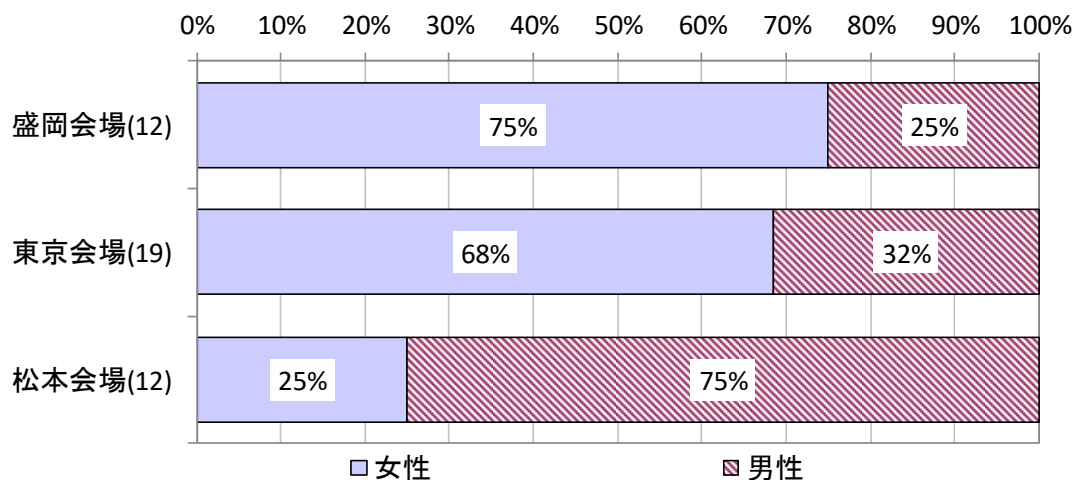
アンケート回答に基づく来場者属性をみると、いずれの会場も「その他」の回答が最も多くなっている。なお、具体的には、盛岡会場では、学生、自営業、教育に取り組む団体、東京会場では、技術者団体、教育関係、公務員、松本会場では、大学関係者、公務員、男女共同参画担当、主婦、(子の)祖母との記載があった。

図表 37 来場者の属性（保護者・教員のいずれであるか）



性別については、盛岡・東京会場では女性が、松本会場では男性が多かった。

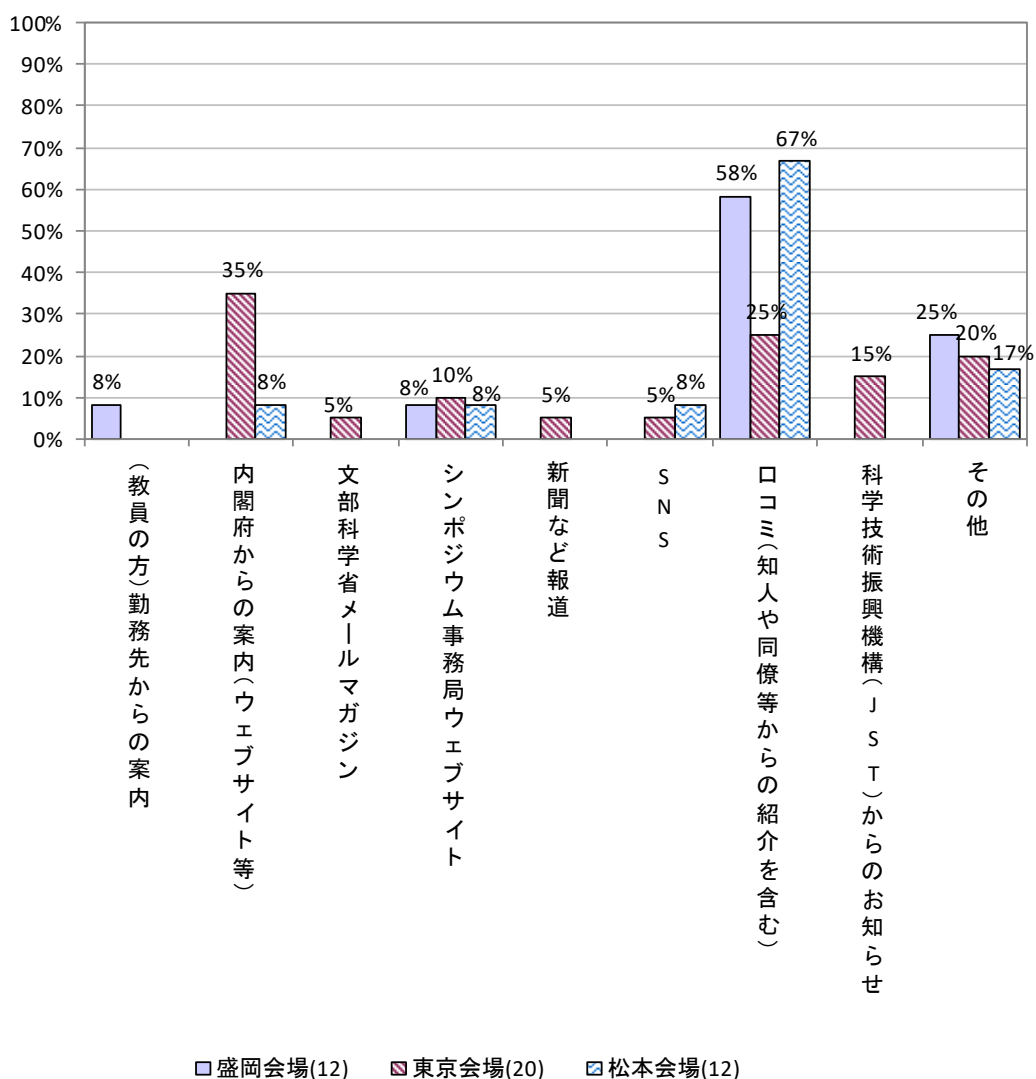
図表 38 来場者の性別



(2) 来場者の来場経緯

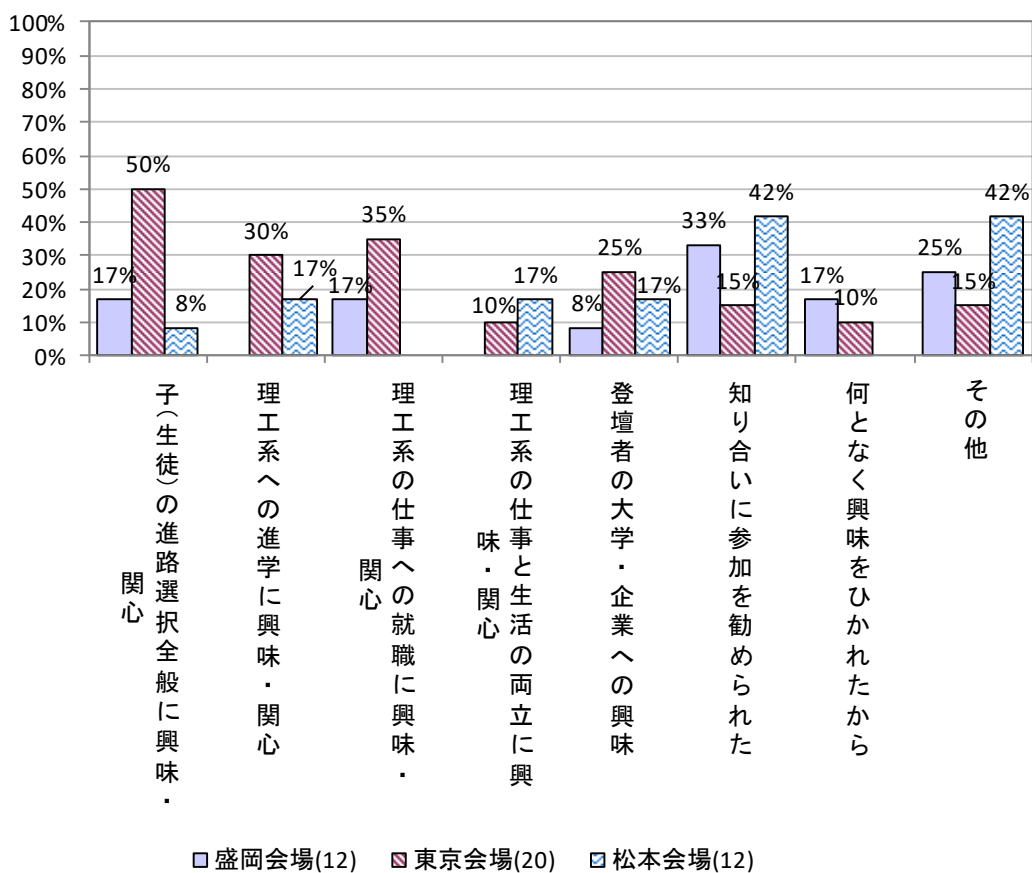
来場経緯については「ロコミ」との回答が盛岡会場松本会場の両会場が多い。多くの学校への郵送・電話・FAXでのアプローチを行ったものの、結果として保護者や教員の参加は必ずしも多くなかった。

図表 39 来場者の来場経緯



来場した理由については、会場ごとに回答が分かれたが「知り合いに参加を勧められた」、「その他」を除くと、東京会場では「子・生徒の進路選択全般に興味・関心」が最も多く、次に「理工系の仕事への就職に興味・関心」が多い。

図表 40 来場者の来場理由

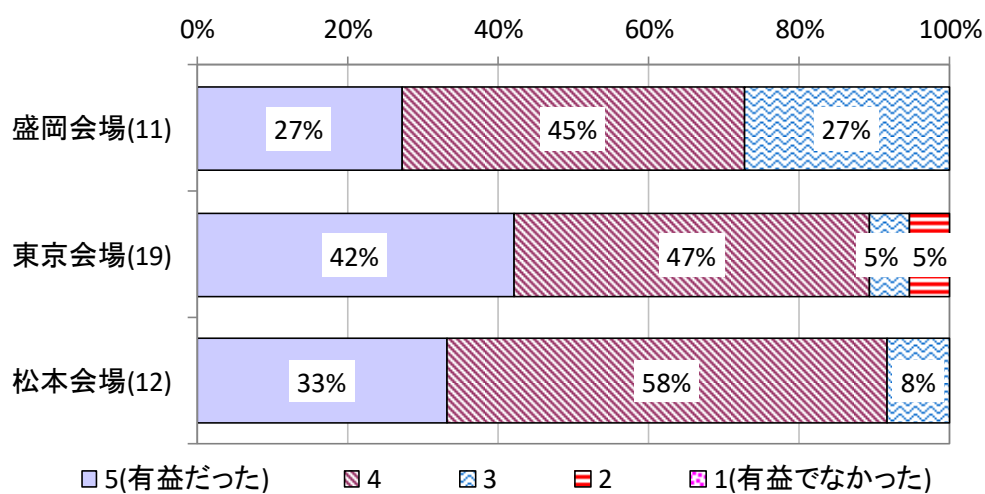


3-2-2 来場者のシンポジウムに対する評価

(1) 全体的な評価

シンポジウム全体に対する評価をみると、いずれの会場も5段階評価で4以上が70%を超えており（盛岡会場：72.8%、東京会場：89.5%、松本会場：91.6%）、来場者にとっては概ね満足いただける内容のシンポジウムとすることができた。

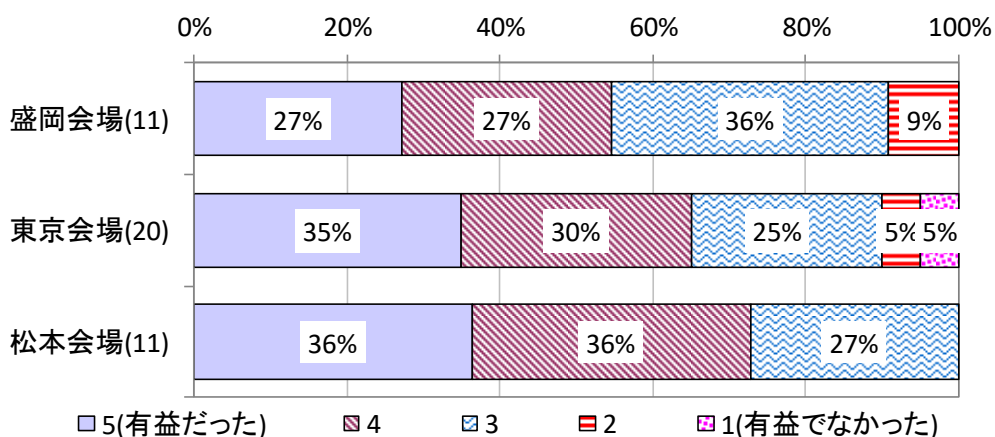
図表 41 来場者のシンポジウムに対する評価(全体)



(2) 内閣府による説明（内閣府挨拶）

シンポジウムのうち、内閣府による説明に対する評価をみると、いずれの会場も 5 段階評価で 4 以上が半数を超えており、東京会場では 65.0%、松本会場では 72.8%で満足度は高い。

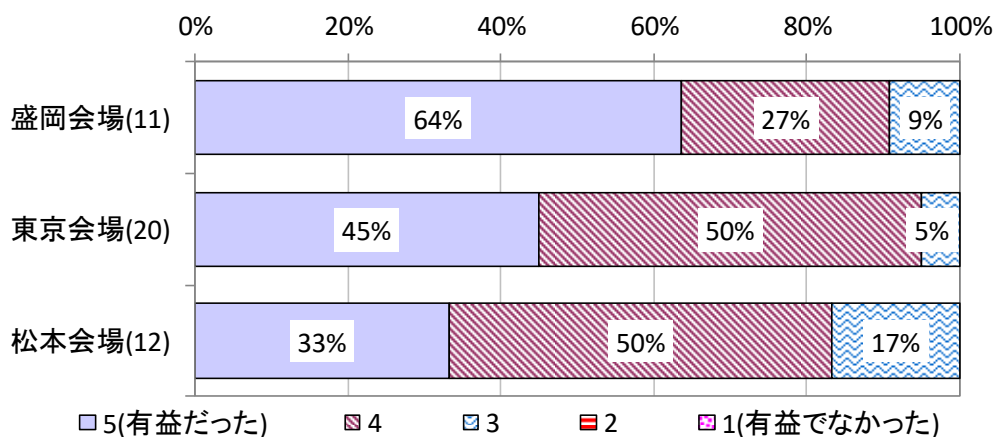
図表 42 来場者のシンポジウムに対する評価(内閣府の説明)



(3) 基調講演

シンポジウムのうち、基調講演に対する評価をみると、いずれの会場も 5 段階評価で 4 以上が 80%を超えている。特に盛岡会場は 5（有益だった）が 63.6%と特に多い。

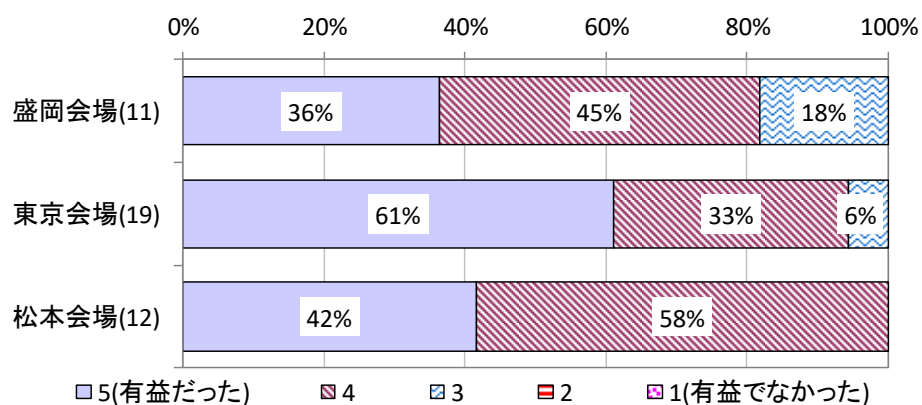
図表 43 来場者のシンポジウムに対する評価(基調講演)



(4) パネルディスカッション

シンポジウムのうち、パネルディスカッションに対する評価をみると、いずれの会場も5段階評価で4以上が80%を超えており、松本会場は全回答が4以上であった。

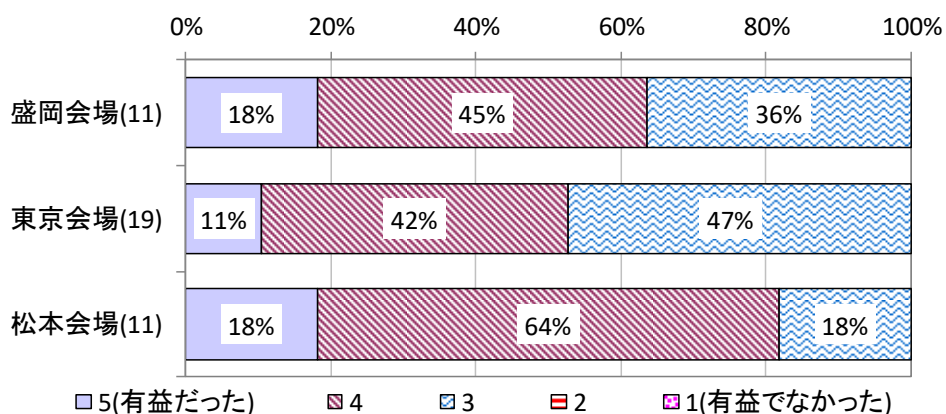
図表 44 来場者のシンポジウムに対する評価(パネルディスカッション)



(5) 配布リーフレット

シンポジウムにおいて、A3 2つ折りのリーフレットを配布した。リーフレットの掲載事項は、大学等における分野別の研究本務者の男女比率（既存統計データ）、進路について、過去に内閣府が実施した「中学生の進路についての悩み」「中学生が進路について情報を得る相手」「将来希望する進路（文系、理系）」について、また理工系分野について今後求められている人材に関するデータ等であった。いずれの会場も5段階評価で4以上が半数を超えていて、概ね好意的な評価であった（配布リーフレットについては第5章の参考資料に掲載）。

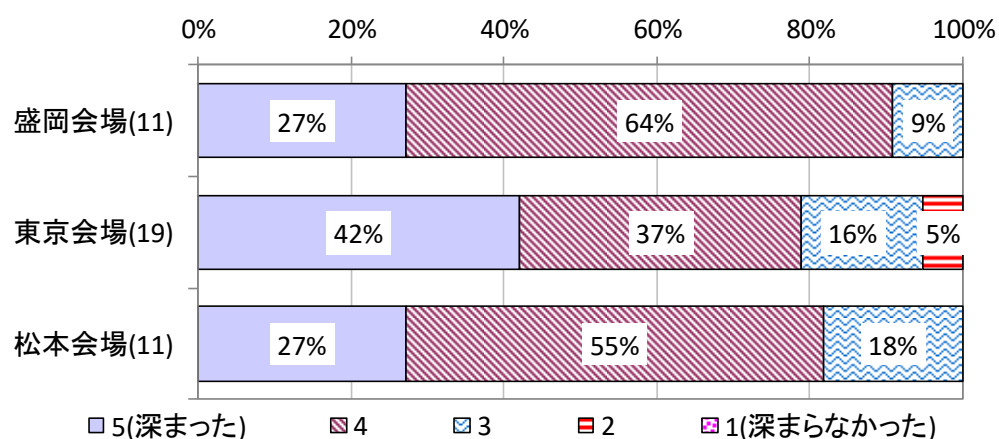
図表 45 来場者のシンポジウムに対する評価(配布リーフレット)



3-2-3 来場者のシンポジウム全体に対する評価

シンポジウムを通し、理工系に対する理解が深まったかをたずねたところ、全体に対する評価をみると、いずれの会場も5段階評価で4以上が75%を超えている。5段階評価で2以下の回答は全会場で1名（東京会場）にとどまった。

図表 46 理工系に対する理解が深まったか



3-2-4 シンポジウムに対する感想や、望む情報発信の内容等に関する自由回答

シンポジウムに対する感想及び望む情報発信の内容等に関する自由回答を、類型別に整理した結果は以下のとおりである。

■ 国・大学等が発信するとよいと思う情報

○ 発信する情報の内容として、「進路指導の在り方」や、「海外で学ぶこと」「奨学金制度」といった意見がみられた。

また、情報発信の手段として、動画による情報配信の実施を求める意見もみられた。

この他、「理系」「女子」というくくりではないやり方での実施、男性の登壇など、多様性を意識した意見もみられた。

<具体的な回答>

- ・ 学校の先生の進路指導も中高生にとって大きい要因です。進路指導の在り方について発信できると良いと思います。(公務員・女性・東京)
- ・ ①海外で学ぶこと ②奨学金制度 ③男子学生向けの進路情報。(日常働いている保

護者・女性・東京)

- ・ 発信そのものが、ある一定の方向づけを答えとしてもっているような発信ならしすぎないで欲しいとも思う。政府の方針を押しついたり、予算に左右されるものは内容のうすさにつながると感じる。(保護者・女性・盛岡)
- ・ 動画で今回のイベントのような話をいつでも見れるようにしてほしい。(その他・女性・東京)
- ・ リコチャレサイトの“先輩からのメッセージ”の充実(今の内容はプアー)。今日のパネリストの方々のように、動画であるいは、肉声で語ってほしい。(保護者・男性・東京)
- ・ 理系女子というくくりではなく進路を考える一環として紹介して欲しい(保護者に届きやすくなる)。(その他・女性・東京)
- ・ 今日結構 TOP の層のお話が多かったと思います。基調講演もとても面白かったですが、「スーパーウーマン」以外の道も示してもらえると、理系進学や「はたらきつづける」ことが、女子にとってもっと「ふつうの選択」になると思いました。憧れを持ってもらうことも大切だとは思いますが、あと、男性のお話もあって良いと思いました。(その他・女性・東京)

■開催時期・時間

- 開催時期については、今回の1~2月の開催よりも、夏~秋の方が参加しやすいとの意見があった。また、夕方や夜間、あるいは土日の開催を希望する意見もみられた。
なお、開催そのものの周知不足を指摘する意見もあり、周知~開催までの適切な期間確保の必要性が示唆された。

<具体的な回答>

- ・ (冬は) 大学が忙しいので、夏~秋が望ましい。(大学教員・男性・東京)
- ・ 昼だと保護者は働いている人が多いので夕方からの時間だったらもっと参加者が大勢参加して、40代の母親として子供の毎日の生活の中で進められた良い話だったと思います。(その他・女性・松本)
- ・ 生徒含む保護者への情報発信ならば、夜間 or 土日の開催では? 内容が良かっただけに参加人数が少なかったのがもったいないと感じた。(その他・女性・東京)

- ・開催についてのアナウンスが足りないのもっと宣伝した方がよい。(多数)
- ・沢山の人が来られる日時にぜひやってほしい。理工系女子に限らず、全体的にとってもためになりました。(公務員・男性・松本)

■今回参加したシンポジウムの構成・内容等

- 来場者の意見は概ね好意的であり、シンポジウム内容等についての理解が深まったとの意見が多くみられた。

構成へのご指摘として、「質問の時間をもっと取ってもらいたかった」とのご意見があった。(一部、時間の都合で質問を打ち切らざるを得なかった)

内容へのご指摘として「文系の大切さにもバランスよく触れてほしい」「もっとサイエンスとしてのおもしろさがある、より興味深い」等のご意見をいただいた。

- ・子ども達の将来に必要な力、求められる力が何か、最新の情報を得られてよかったと思います。(多数)
- ・①“理系なら文系にも戻れる”等のしたたかさ、②学生時代必ずしもこの職に就きたいとの意識が強くなくても良いのかな、等を感じました。“理系”の意識を強くしすぎない方が良いのかなと思いました。(保護者・男性・東京)
- ・冒頭で多様性というキーワードが登場しましたが、全体を通じて多様性の重要性が本当によく理解できました。パネルディスカッションでは、学校で進路を決めることから実際に職を決めるまでの経緯がよく分かりました。(大学教員・女性・東京)
- ・結婚・子育てをしてもキャリアを積み重ねることができることが分かった。(保護者・女性・東京)
- ・理工系の就職先について、多種多様であることをもっと知りたいと思いました。(保護者・女性・盛岡)
- ・文系の大切さにもバランスよく触れてほしい。(その他・男性・東京)
- ・進学先と仕事を結びつけている印象。もっとサイエンスとしてのおもしろさがあるとより興味深い。基礎研究のおもしろさなど、今日の趣旨とは異なるとは思いますが仕事をしている方だからこそその視点も気になりました。(その他・男性・東京)

■リーフレットについて

- リーフレットの内容については、好意的な意見がみられた一方で、より一層の充実を期待する意見、登壇者の情報を詳しく紹介する等の情報追加を求める意見もみられた。

<具体的な回答>

- ・見やすく、デザインもよい。もっとページ数があってもよい（多数）
- ・内閣府の方のご説明を補足してくれる資料があると良かったです。（保護者・女性・東京）
- ・中学生に加え、高校生の進路についての調査等の情報があればもっと有益と考えます（その他・女性・東京）
- ・なぜ女子が理系に進学していかないのか（少ないのか）の分析が不十分（大学教員・女性・東京）

■その他（リコチャレに関する意見など）

- 上記以外の意見として、シンポジウムの対象に関するご意見があり、生徒の参加ができるようなイベントの充実に関するご意見、また保護者向けと教員向けを分離すべきとのご意見をいただいた。

<具体的な回答>

- ・もっと今回のようなイベントに参加することが、中高生にも広がるとよい（その他・女性・松本）
- ・保護者向け、教員向けで分けた方が人が集まるのではないかと思います。広くキャリアを考える機会でもあるので、キャリア教育ともしっかり絡めた展開を望みます。理系の科目の教員よりも進路担当の教員をターゲットにいた方がよいと思います。（その他・女性・東京）

3-3 小括

<広報・来場者>

- ・ 来場者数は当初の想定に達しなかった。これは、広報活動の開始が遅く、シンポジウムの実施までに十分な間隔を確保することができなかったことが一因と考えられる。
- ・ また、来場者のアンケートでは、開催時期（冬でなく夏場の方が、教員は参加しやすいのではないか）、曜日（平日開催でなく土曜日・日曜日の開催が望ましいのではないか）、時間帯（平日開催の場合には日中でなく夜の方が、保護者が参加しやすいのではないか）といった意見がみられた。
- ・ なお、来場者は当初の想定と異なり、保護者や中学校・高校の教員が比較的少なく、大学教員等の来場もみられた。

<シンポジウムの内容>

- ・ 理工系分野で活躍する女性のロールモデル情報の提供を中心に構成したシンポジウムを開催したところ、来場者における内容の有益さ、来場したことにおける満足度等はいずれも概ね高い評価であった。
- ・ 情報発信に当たっては、シンポジウム等の対面形式のイベントのみならず、動画コンテンツとしてイベント模様を配信や、活躍する女性の情報の動画掲載等を増やすべきとの意見が複数みられた。
- ・ また、理系のみでなく文系にも触れる内容にする、女性のみでなく男性にも登壇いただく等、多様性に配慮した構成にする方がよいのではないか、との意見もみられた。

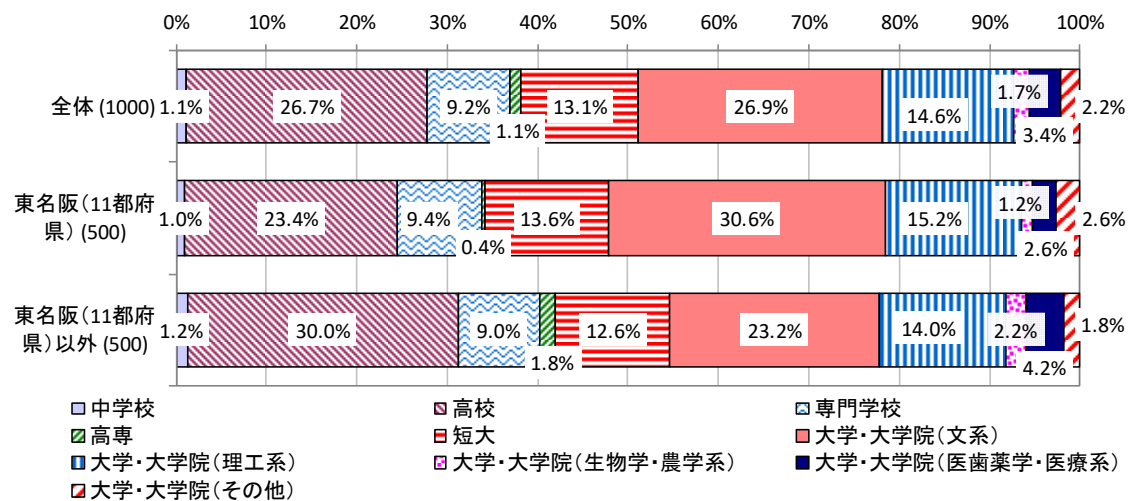
第4章 まとめと課題

4-1 本調査研究における成果

本調査研究における、オンライン調査及び広報・シンポジウムの実施により以下の事柄について把握することができた。

- オンライン調査の回答者（女子生徒の保護者）について最終学歴をみると、東名阪（11都府県）と東名阪（11都府県）以外で大卒以上の割合が約7ポイント離れている（東名阪（11都府県）の方が大卒以上の割合が高い）。そのため、専攻分野を問わず「大学での教育、研究」についての知識の有無について、地域により差が出ていることになる（図表47）。他方で、子に期待する最終学歴は、東名阪（11都府県）と東名阪（11都府県）以外で大きな差はみられず、子の高等教育機関への進学は広く期待されている。

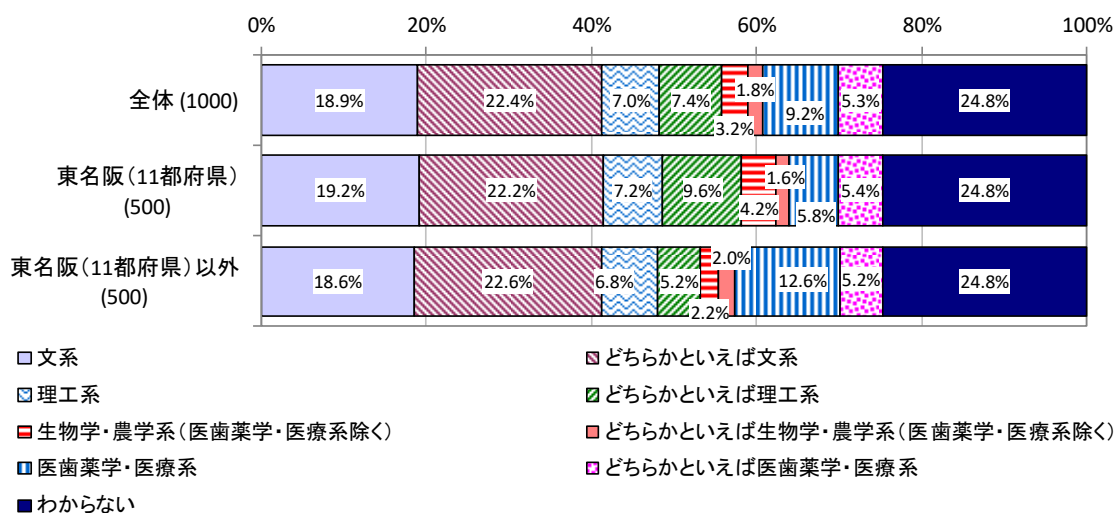
図表 47 再掲：回答者の最終学歴（n=1,000）



- また、子に進学してほしい学部については、地域別にみると東名阪（11都府県）のほうが、理工系を推す考えが強く、東名阪（11都府県）以外の地域では医歯薬学・医療系を推す意見が強い。地域により保護者の理工系に対する選好度合いに差が出ている。

(図表 48)

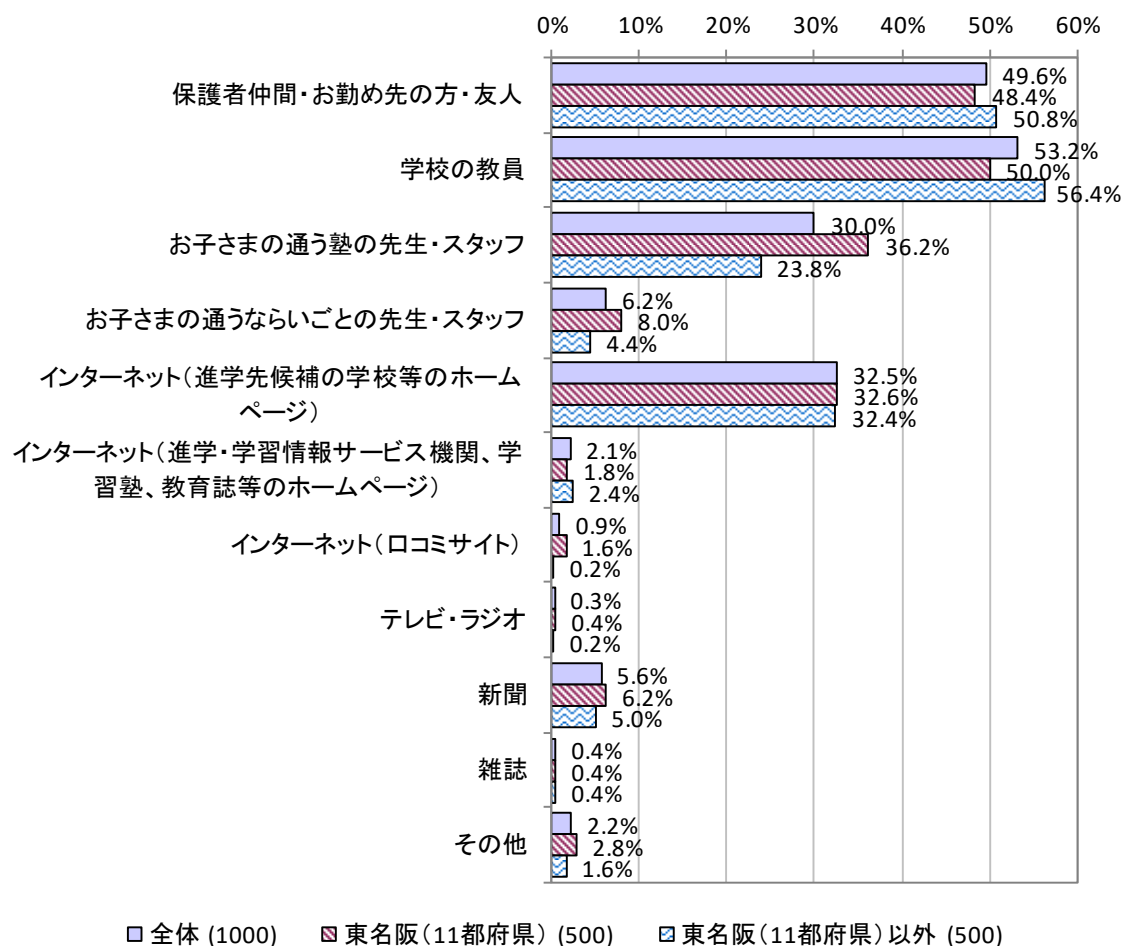
図表 48 再掲：子に進学してほしい進路 (n=1,000、子本人の希望・意向を反映)



(選択肢「本人の希望・意向に任せたい」を選択した場合、別設問「子が希望している進路」の回答をあてはめて再集計している)

- 保護者の進路に関する情報入手経路としては、「学校の教員」が最も多く挙げられた。特に東名阪（11都府県）以外の地域では、その傾向がより顕著であり、保護者に対しては学校教員を介した情報提供を行うことにより、「教員からの提供情報である」との信頼のもとで、保護者に対し情報を伝えるという可能性が示唆された。「塾の先生やスタッフ」は、東名阪（11都府県）で比較的多く挙げられ、東名阪（11都府県）以外の地域でも一定の回答を得ている。しかしながら、必ずしもすべての生徒が通塾しているわけではないことを鑑みれば、通塾している生徒の保護者に対しては塾等を経由した情報提供についても、高い確率で情報収集の対象となる可能性がある。（図表 49）

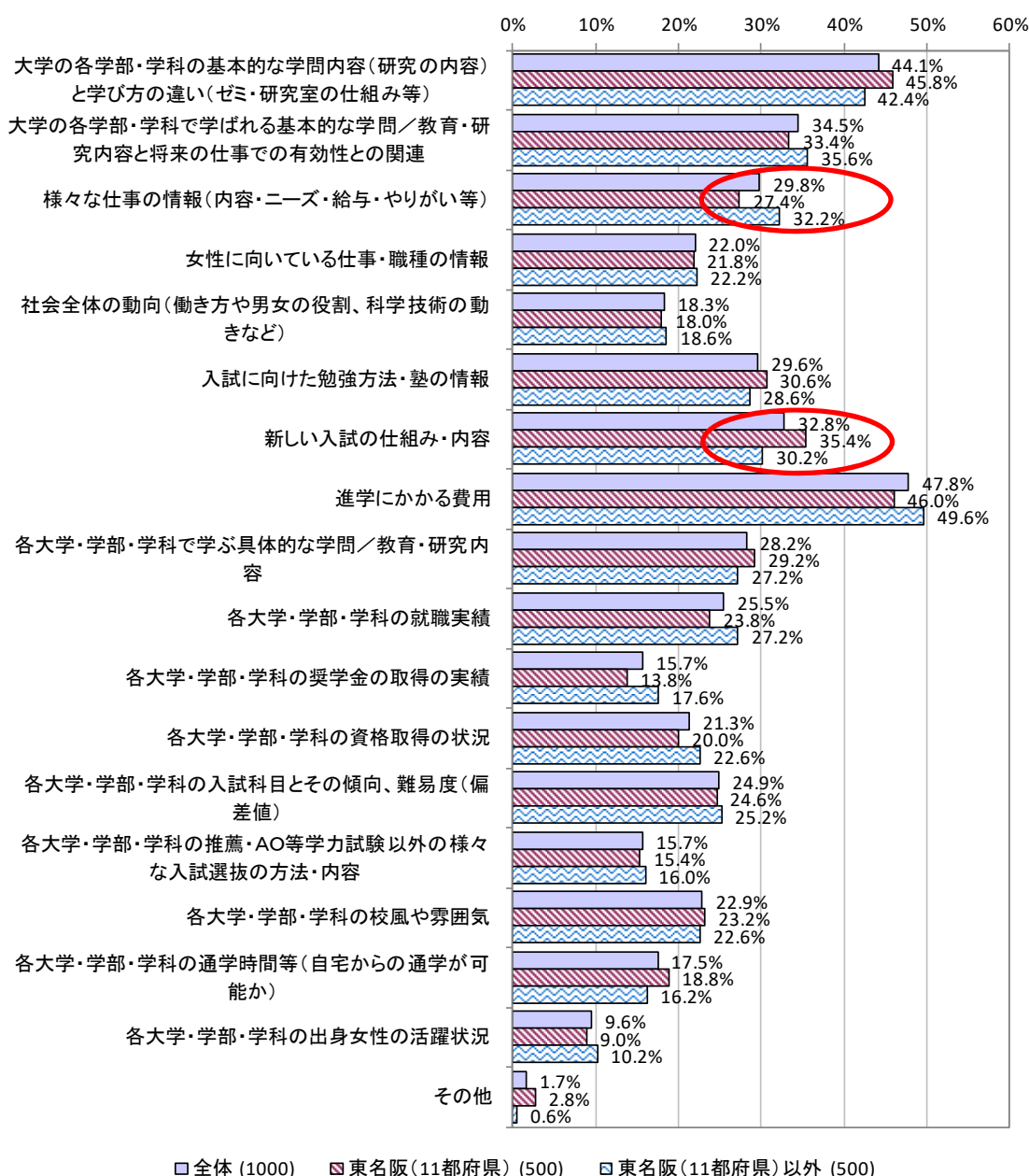
図表 49 再掲：進路に関する情報の入手経路（n=1,000）



- ・ 保護者が重要と考える情報は進学にかかる費用や大学の各学部・学科の基本的な学問内容と学び方の違い等である（図表 50）

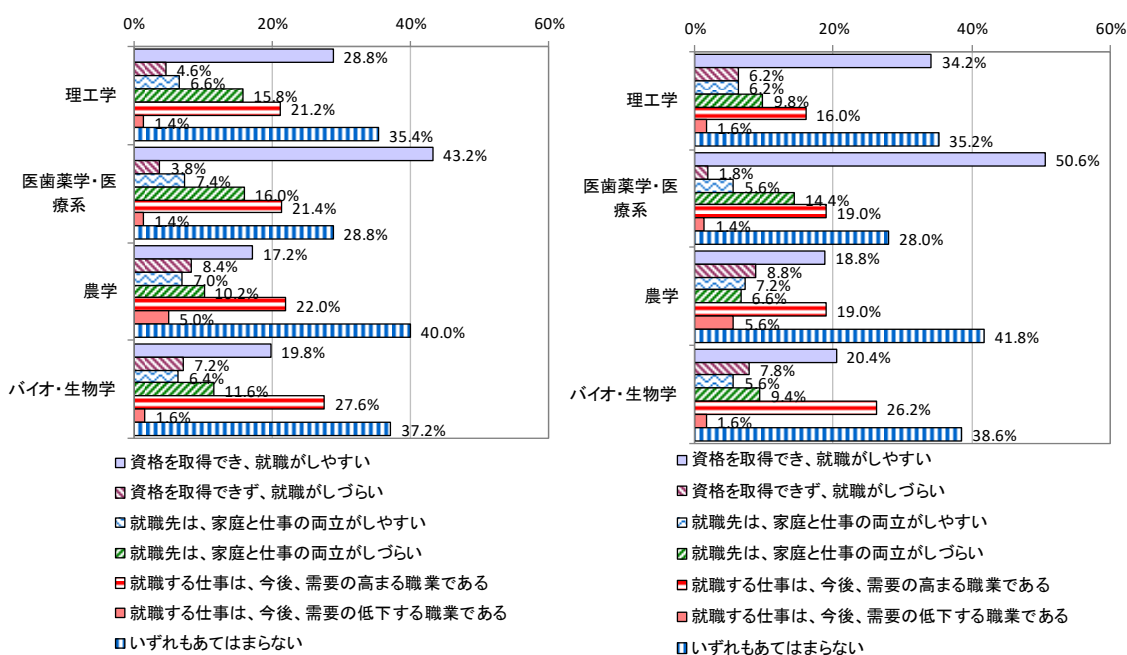
進学にかかる費用は、不足している情報としても挙げられている。上掲のように、今回の調査対象者においては地域によって最終学歴の分布に違いがあるものの、これら保護者が重要と考える情報について、地域差はさほど見られない。そのため、保護者の最終学歴と、保護者が重要と考える情報の間にも、関係性はあまりみられないものと考えられる。

図表 50 再掲：子の進路選択に関する情報で重要なもの（n=1,000）



- 理工系の職種、職場については、これからのダイバーシティ社会において、女性だけ、男性だけでなく多様な人材の活躍が求められる。しかし、保護者が持つ理工系の学問と就職とのイメージについて「理工系は仕事と生活の両立がしづらい」というイメージを持たれている。また、「今後需要の高まる職業」との認識はあまり持たれていない（図表 51）。現在、これらを解決すべく行政や業界団体のみならず、各社個別にも働き方改革、仕事と生活の調和の実現のための取組が進められているところであり、働き方の実態や、産業界における人材ニーズ等について、適切な情報発信が必要と考えられる。

図表 51 再掲：理系の学問と就職のイメージ
 (左：東名阪（11 都府県） 右：東名阪（11 都府県）以外の地域、n=各 500)



4-2 本調査研究の課題・今後の方針

4-2-1 保護者や教員に対する情報提供について

本調査研究では、オンライン調査結果等に基づき、各種広報やシンポジウムの開催といった情報発信・提供を保護者や教員を中心に実施した。以下、情報発信・提供を中心に、保護者や教員へのアプローチに関する整理を行う。

	分類	今回調査研究における結果	本知見の今後の利活用
1	オンライン調査	10 日程度と限られた期間の中で、生徒の保護者、中学校や高校の教員各 1,000 件以上のオンライン調査の回答を集めることができた。	限られた期間・予算の中で、広く実態や意見を把握するための調査手法として、保護者等に対しても有効な手法である。 場合によっては、郵送により調査票を配布したうえで、回答のみオンライン調査手法により受け付けるといった方法も考えられる。(アンケート回答の電子データ化等の時間が短縮できる)
2	周知広報の方法	シンポジウムの開催周知のため、 ①WEB、②電話・FAX・郵送、 ③メールマガジン等の手法により周知活動を行った。特に、主に開催地域の近郊の中学校・高校を中心に、シンポジウムの開催を案内するチラシを送付し、電話などによるご案内を行ったものの、保護者や学校教員のシンポジウム参加者の多数確保には至らなかった。	シンポジウムの主たる対象者として保護者と中学校・高校教員の 2 者を設定したが、中学校・高校向けのチラシの送付は、後者に直接的な案内として、その学校に通う生徒の保護者への伝達も期待したものの、必ずしも家庭、あるいは学校内での周知が図られたとは限らない。 シンポジウムの開催に当たり、余裕を持った広報を図るとともに、学校以外(例えば教育委員会や、地域の塾・予備校等の協力を取り付けるなど)の

	分類	今回調査研究における結果	本知見の今後の利活用
			<p>綿密な調整も必要と考えられる。</p> <p>このほか、例えば地域の特性に合わせた情報媒体（例えば地方放送局や地方紙といったマスコミ、地方公共団体の広報紙等）を活用することも検討するべきである。</p>
3	周知広報の内容	上記のとおり、周知広報に当たってチラシを作成し、学校等への配布を行った。	<p>チラシの内容についても、学校側が配布しやすいような情報を掲載するよう配慮する必要がある。例えば「ロールモデルの提示」は、プログラム内容とすることは有益であったとしてもタイトルとして中学校・高校では馴染みがない。</p> <p>また、理工系女子にフォーカスしたイベントである、という見せ方をすることは、学校現場において周知のしづらさを発生させてしまうおそれがある。</p>
4	シンポジウムのスケジュール	今回のシンポジウムは1月初旬より参加申込みWEBサイトを開設し、1月下旬から2月上旬にかけて3回（うち1回が日曜日、2回が平日）、いずれも午後1時台から開催したが、多数の集客に至らなかった。	<p>十分な周知期間を経てからのシンポジウム開催とならなかったことで、集客が捗らなかった点は否めない。少なくとも2か月以上の十分な周知期間を確保する必要がある。</p> <p>また、受験等の時期を避け、学校教員の参加を促す意味では第2・第3四半期に開催する、保護者の参加を促す意味では平日を避け、土休日に開催するといった方法も考えられる。</p> <p>なお、多くの学校では、年度当初に</p>

	分類	今回調査研究における結果	本知見の今後の利活用
			は年間スケジュールが確定しているため、予定を確保する観点から、年度当初に学校あてに日程を告知できるようにしておくことが望ましい。
5	シンポジウムの内容	<p>今回開催したシンポジウムの内容は、主に基調講演・パネルディスカッションにより、理工系分野で活躍する女性のロールモデルを提示する手法をとった。</p> <p>また、理工系女子に関する調査結果等を示したリーフレット（A3・2つ折り）を広報資料として作成し、シンポジウム当日、会場で配布した。</p>	<p>シンポジウム参加者に対するアンケートからは、今回の内容については概ね「有益であった」という回答が得られた。また、今回のシンポジウムへの参加により、理工系に対する理解が深まったとする回答が多数であった。</p> <p>なお、配布したリーフレットについても半数以上のアンケート回答者が「有益であった」と回答している。</p> <p>以上から、ロールモデルの提示や、定量データ等の提示という今回の内容は妥当であり、今後の類似のイベントを開催する場合にも有効と考えられる。</p>
6	情報発信の方法	<p>情報発信手段今回の情報発信は、「シンポジウム」の形式で実施し、事前に募集を行ったうえで、実際にご来場された方のみを対象とし、情報を提供した。</p>	<p>シンポジウム参加者にとっては有益であり、理解を高めることができたものの、多くの方にリコチャレの取組み、また理工系女子の進路選択に関する情報を知っていただくためには、インターネットでの動画配信も有効と考えられる。</p>

4-2-2 よりよいシンポジウムの開催に向けての検討

前項 4-2-1 では、本調査研究において実施したシンポジウムにおいて明らかになった事柄と、その課題を直接的に対処する方法について整理した。

本項では、課題の対処のみならず事業効果をより一層高める観点での、シンポジウムの実施の方向性について整理する。

(1) 地域や対象者に合わせたシンポジウムの企画

前項 4-2 整理表の 1 にも示すように、シンポジウムの対象となる方の属性、背景となる情報や知識は個人差があるのはもちろんのこと、地域によっても大きな差がある。そうであるならば、シンポジウムの内容はもちろんであるが、例えば「どのような規模、あるいはどのような会場が適切であるか」「どのような組織あるいは媒体を活用すると、周知が効率的に行えるか」といった、企画の段階から地域の実態・実情を勘案すると、地域ごとにカスタマイズしたシンポジウムが実現可能となる。

企画段階で、開催地域の教育委員会や学校、塾・予備校等の教育機関、PTA 団体など、地域で教育に取り組まれる方々のご意見を取り入れることによって、事業効果をより高めることができるのではないかと考えられる。

また前項にも記載したように、来場者を保護者と想定する場合には、例えば開催日を土休日にして有業者が来場しやすくするといったように、想定来場者が参加しやすい日程について検討の上で、開催日を検討すべきと考えられる。

(2) 発信する情報

今回開催したシンポジウムでは、理工系分野で活躍する女性のロールモデルの提示に主眼を置いた。来場者アンケートにおいては、理工系分野で活躍する女性のロールモデル情報の提供について満足度は高い一方で、理系のみでなく文系にも触れる内容にする、女性のみでなく男性にも登壇いただく等、多様性に配慮した構成にする方がよいのではないか、との意見や、「スーパーウーマン」以外の道も示してもらえると、理系進学や理系分野で働き続けることが普通の選択になると思うとの意見もみられた。

また、来場しなかった方からの意見として、自身の子は「数学が苦手である」ということで理工系への進学に興味を持っていない意見もみられた。

女子学生の理工系分野への進学を選択肢として考えるきっかけを作ることが今回

開催したシンポジウムの目的であることからすれば、元々理工系分野に進学することを考えている生徒や保護者等に対してだけでなく、より幅広い層に関心を持ってもらえるような情報を発信することも重要と考えられる。今回のシンポジウムの登壇者には「もともとは数学が苦手、国語が好き」というような登壇者もあり、そうした登壇者の話を聞いていただくことも有効であると考えられる。

なお、来場した方、来場しなかった方からの意見いずれにおいても、いわゆる高偏差値でない身近な大学等の進学を目指す生徒をイメージできるような内容を求める意見や海外の学校への進学に関する興味に関する意見もあった。今回のシンポジウムにおいては、そうした関心に対応する情報を十分に伝えられなかった可能性がある。来場者が情報を得やすいよう、予めシンポジウムの申込みを受け付ける段階で、講演内容をより具体的に提示できれば、情報を見た方に対し「シンポジウムの内容が自身の興味や求めている情報に沿うものか」等、伝えることができ、参加を促すことが期待できると考えられる。

(3) 登壇者の選考

今回開催したシンポジウムでは、理工系分野で活躍する女性のロールモデルの提示に主眼を置いたため、登壇者は原則として女性であった（開会挨拶等の一部を除く）。

この点については、実際の女性活躍の状況、実態、幅広い情報についてお話いただくことが効果的という観点からすれば、女性の活躍が目覚ましい企業の人事担当者や、実際に活躍している女性が在籍する部門の部門長等のご登壇をお願いする、ということも考えられる。その場合、登壇者としては、必ずしも女性に限定するのではなく、男性にお話をいただくことも効果的と考えられる。ダイバーシティの考え方が浸透する中で、女性活躍、特に理工系女性人材を主なテーマとしてシンポジウムを行う場合であっても、男女、あるいは文系・理系の枠にこだわらず、多様な登壇者によって情報を発信・提供することが望ましいと考えられる。

具体的には、登壇者についての考慮要素としては、性別や文理の区分以外には、例えば、登壇者の所属する団体等も考えられる。今回は、大学教職員のほか、保護者等に認知度が高いと考えられる企業を中心に登壇者を設定したが、例えばシンポジウムの開催地近郊において活躍する企業（ものづくり企業や研究開発型企业等）の方をお願いする、ということも考えられる。これらは、地域産業創生の観点からも有効と考

えられる。

(4) 情報を発信するチャネル

情報発信の手法として、今回は最終的な発信手段を「シンポジウム」とし、シンポジウムへの来場を促すための方法として、1-2-3 に記載のとおり、①WEB サイト・SNS、②電子メール、③郵送・電話及び FAX で実施した。前述のとおり十分な来場者が得られなかったところであるが、その要因として一つには周知期間が短かったことが考えられる。また、その手法についてもさらなる工夫が必要であると考えられる。シンポジウムを開催するという情報、またシンポジウムの内容について幅広く知っていただくためには、今回の調査研究では検証できなかったが、首都圏とそうでない地域では有効な手法が必ずしも同じではないと考えられる。たとえば、新聞の購読率などを考慮すると、地域の放送局や地方紙などのマスコミ、また、地方公共団体が発行する広報紙など、地域に根付いた手段での情報発信を使うことで、より多くの方に情報を伝えられる可能性がある。

また、保護者や教員への情報提供を広く実施するという観点からは、シンポジウムの開催は回数に限りがあることを考慮すれば、シンポジウム来場者のアンケート回答にも見られたように、動画コンテンツの充実も考えられる。既にリコチャレ¹¹関連のコンテンツについて、多くの活躍する女性の声を紹介しているところであるが、文字だけでなく動画や音声を活用して、活躍する方のメッセージを配信する、といったことが考えられる。また、例えばシンポジウムの模様を動画配信する等の試みについても検討の余地がある。

¹¹ 理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取組

第5章 参考資料

5-1 オンライン調査集計結果

5-1-1 保護者調査

図表 52 回答者属性 (n=1,000)

45歳未満／一都三県・二府四県・愛知県／中学生	125 (12.5%)
45歳未満／一都三県・二府四県・愛知県／高校生	125 (12.5%)
45歳未満／その他都道府県／中学生	125 (12.5%)
45歳未満／その他都道府県／高校生	125 (12.5%)
45歳以上／一都三県・二府四県・愛知県／中学生	125 (12.5%)
45歳以上／一都三県・二府四県・愛知県／高校生	125 (12.5%)
45歳以上／その他都道府県／中学生	125 (12.5%)
45歳以上／その他都道府県／高校生	125 (12.5%)
合計	1000 (100.0%)

図表 53 回答者性別 (n=1,000)

女性	414 (41.4%)
男性	586 (58.6%)
その他	0 (0.0%)
合計	1000 (100.0%)

図表 54 回答者居住地 (n=1,000)

北海道	46 (4.6%)	滋賀県	8 (0.8%)
青森県	10 (1.0%)	京都府	13 (1.3%)
岩手県	9 (0.9%)	大阪府	76 (7.6%)
宮城県	27 (2.7%)	兵庫県	43 (4.3%)
秋田県	4 (0.4%)	奈良県	9 (0.9%)
山形県	5 (0.5%)	和歌山県	3 (0.3%)
福島県	11 (1.1%)	鳥取県	5 (0.5%)
茨城県	26 (2.6%)	島根県	3 (0.3%)
栃木県	18 (1.8%)	岡山県	12 (1.2%)
群馬県	19 (1.9%)	広島県	32 (3.2%)
埼玉県	59 (5.9%)	山口県	8 (0.8%)
千葉県	42 (4.2%)	徳島県	5 (0.5%)
東京都	115 (11.5%)	香川県	11 (1.1%)
神奈川県	82 (8.2%)	愛媛県	13 (1.3%)
新潟県	13 (1.3%)	高知県	3 (0.3%)
富山県	10 (1.0%)	福岡県	49 (4.9%)
石川県	13 (1.3%)	佐賀県	6 (0.6%)
福井県	9 (0.9%)	長崎県	10 (1.0%)
山梨県	5 (0.5%)	熊本県	12 (1.2%)
長野県	16 (1.6%)	大分県	9 (0.9%)
岐阜県	20 (2.0%)	宮崎県	2 (0.2%)
静岡県	23 (2.3%)	鹿児島県	6 (0.6%)
愛知県	50 (5.0%)	沖縄県	9 (0.9%)
三重県	21 (2.1%)	合計	1000 (100.0%)

表 55 回答者婚姻状況 (n=1,000)

未婚	5 (0.5%)
既婚	943 (94.3%)
離別・死別	52 (5.2%)
合計	1000 (100.0%)

図表 56 お子さまの中学・高校別 (n=1,000)

中学生女子がいる	550 (55.0%)
高校生女子がいる	565 (56.5%)
いない	0 (0.0%)
回答件数	1000 (1.12)

図表 57 お子さまには、どの教育機関まで進学して欲しいと考えていますか。
／中学生女子 (n=550)

大学院	28 (5.1%)
大学・短大	511 (92.9%)
専門学校	7 (1.3%)
高校	4 (0.7%)
合計	550 (100.0%)

図表 58 お子さまには、どの教育機関まで進学して欲しいと考えていますか。
／高校生女子 (n=565)

大学院	32 (5.7%)
大学・短大	527 (93.3%)
専門学校	4 (0.7%)
高校	2 (0.4%)
合計	565 (100.0%)

図表 59 お子さまの現在の学年 (n=1,000)

中学1年生	137 (13.7%)
中学2年生	200 (20.0%)
中学3年生	163 (16.3%)
高校1年生	169 (16.9%)
高校2年生	172 (17.2%)
高校3年生	159 (15.9%)
合計	1000 (100.0%)

図表 60 お子さまの通学先の学校の種類 (n=1,000)

国立	59 (5.9%)
私立	258 (25.8%)
都道府県立	303 (30.3%)
市区町村立	380 (38.0%)
その他	0 (0.0%)
合計	1000 (100.0%)

図表 61 お子さまの通学先の女子高・共学別 (n=1,000)

女子中・女子高	102 (10.2%)
共学	898 (89.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 62 お子さまの中学3年時の成績をお答えください／国語

上の方	252 (25.2%)
やや上	332 (33.2%)
中くらい	334 (33.4%)
やや下	60 (6.0%)
下の方	22 (2.2%)
合計	1000 (100.0%)

図表 63 お子さまの中学3年時の成績をお答えください／外国語

上の方	262 (26.2%)
やや上	295 (29.5%)
中くらい	304 (30.4%)
やや下	99 (9.9%)
下の方	40 (4.0%)
合計	1000 (100.0%)

図表 64 お子さまの中学3年時の成績をお答えください。／社会（地理歴史・公民）

上の方	213 (21.3%)
やや上	294 (29.4%)
中くらい	378 (37.8%)
やや下	87 (8.7%)
下の方	28 (2.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 65 お子さまの中学3年時の成績をお答えください。／数学

上の方	218 (21.8%)
やや上	281 (28.1%)
中くらい	325 (32.5%)
やや下	121 (12.1%)
下の方	55 (5.5%)
合計	1000 (100.0%)

図表 66 お子さまの中学3年時の成績をお答えください。／理科

上の方	217 (21.7%)
やや上	257 (25.7%)
中くらい	371 (37.1%)
やや下	114 (11.4%)
下の方	41 (4.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 67 保護者意見・男子に比べ女子に対しては文系に進学することを望む傾向がある

そう思う	74 (7.4%)
どちらかといえばそう思う	406 (40.6%)
どちらかといえばそう思わない	276 (27.6%)
そう思わない	244 (24.4%)
合計	1000 (100.0%)

図表 68 保護者意見・男子に比べ女子に対しては理系に進学することを望む傾向がある

そう思う	29 (2.9%)
どちらかといえばそう思う	167 (16.7%)
どちらかといえばそう思わない	534 (53.4%)
そう思わない	270 (27.0%)
合計	1000 (100.0%)

図表 69 保護者意見・女子は男子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い

そう思う	115 (11.5%)
どちらかといえばそう思う	459 (45.9%)
どちらかといえばそう思わない	245 (24.5%)
そう思わない	181 (18.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 70 保護者意見・男子は女子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い

そう思う	17 (1.7%)
どちらかといえばそう思う	120 (12.0%)
どちらかといえばそう思わない	561 (56.1%)
そう思わない	302 (30.2%)
合計	1000 (100.0%)

図表 71 保護者意見・お子さまが進学する場合、異性の学生が多い学問領域は選びづらいだろう

そう思う	29 (2.9%)
どちらかといえばそう思う	228 (22.8%)
どちらかといえばそう思わない	456 (45.6%)
そう思わない	287 (28.7%)
合計	1000 (100.0%)

図表 72 保護者意見・お子さまが就職する場合、異性の人が多い職場は働きづらいだろう

そう思う	28 (2.8%)
どちらかといえばそう思う	245 (24.5%)
どちらかといえばそう思わない	464 (46.4%)
そう思わない	263 (26.3%)
合計	1000 (100.0%)

図表 73 保護者意見・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成である

そう思う	39 (3.9%)
どちらかといえばそう思う	241 (24.1%)
どちらかといえばそう思わない	412 (41.2%)
そう思わない	308 (30.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 74 文系／理系について・現在、お子さまは文系の進路を希望していますか、理系の進路を希望していますか①本人の進路意向 (n=1,000)

文系	222 (22.2%)
どちらかといえば文系	224 (22.4%)
理工系	68 (6.8%)
どちらかといえば理工系	64 (6.4%)
生物学・農学系(医歯薬学・医療系除く)	29 (2.9%)
どちらかといえば生物学・農学系(医歯薬学・医療系除く)	16 (1.6%)
医歯薬学・医療系	73 (7.3%)
どちらかといえば医歯薬学・医療系	40 (4.0%)
わからない	264 (26.4%)
合計	1000 (100.0%)

図表 75 文系／理系について・将来は文系／理系どちらの進路に進んでほしいか②保護者の進路意向 (n=1,000)

文系	98 (9.8%)
どちらかといえば文系	111 (11.1%)
理工系	43 (4.3%)
どちらかといえば理工系	56 (5.6%)
生物学・農学系(医歯薬学・医療系除く)	20 (2.0%)
どちらかといえば生物学・農学系(医歯薬学・医療系除く)	10 (1.0%)
医歯薬学・医療系	60 (6.0%)
どちらかといえば医歯薬学・医療系	38 (3.8%)
わからない	25 (2.5%)
本人の希望・意向に任せたい	539 (53.9%)
合計	1000 (100.0%)

図表 76 特に進学を目指すと思う学部を3つまで (n=1,000)

理学部	139 (13.9%)
工学部	120 (12.0%)
医学部	117 (11.7%)
薬学部	206 (20.6%)
保健・看護学部	163 (16.3%)
歯学部	39 (3.9%)
農学部	63 (6.3%)
文学部	136 (13.6%)
経済学・経営学部	176 (17.6%)
法学部	130 (13.0%)
社会学部	98 (9.8%)
外国語学部	164 (16.4%)
その他	49 (4.9%)
特にない	312 (31.2%)
回答件数	1000 (1.91)

図表 77 その学部が良いと思う理由を3つまで (n=688)

専門性が高い	331	(48.1%)
学部で学ぶ内容が魅力的	129	(18.8%)
将来の収入が高い	153	(22.2%)
就職・転職に有利である	198	(28.8%)
女性に向いている	99	(14.4%)
本人に向いている	182	(26.5%)
将来仕事と家庭の両立がしやすい	60	(8.7%)
将来像が明確である	68	(9.9%)
資格や免許が取れる	132	(19.2%)
本人が希望している	122	(17.7%)
その他	2	(0.3%)
回答件数	688	(2.15)

図表 78 教育に関する1か月あたりの費用／
学習塾・予備校・通信教育やオンラインの学習講座 (n=1,000)

5000円未満	386	(38.6%)
5000円以上1万円未満	157	(15.7%)
1万円以上2万円未満	196	(19.6%)
2万円以上3万円未満	125	(12.5%)
3万円以上5万円未満	96	(9.6%)
5万円以上	40	(4.0%)
合計	1000	(100.0%)

図表 79 教育に関する1か月あたりの費用／
ならいごと (ピアノ、書道、絵画、バレエ、スポーツクラブ、コンピュータ等) (n=1,000)

5000円未満	663	(66.3%)
5000円以上1万円未満	174	(17.4%)
1万円以上2万円未満	113	(11.3%)
2万円以上3万円未満	29	(2.9%)
3万円以上5万円未満	11	(1.1%)
5万円以上	10	(1.0%)
合計	1000	(100.0%)

図表 80 お子さまの進路選択に関する情報を、どのように入手していますか (n=1,000)

保護者仲間・お勤め先の方・友人	496	(49.6%)
学校の教員	532	(53.2%)
お子さまの通う塾の先生・スタッフ	300	(30.0%)
お子さまの通うならいごとの先生・スタッフ	62	(6.2%)
インターネット(進学先候補の学校等のホームページ)	325	(32.5%)
インターネット(進学・学習情報サービス機関、学習塾、教育誌等のホームページ)	21	(2.1%)
インターネット(口コミサイト)	9	(0.9%)
テレビ・ラジオ	3	(0.3%)
新聞	56	(5.6%)
雑誌	4	(0.4%)
その他	22	(2.2%)
回答件数	1000	(1.83)

図表 81 お子さまの進路選択に関する情報で①重要なもの (n=1,000)

大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)	441	(44.1%)
大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連	345	(34.5%)
様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)	298	(29.8%)
女性に向いている仕事・職種の情報	220	(22.0%)
社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)	183	(18.3%)
入試に向けた勉強方法・塾の情報	296	(29.6%)
新しい入試の仕組み・内容	328	(32.8%)
進学にかかる費用	478	(47.8%)
各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問／教育・研究内容	282	(28.2%)
各大学・学部・学科の就職実績	255	(25.5%)
各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績	157	(15.7%)
各大学・学部・学科の資格取得の状況	213	(21.3%)
各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)	249	(24.9%)
各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容	157	(15.7%)
各大学・学部・学科の校風や雰囲気	229	(22.9%)
各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)	175	(17.5%)
各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況	96	(9.6%)
その他	17	(1.7%)
回答件数	1000	(4.42)

図表 82 お子さまの進路選択に関する情報で②現在不足しているもの (n=1,000)

大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)	210	(21.0%)
大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連	184	(18.4%)
様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)	174	(17.4%)
女性に向いている仕事・職種の情報	139	(13.9%)
社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)	114	(11.4%)
入試に向けた勉強方法・塾の情報	166	(16.6%)
新しい入試の仕組み・内容	252	(25.2%)
進学にかかる費用	298	(29.8%)
各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問／教育・研究内容	130	(13.0%)
各大学・学部・学科の就職実績	127	(12.7%)
各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績	113	(11.3%)
各大学・学部・学科の資格取得の状況	107	(10.7%)
各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)	135	(13.5%)
各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容	111	(11.1%)
各大学・学部・学科の校風や雰囲気	122	(12.2%)
各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)	72	(7.2%)
各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況	108	(10.8%)
その他	38	(3.8%)
回答件数	1000	(2.60)

図表 83 進路の選択につき、どのような情報を知らせる必要があると思いますか (n=1,000)

大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)	406 (40.6%)
大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問/教育・研究内容と将来の仕事との関連	303 (30.3%)
様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)	309 (30.9%)
女性に向いている仕事・職種の情報	159 (15.9%)
社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)	177 (17.7%)
入試に向けた勉強方法・塾の情報	302 (30.2%)
新しい入試の仕組み・内容	288 (28.8%)
進学にかかる費用	242 (24.2%)
各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問/教育・研究内容	274 (27.4%)
各大学・学部・学科の就職実績	178 (17.8%)
各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績	86 (8.6%)
各大学・学部・学科の資格取得の状況	150 (15.0%)
各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)	177 (17.7%)
各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容	137 (13.7%)
各大学・学部・学科の校風や雰囲気	201 (20.1%)
各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)	118 (11.8%)
各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況	78 (7.8%)
その他	14 (1.4%)
回答件数	1000 (3.60)

図表 84 将来お子さまが就きたいと考えている職業を知っていますか (n=1,000)

本人から聞いたので知っている	363 (36.3%)
直接聞いたわけではないが、日ごろの態度、行動などから推測できている	90 (9.0%)
まだ就きたい職業は決まっていない(本人から聞いた)	233 (23.3%)
まだ就きたい職業は決まっていないと思う(直接ではないが、推測できる)	131 (13.1%)
知らない・わからない	183 (18.3%)
合計	1000 (100.0%)

図表 85 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか/国語 (n=1,000)

好き	178 (17.8%)
どちらかといえば好き	363 (36.3%)
どちらかといえば嫌い	255 (25.5%)
嫌い	140 (14.0%)
わからない	64 (6.4%)
合計	1000 (100.0%)

図表 86 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか/外国語 (n=1,000)

好き	166 (16.6%)
どちらかといえば好き	317 (31.7%)
どちらかといえば嫌い	270 (27.0%)
嫌い	190 (19.0%)
わからない	57 (5.7%)
合計	1000 (100.0%)

表 87 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか/社会(地理歴史・公民) (n=1,000)

好き	186 (18.6%)
どちらかといえば好き	326 (32.6%)
どちらかといえば嫌い	277 (27.7%)
嫌い	154 (15.4%)
わからない	57 (5.7%)
合計	1000 (100.0%)

図表 88 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか。／数学 (n=1,000)

好き	169 (16.9%)
どちらかといえば好き	275 (27.5%)
どちらかといえば嫌い	251 (25.1%)
嫌い	245 (24.5%)
わからない	60 (6.0%)
合計	1000 (100.0%)

図表 89 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか。／理科のうち化学に関する内容 (n=1,000)

好き	113 (11.3%)
どちらかといえば好き	249 (24.9%)
どちらかといえば嫌い	308 (30.8%)
嫌い	251 (25.1%)
わからない	79 (7.9%)
合計	1000 (100.0%)

図表 90 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか。／理科のうち物理に関する内容 (n=1,000)

好き	80 (8.0%)
どちらかといえば好き	190 (19.0%)
どちらかといえば嫌い	347 (34.7%)
嫌い	295 (29.5%)
わからない	88 (8.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 91 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか。／理科のうち生物に関する内容 (n=1,000)

好き	101 (10.1%)
どちらかといえば好き	332 (33.2%)
どちらかといえば嫌い	290 (29.0%)
嫌い	196 (19.6%)
わからない	81 (8.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 92 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか。／理科のうち地学に関する内容 (n=1,000)

好き	71 (7.1%)
どちらかといえば好き	273 (27.3%)
どちらかといえば嫌い	342 (34.2%)
嫌い	206 (20.6%)
わからない	108 (10.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 93 お子さまへの教育面でのかかわり方／普段の学校の様子をきく (n=1,000)

主に自分が行う・行った	360 (36.0%)
主に配偶者が行う・行った	322 (32.2%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	221 (22.1%)
自分も配偶者も行わない・行かなかった	26 (2.6%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	71 (7.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 94 お子さまへの教育面でのかかわり方／理科や算数・数学の勉強を教える (n=1,000)

主に自分が行う・行った	256 (25.6%)
主に配偶者が行う・行った	226 (22.6%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	176 (17.6%)
自分も配偶者も行わない・行かなかった	227 (22.7%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	115 (11.5%)
合計	1000 (100.0%)

図表 95 お子さまへの教育面でのかかわり方／科学館や博物館に連れて行く (n=1,000)

主に自分が行う・行った	247 (24.7%)
主に配偶者が行う・行った	139 (13.9%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	282 (28.2%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	180 (18.0%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	152 (15.2%)
合計	1000 (100.0%)

図表 96 お子さまへの教育面でのかかわり方／理科の自由研究のアドバイスをする (n=1,000)

主に自分が行う・行った	257 (25.7%)
主に配偶者が行う・行った	206 (20.6%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	193 (19.3%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	190 (19.0%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	154 (15.4%)
合計	1000 (100.0%)

図表 97 お子さまへの教育面でのかかわり方／
大学や自治体が行っている理科実験教室に連れて行く (n=1,000)

主に自分が行う・行った	113 (11.3%)
主に配偶者が行う・行った	107 (10.7%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	125 (12.5%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	279 (27.9%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	376 (37.6%)
合計	1000 (100.0%)

図表 98 お子さまへの教育面でのかかわり方／
プログラミングやコンピュータの使い方を教える (n=1,000)

主に自分が行う・行った	154 (15.4%)
主に配偶者が行う・行った	124 (12.4%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	122 (12.2%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	273 (27.3%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	327 (32.7%)
合計	1000 (100.0%)

図表 99 お子さまへの教育面でのかかわり方／天体観測や植物の観察、昆虫採集等を行う (n=1,000)

主に自分が行う・行った	158 (15.8%)
主に配偶者が行う・行った	141 (14.1%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	155 (15.5%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	280 (28.0%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	266 (26.6%)
合計	1000 (100.0%)

図表 100 お子さまへの教育面でのかかわり方／日常の会話の中で科学的な知識を教える (n=1,000)

主に自分が行う・行った	215 (21.5%)
主に配偶者が行う・行った	132 (13.2%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	232 (23.2%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	220 (22.0%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	201 (20.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 101 お子さまへの教育面でのかかわり方／進学に向けての勉強方法や塾の選び方の相談にのる (n=1,000)

主に自分が行う・行った	278 (27.8%)
主に配偶者が行う・行った	239 (23.9%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	226 (22.6%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	89 (8.9%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	168 (16.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 102 お子さまへの教育面でのかかわり方／高校での文系・理系などのコース分けの相談にのる (n=1,000)

主に自分が行う・行った	214 (21.4%)
主に配偶者が行う・行った	185 (18.5%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	189 (18.9%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	134 (13.4%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	278 (27.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 103 お子さまへの教育面でのかかわり方／高校で文系のコースを選択するようアドバイスする (n=1,000)

主に自分が行う・行った	105 (10.5%)
主に配偶者が行う・行った	130 (13.0%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	131 (13.1%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	252 (25.2%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	382 (38.2%)
合計	1000 (100.0%)

図表 104 お子さまへの教育面でのかかわり方／高校で理系のコースを選択するようアドバイスする (n=1,000)

主に自分が行う・行った	79 (7.9%)
主に配偶者が行う・行った	118 (11.8%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	131 (13.1%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	265 (26.5%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	407 (40.7%)
合計	1000 (100.0%)

図表 105 お子さまへの教育面でのかかわり方／大学での専攻分野について相談にのる (n=1,000)

主に自分が行う・行った	170 (17.0%)
主に配偶者が行う・行った	131 (13.1%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	179 (17.9%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	149 (14.9%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	371 (37.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 106 お子さまへの教育面でのかかわり方／大学で文系学部を選択することを勧める (n=1,000)

主に自分が行う・行った	83 (8.3%)
主に配偶者が行う・行った	113 (11.3%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	117 (11.7%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	259 (25.9%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	428 (42.8%)
合計	1000 (100.0%)

図表 107 お子さまへの教育面でのかかわり方／大学で理系学部（医歯系以外）を選択することを勧める (n=1,000)

主に自分が行う・行った	71 (7.1%)
主に配偶者が行う・行った	97 (9.7%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	126 (12.6%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	269 (26.9%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	437 (43.7%)
合計	1000 (100.0%)

表 108 お子さまへの教育面でのかかわり方／大学で医薬系学部を選択することを勧める (n=1,000)

主に自分が行う・行った	66 (6.6%)
主に配偶者が行う・行った	102 (10.2%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	124 (12.4%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	272 (27.2%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	436 (43.6%)
合計	1000 (100.0%)

図表 109 お子さまへの教育面でのかかわり方／就職について相談にのる (n=1,000)

主に自分が行う・行った	129 (12.9%)
主に配偶者が行う・行った	119 (11.9%)
自分も配偶者も同程度行う・行った	176 (17.6%)
自分も配偶者も行わない・行わなかった	144 (14.4%)
まだ行っておらず、今後のことはわからない	432 (43.2%)
合計	1000 (100.0%)

図表 110 理系の進路についてのイメージ／理工学 (理学・工学) (n=1,000)

資格を取得でき、就職がしやすい	315 (31.5%)
資格を取得できず、就職がしづらい	54 (5.4%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしやすい	64 (6.4%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしづらい	128 (12.8%)
就職する仕事は、今後、需要の高まる職業である	186 (18.6%)
就職する仕事は、今後、需要の低下する職業である	15 (1.5%)
いずれもあてはまらない	353 (35.3%)
回答件数	1000 (1.12)

図表 111 理系の進路についてのイメージ／医歯薬学・医療系 (n=1,000)

資格を取得でき、就職がしやすい	469 (46.9%)
資格を取得できず、就職がしづらい	28 (2.8%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしやすい	65 (6.5%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしづらい	152 (15.2%)
就職する仕事は、今後、需要の高まる職業である	202 (20.2%)
就職する仕事は、今後、需要の低下する職業である	14 (1.4%)
いずれもあてはまらない	284 (28.4%)
回答件数	1000 (1.21)

図表 112 理系の進路についてのイメージ／農学 (n=1,000)

資格を取得でき、就職がしやすい	180 (18.0%)
資格を取得できず、就職がしづらい	86 (8.6%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしやすい	71 (7.1%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしづらい	84 (8.4%)
就職する仕事は、今後、需要の高まる職業である	205 (20.5%)
就職する仕事は、今後、需要の低下する職業である	53 (5.3%)
いずれもあてはまらない	409 (40.9%)
回答件数	1000 (1.09)

図表 113 理系の進路についてのイメージ／バイオ・生物学 (n=1,000)

資格を取得でき、就職がしやすい	201 (20.1%)
資格を取得できず、就職がしづらい	75 (7.5%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしやすい	60 (6.0%)
就職先は、家庭と仕事の両立がしづらい	105 (10.5%)
就職する仕事は、今後、需要の高まる職業である	269 (26.9%)
就職する仕事は、今後、需要の低下する職業である	16 (1.6%)
いずれもあてはまらない	379 (37.9%)
回答件数	1000 (1.11)

図表 114 理工系を目指す女子学生・生徒を増やすには、国や教育機関がどのような取組みを行う必要があるか (n=1,000)

理工系の仕事・職場を明るい雰囲気に変え、女性もいきいきと働ける環境をつくっていく(あるいはそういう情報をより積極的に伝える)	353	(35.3%)
理工系の仕事が、育児・家事をしても働き続けられるようにする(あるいはそうであることを伝える)	405	(40.5%)
理工系の仕事の資格や免許制度を増やし、普及させる	214	(21.4%)
理工系の仕事・職場において、男女が等しい条件で働き、等しく評価されるようにする	321	(32.1%)
大学の理工系分野の学部・学科の魅力を伝える	171	(17.1%)
大学の理工系学部・学科で、女性は生き生きと学べる環境にしてい(あるいは、女性がいきいきと学んでいることを伝える)	209	(20.9%)
中学・高校の数学や理科の授業を魅力あるものに変える	249	(24.9%)
数学や理科を大学の入試をより易しくする	76	(7.6%)
推薦入試やAO入試でもより広く理工系学部に進学できるようにする	108	(10.8%)
その他	8	(0.8%)
いずれも必要はない	230	(23.0%)
回答件数	1000	(2.34)

図表 115 お子さまの将来について/将来に役立つ資格を身につけてほしい (n=1,000)

そう思う	435	(43.5%)
どちらかといえばそう思う	384	(38.4%)
どちらともいえない	147	(14.7%)
どちらかといえばそう思わない	13	(1.3%)
そう思わない	21	(2.1%)
合計	1000	(100.0%)

図表 116 お子さまの将来について/収入や雇用が安定している仕事をしてほしい (n=1,000)

そう思う	397	(39.7%)
どちらかといえばそう思う	382	(38.2%)
どちらともいえない	195	(19.5%)
どちらかといえばそう思わない	6	(0.6%)
そう思わない	20	(2.0%)
合計	1000	(100.0%)

図表 117 お子さまの将来について/将来は手に職をつけてほしい (n=1,000)

そう思う	345	(34.5%)
どちらかといえばそう思う	382	(38.2%)
どちらともいえない	234	(23.4%)
どちらかといえばそう思わない	19	(1.9%)
そう思わない	20	(2.0%)
合計	1000	(100.0%)

図表 118 お子さまの将来について/できるだけ地元の大学に進学してほしい (n=1,000)

そう思う	214	(21.4%)
どちらかといえばそう思う	297	(29.7%)
どちらともいえない	368	(36.8%)
どちらかといえばそう思わない	56	(5.6%)
そう思わない	65	(6.5%)
合計	1000	(100.0%)

図表 119 お子さまの将来について/できるだけ地元で就職してほしい (n=1,000)

そう思う	178	(17.8%)
どちらかといえばそう思う	292	(29.2%)
どちらともいえない	411	(41.1%)
どちらかといえばそう思わない	47	(4.7%)
そう思わない	72	(7.2%)
合計	1000	(100.0%)

図表 120 お子さまの将来について／自分のやりたい仕事に就いてほしい (n=1,000)

そう思う	574 (57.4%)
どちらかといえばそう思う	239 (23.9%)
どちらともいえない	155 (15.5%)
どちらかといえばそう思わない	19 (1.9%)
そう思わない	13 (1.3%)
合計	1000 (100.0%)

図表 121 お子さまの将来について／世界で活躍してほしい (n=1,000)

そう思う	93 (9.3%)
どちらかといえばそう思う	174 (17.4%)
どちらともいえない	504 (50.4%)
どちらかといえばそう思わない	128 (12.8%)
そう思わない	101 (10.1%)
合計	1000 (100.0%)

図表 122 お子さまの将来について／結婚してほしい (n=1,000)

そう思う	334 (33.4%)
どちらかといえばそう思う	319 (31.9%)
どちらともいえない	304 (30.4%)
どちらかといえばそう思わない	20 (2.0%)
そう思わない	23 (2.3%)
合計	1000 (100.0%)

図表 123 女性の理想的な生き方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください (n=1,000)

結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚や出産の後も、仕事量は変えない	150 (15.0%)
結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚あるいは出産の後は、ワーク・ライフ・バランスに留意する	456 (45.6%)
結婚あるいは出産の機会にいったん退職(または休職)し、子育て後に再び仕事を持つ	205 (20.5%)
結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない	37 (3.7%)
結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける	6 (0.6%)
結婚せず、仕事を一生続ける	3 (0.3%)
どれにもあてはまらない	130 (13.0%)
その他	13 (1.3%)
合計	1000 (100.0%)

図表 124 あなたのお仕事の状況をお教えてください (n=1,000)

日常働いている	807 (80.7%)
日常働いていない(休職中、専業主婦・専業主夫・年金受給含む)	193 (19.3%)
合計	1000 (100.0%)

図表 125 業種 (n=807)

農林漁業	7 (0.9%)
鉱業・採石業・砂利採取業	2 (0.2%)
建設業	54 (6.7%)
製造業	157 (19.5%)
電気・ガス・熱供給・水道業	14 (1.7%)
情報通信業	48 (5.9%)
運輸業・郵便業	32 (4.0%)
卸売・小売業	86 (10.7%)
医療、福祉	86 (10.7%)
サービス業※	223 (27.6%)
公務	69 (8.6%)
その他	29 (3.6%)
合計	807 (100.0%)

※不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、教育・学習支援業、金融・保険、郵便局・協同組合など含む

図表 126 製造業内容 (n=157)

食品・飲料	18 (11.5%)
繊維・革製品	2 (1.3%)
木材・家具	2 (1.3%)
紙・印刷	9 (5.7%)
材料・部品(非金属)	22 (14.0%)
材料・部品(金属)	15 (9.6%)
一般機械・器具	28 (17.8%)
輸送用機械・器具	20 (12.7%)
電気・電子	18 (11.5%)
その他	23 (14.6%)
合計	157 (100.0%)

図表 127 職種 (n=807)

管理職	153 (19.0%)
専門・技術職	179 (22.2%)
事務職	207 (25.7%)
販売職	65 (8.1%)
サービス職	86 (10.7%)
保安職	12 (1.5%)
農林漁業従事	5 (0.6%)
生産職	38 (4.7%)
輸送・機械運転従事	10 (1.2%)
建設・採掘従事	9 (1.1%)
運搬・清掃・包装等従事	15 (1.9%)
その他	28 (3.5%)
合計	807 (100.0%)

図表 128 役職 (n=807)

経営層・役員クラス(企業・団体)	34 (4.2%)
経営者(自営業)	28 (3.5%)
部長クラス	70 (8.7%)
課長クラス	131 (16.2%)
係長・主任クラス	155 (19.2%)
一般社員・一般職員クラス	232 (28.7%)
派遣社員・契約社員など	34 (4.2%)
パート・アルバイトなど	123 (15.2%)
合計	807 (100.0%)

図表 129 最終学歴 (n=1,000)

中学校	11 (1.1%)	大学・大学校(その他)	20 (2.0%)
高校(普通科)	159 (15.9%)	短期大学(文系)	66 (6.6%)
高校(理数科)	7 (0.7%)	短期大学(理工系)	5 (0.5%)
高校(総合学科)	8 (0.8%)	短期大学(生物学・農学系)	1 (0.1%)
高校(農業学科)	6 (0.6%)	短期大学(医歯薬学・医療系)	12 (1.2%)
高校(工業学科)	40 (4.0%)	短期大学(その他)	47 (4.7%)
高校(商業学科)	39 (3.9%)	高等専門学校(文系)	0 (0.0%)
高校(看護科)	2 (0.2%)	高等専門学校(理工系)	9 (0.9%)
高校(その他)	6 (0.6%)	高等専門学校(生物学・農学系)	0 (0.0%)
専門学校(文系)	10 (1.0%)	高等専門学校(医歯薬学・医療系)	1 (0.1%)
専門学校(理工系)	17 (1.7%)	高等専門学校(その他)	1 (0.1%)
専門学校(生物学・農学系)	2 (0.2%)	大学院(文系)	4 (0.4%)
専門学校(医歯薬学・医療系)	12 (1.2%)	大学院(理工系)	30 (3.0%)
専門学校(その他)	51 (5.1%)	大学院(生物学・農学系)	3 (0.3%)
大学・大学校(文系)	265 (26.5%)	大学院(医歯薬学・医療系)	11 (1.1%)
大学・大学校(理工系)	116 (11.6%)	大学院(その他)	2 (0.2%)
大学・大学校(生物学・農学系)	14 (1.4%)	合計	1000 (100.0%)
大学・大学校(医歯薬学・医療系)	23 (2.3%)		

図表 130 現在の配偶者との関係 (n=1,000)

同居	920 (92.0%)
別居(単身赴任等含む)	23 (2.3%)
離別・死別・未婚	57 (5.7%)
合計	1000 (100.0%)

5-1-2 教員調査

図表 131 回答者属性 (n=1,064)

45歳未満／一都三県・二府四県・愛知県	223 (21.0%)
45歳未満／その他都道府県	246 (23.1%)
45歳以上／一都三県・二府四県・愛知県	297 (27.9%)
45歳以上／その他都道府県	298 (28.0%)
合計	1064 (100.0%)

図表 132 回答者性別 (n=1,064)

女性	281 (26.4%)
男性	783 (73.6%)
その他	0 (0.0%)
合計	1064 (100.0%)

図表 133 回答者居住地 (n=1,064)

北海道	58 (5.5%)	滋賀県	12 (1.1%)
青森県	17 (1.6%)	京都府	26 (2.4%)
岩手県	14 (1.3%)	大阪府	72 (6.8%)
宮城県	22 (2.1%)	兵庫県	53 (5.0%)
秋田県	9 (0.8%)	奈良県	20 (1.9%)
山形県	12 (1.1%)	和歌山県	14 (1.3%)
福島県	15 (1.4%)	鳥取県	8 (0.8%)
茨城県	28 (2.6%)	島根県	6 (0.6%)
栃木県	14 (1.3%)	岡山県	15 (1.4%)
群馬県	21 (2.0%)	広島県	27 (2.5%)
埼玉県	53 (5.0%)	山口県	18 (1.7%)
千葉県	51 (4.8%)	徳島県	4 (0.4%)
東京都	84 (7.9%)	香川県	7 (0.7%)
神奈川県	70 (6.6%)	愛媛県	7 (0.7%)
新潟県	16 (1.5%)	高知県	8 (0.8%)
富山県	6 (0.6%)	福岡県	37 (3.5%)
石川県	10 (0.9%)	佐賀県	4 (0.4%)
福井県	4 (0.4%)	長崎県	5 (0.5%)
山梨県	7 (0.7%)	熊本県	9 (0.8%)
長野県	23 (2.2%)	大分県	8 (0.8%)
岐阜県	15 (1.4%)	宮崎県	6 (0.6%)
静岡県	31 (2.9%)	鹿児島県	15 (1.4%)
愛知県	65 (6.1%)	沖縄県	13 (1.2%)
三重県	25 (2.3%)	合計	1064 (100.0%)

図表 134 回答者職業 (n=1,064)

会社勤務(一般社員)	0 (0.0%)
会社勤務(管理職)	0 (0.0%)
会社経営(経営者・役員)	0 (0.0%)
公務員	0 (0.0%)
教職員	1064 (100.0%)
非営利団体職員	0 (0.0%)
派遣社員・契約社員	0 (0.0%)
自営業(商工サービス)	0 (0.0%)
SOHO	0 (0.0%)
農林漁業	0 (0.0%)
専門職(弁護士・税理士等・医療関連)	0 (0.0%)
パート・アルバイト	0 (0.0%)
専業主婦	0 (0.0%)
学生	0 (0.0%)
無職	0 (0.0%)
その他の職業	0 (0.0%)
合計	1064 (100.0%)

図表 135 学校種類別 (n=1,064)

国立 中学	5 (0.5%)
国立 高校	8 (0.8%)
国立 中高一貫校	1 (0.1%)
公立 中学	364 (34.2%)
公立 高校	438 (41.2%)
公立 中高一貫校	13 (1.2%)
私立 中学	15 (1.4%)
私立 高校	135 (12.7%)
私立 中高一貫校	85 (8.0%)
その他	0 (0.0%)
合計	1064 (100.0%)

図表 136 共学・女子校・男子校別 (n=1,064)

共学	1009 (94.8%)
女子校	55 (5.2%)
男子校	0 (0.0%)
合計	1064 (100.0%)

図表 137 担当科目 (n=1,064)

国語	115 (10.8%)
社会(中学)	62 (5.8%)
地理歴史(高校)	107 (10.1%)
公民(高校)	66 (6.2%)
数学	206 (19.4%)
理科	159 (14.9%)
芸術	40 (3.8%)
外国語	142 (13.3%)
家庭	34 (3.2%)
技術(中学)	25 (2.3%)
情報	54 (5.1%)
その他	185 (17.4%)
回答件数	1064 (1.12)

図表 138 回答者担当学年 (n=1,064)

中学1年	211 (19.8%)
中学2年	207 (19.5%)
中学3年	205 (19.3%)
高校1年(中等教育学校4年)	352 (33.1%)
高校2年(中等教育学校5年)	377 (35.4%)
高校3年(中等教育学校6年)	425 (39.9%)
その他	103 (9.7%)
回答件数	1064 (1.77)

図表 139 回答者役職 (n=1,064)

校長	25 (2.3%)
教頭	31 (2.9%)
教務主任	66 (6.2%)
学年主任	99 (9.3%)
生徒指導主事	41 (3.9%)
進路指導主事	53 (5.0%)
学級担任	396 (37.2%)
講師	172 (16.2%)
その他	238 (22.4%)
回答件数	1064 (1.05)

図表 140 回答者最終学歴 (n=1,064)

教育学部・教育学研究科のいずれか・または両方の出身である	347 (32.6%)
教育学部・教育学研究科出身でない	717 (67.4%)
合計	1064 (100.0%)

図表 141 回答者選択コース教科 (n=347)

国語	33 (9.5%)
社会	28 (8.1%)
地理歴史	14 (4.0%)
公民	4 (1.2%)
数学	62 (17.9%)
理科	63 (18.2%)
芸術	22 (6.3%)
外国語	40 (11.5%)
家庭	6 (1.7%)
技術	16 (4.6%)
情報	6 (1.7%)
教科教育についての専門コースには属 さなかった(特別支援教育コース等)	53 (15.3%)
合計	347 (100.0%)

図表 142 回答者出身大学学問分類 (n=717)

人文系	292 (40.7%)
社会科学系	99 (13.8%)
情報系	22 (3.1%)
理工系	226 (31.5%)
環境系	10 (1.4%)
生物系	42 (5.9%)
医歯薬学・医療系	26 (3.6%)
合計	717 (100.0%)

図表 143 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか／国語 (n=1,064)

好き	244 (22.9%)
どちらかといえば好き	382 (35.9%)
どちらかといえば嫌い	261 (24.5%)
嫌い	149 (14.0%)
わからない	28 (2.6%)
合計	1064 (100.0%)

図表 144 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか／英語 (n=1,064)

好き	239 (22.5%)
どちらかといえば好き	324 (30.5%)
どちらかといえば嫌い	275 (25.8%)
嫌い	207 (19.5%)
わからない	19 (1.8%)
合計	1064 (100.0%)

図表 145 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか
／社会 (n=1,064)

好き	353 (33.2%)
どちらかといえば好き	362 (34.0%)
どちらかといえば嫌い	216 (20.3%)
嫌い	104 (9.8%)
わからない	29 (2.7%)
合計	1064 (100.0%)

図表 146 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか／数学 (n=1,064)

好き	367 (34.5%)
どちらかといえば好き	333 (31.3%)
どちらかといえば嫌い	178 (16.7%)
嫌い	171 (16.1%)
わからない	15 (1.4%)
合計	1064 (100.0%)

図表 147 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか
／理科のうち化学に関する内容 (n=1,064)

好き	218 (20.5%)
どちらかといえば好き	321 (30.2%)
どちらかといえば嫌い	261 (24.5%)
嫌い	231 (21.7%)
わからない	33 (3.1%)
合計	1064 (100.0%)

図表 148 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか
／理科のうち生物に関する内容 (n=1,064)

好き	211 (19.8%)
どちらかといえば好き	375 (35.2%)
どちらかといえば嫌い	275 (25.8%)
嫌い	160 (15.0%)
わからない	43 (4.0%)
合計	1064 (100.0%)

図表 149 あなたご自身、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか。
／理科のうち地学に関する内容 (n=1,064)

好き	183 (17.2%)
どちらかといえば好き	357 (33.6%)
どちらかといえば嫌い	286 (26.9%)
嫌い	160 (15.0%)
わからない	78 (7.3%)
合計	1064 (100.0%)

図表 150 教員意見・本人に明確な希望がない場合に、
特に進学を目指すと思う学部 (n=1,064)

理学部	185 (17.4%)
工学部	107 (10.1%)
医学部	35 (3.3%)
薬学部	104 (9.8%)
保健・看護学部	82 (7.7%)
歯学部	4 (0.4%)
農学部	48 (4.5%)
文学部	43 (4.0%)
経済学・経営学部	102 (9.6%)
法学部	23 (2.2%)
社会学部	43 (4.0%)
外国語学部	30 (2.8%)
その他	12 (1.1%)
特になし	246 (23.1%)
合計	1064 (100.0%)

図表 151 教員意見・その学部に進学するのが良いと思う理由

専門性が高い	408 (49.9%)
学部で学ぶ内容が魅力的	238 (29.1%)
将来の収入が高い	177 (21.6%)
就職・転職に有利である	297 (36.3%)
女性に向いている	116 (14.2%)
理科や数学を活かすことができる	217 (26.5%)
将来仕事と家庭の両立がしやすい	82 (10.0%)
将来像が明確である	93 (11.4%)
資格や免許が取れる	133 (16.3%)
その他	32 (3.9%)
回答件数	818 (2.19)

図表 152 生徒の進路選択に関する情報を、どのように入手していますか。

同じ学校の教員(職員会議等含む)	869 (81.7%)
別の学校の教員	322 (30.3%)
自分の出身大学・短大・高専等の関係者	123 (11.6%)
自分の出身以外の大学・短大・高専等の関係者	118 (11.1%)
民間教育機関(進学塾、予備校等)や受験・教育情報産業	405 (38.1%)
教員免許更新講習	64 (6.0%)
研修会・セミナー・シンポジウムへの参加	290 (27.3%)
テレビ・ラジオ	1 (0.1%)
新聞	169 (15.9%)
雑誌	17 (1.6%)
インターネット	47 (4.4%)
その他	16 (1.5%)
回答件数	1064 (2.29)

図表 153 生徒の保護者が進学に関する情報で①重要視しているもの

大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)	412 (38.7%)
大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問/教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連	426 (40.0%)
様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)	327 (30.7%)
女性に向いている仕事・職種の情報	219 (20.6%)
社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)	226 (21.2%)
入試に向けた勉強方法・塾の情報	406 (38.2%)
新しい入試の仕組み・内容	415 (39.0%)
進学にかかる費用	596 (56.0%)
各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問/教育・研究内容	343 (32.2%)
各大学・学部・学科の就職実績	409 (38.4%)
各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績	200 (18.8%)
各大学・学部・学科の資格取得の状況	284 (26.7%)
各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)	366 (34.4%)
各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容	317 (29.8%)
各大学・学部・学科の校風や雰囲気	249 (23.4%)
各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)	242 (22.7%)
各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況	135 (12.7%)
その他	27 (2.5%)
回答件数	1064 (5.26)

図表 154 生徒の保護者が進学に関する情報で②不足している (n=1,064)

大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)	280	(26.3%)
大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連	276	(25.9%)
様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)	221	(20.8%)
女性に向いている仕事・職種の情報	217	(20.4%)
社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)	205	(19.3%)
入試に向けた勉強方法・塾の情報	141	(13.3%)
新しい入試の仕組み・内容	276	(25.9%)
進学にかかる費用	183	(17.2%)
各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問／教育・研究内容	178	(16.7%)
各大学・学部・学科の就職実績	165	(15.5%)
各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績	160	(15.0%)
各大学・学部・学科の資格取得の状況	122	(11.5%)
各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)	97	(9.1%)
各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容	111	(10.4%)
各大学・学部・学科の校風や雰囲気	149	(14.0%)
各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)	83	(7.8%)
各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況	249	(23.4%)
その他	47	(4.4%)
回答件数	1064	(2.97)

図表 155 生徒にはどのような情報を知らせる必要があると思いますか。(n=1,064)

大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)	520	(48.9%)
大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問／教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連	515	(48.4%)
様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)	354	(33.3%)
女性に向いている仕事・職種の情報	154	(14.5%)
社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)	283	(26.6%)
入試に向けた勉強方法・塾の情報	327	(30.7%)
新しい入試の仕組み・内容	431	(40.5%)
進学にかかる費用	485	(45.6%)
各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問／教育・研究内容	446	(41.9%)
各大学・学部・学科の就職実績	296	(27.8%)
各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績	147	(13.8%)
各大学・学部・学科の資格取得の状況	252	(23.7%)
各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)	278	(26.1%)
各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容	251	(23.6%)
各大学・学部・学科の校風や雰囲気	200	(18.8%)
各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)	114	(10.7%)
各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況	81	(7.6%)
その他	9	(0.8%)
回答件数	1064	(4.83)

図表 156 理工系への進学を希望する生徒への指導に必要なこと (n=1,064)

自分の科学技術についての知識が少ない点を補完したい	290 (27.3%)
理工系分野については情報が日々新しくなるため、最新情報を得たい	363 (34.1%)
生徒に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい	466 (43.8%)
保護者に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい	311 (29.2%)
理工系に進学した者の就職する職種・仕事が、学部・学科との関連等を含めどのようなものであるかがわからないので、情報を得たい	338 (31.8%)
理工系の学部での学び方(研究室に所属し、大学院に進学する学生が多い等)が独自なので、情報を得たい	226 (21.2%)
大学入試での科目選択とそのため学習方法の情報が不足しているその情報を得たい	174 (16.4%)
理工系学部・学科等で学んだ女性が、卒業後、どのように働いているのかわからないので、情報を得たい	256 (24.1%)
理工系学部・学科等で学んだ男性が、卒業後、どのように働いているのかわからないので、情報を得たい	170 (16.0%)
理工系学部・学科等で学ぶ女性が、学校ではどう異性と混じって学んでいるのか、わからないので、情報を得たい	75 (7.0%)
理工系学部・学科等で学ぶ男性が、学校ではどう異性と混じって学んでいるのか、わからないので、情報を得たい	45 (4.2%)
その他	2 (0.2%)
いずれもあてはまらない	123 (11.6%)
回答件数	1064 (2.67)

図表 157 理工系への進学を希望する生徒への指導に際して不安な点・苦勞する点 (n=1,064)

理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかわからない	382 (35.9%)
女子生徒の保護者が、他の系統への進学を希望することがある	235 (22.1%)
男子生徒の保護者が、他の系統への進学を希望することがある	87 (8.2%)
理数系科目に苦手なものがある生徒の進路指導が難しい	385 (36.2%)
その他	9 (0.8%)
いずれもあてはまらない	260 (24.4%)
回答件数	1064 (1.28)

図表 158 教員意見・保護者は、男子に比べ女子に対しては文系に進学することを望む傾向がある (n=1,064)

そう思う	121 (11.4%)
どちらかといえばそう思う	549 (51.6%)
どちらかといえばそう思わない	233 (21.9%)
そう思わない	161 (15.1%)
合計	1064 (100.0%)

図表 159 教員意見・保護者は、男子に比べ女子に対しては理系に進学することを望む傾向がある (n=1,064)

そう思う	35 (3.3%)
どちらかといえばそう思う	185 (17.4%)
どちらかといえばそう思わない	594 (55.8%)
そう思わない	250 (23.5%)
合計	1064 (100.0%)

図表 160 教員意見・女子は男子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い (n=1,064)

そう思う	70 (6.6%)
どちらかといえばそう思う	398 (37.4%)
どちらかといえばそう思わない	299 (28.1%)
そう思わない	297 (27.9%)
合計	1064 (100.0%)

図表 161 教員意見・男子は女子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い (n=1,064)

そう思う	16 (1.5%)
どちらかといえばそう思う	127 (11.9%)
どちらかといえばそう思わない	496 (46.6%)
そう思わない	425 (39.9%)
合計	1064 (100.0%)

図表 162 教員意見・男子生徒が進学する場合、異性の学生が多い学問領域は選びづらいだろう (n=1,064)

そう思う	53 (5.0%)
どちらかといえばそう思う	272 (25.6%)
どちらかといえばそう思わない	425 (39.9%)
そう思わない	314 (29.5%)
合計	1064 (100.0%)

図表 163 教員意見・女子生徒が進学する場合、異性の学生が多い学問領域は選びづらいだろう (n=1,064)

そう思う	32 (3.0%)
どちらかといえばそう思う	267 (25.1%)
どちらかといえばそう思わない	470 (44.2%)
そう思わない	295 (27.7%)
合計	1064 (100.0%)

図表 164 教員意見・男子生徒が就職する場合、異性の人が多い職場は働きづらいだろう (n=1,064)

そう思う	59 (5.5%)
どちらかといえばそう思う	315 (29.6%)
どちらかといえばそう思わない	444 (41.7%)
そう思わない	246 (23.1%)
合計	1064 (100.0%)

図表 165 教員意見・女子生徒が就職する場合、異性の人が多い職場は働きづらいだろう (n=1,064)

そう思う	41 (3.9%)
どちらかといえばそう思う	274 (25.8%)
どちらかといえばそう思わない	484 (45.5%)
そう思わない	265 (24.9%)
合計	1064 (100.0%)

図表 166 教員意見・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成である (n=1,064)

そう思う	29 (2.7%)
どちらかといえばそう思う	176 (16.5%)
どちらかといえばそう思わない	352 (33.1%)
そう思わない	507 (47.7%)
合計	1064 (100.0%)

図表 167 女性の理想的な生き方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。 (n=1,064)

結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚や出産の後も、仕事量は変えない	179 (16.8%)
結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚あるいは出産の後は、ワーク・ライフ・バランスに留意する	550 (51.7%)
結婚あるいは出産の機会にいったん退職(または休職)し、子育て後に再び仕事を持つ	155 (14.6%)
結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない	23 (2.2%)
結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける	7 (0.7%)
結婚せず、仕事を一生続ける	8 (0.8%)
どれにもあてはまらない	129 (12.1%)
その他	13 (1.2%)
合計	1064 (100.0%)

女子生徒の
理工系への進路選択を

応援！

－理工系分野の現状と進路に対する意識から

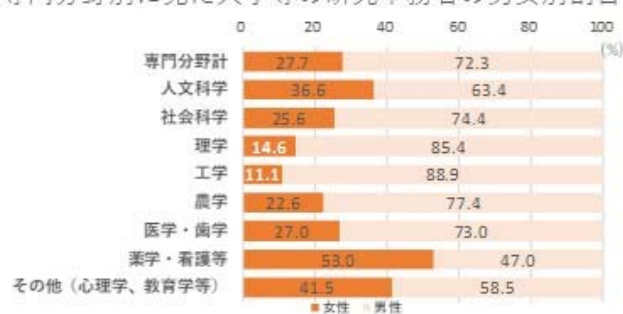
AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）などの技術革新（イノベーション）が急速に進む中で、世界最先端の科学技術立国を目指す日本が、さらに、生産性を向上させ持続的に成長する、また、より良い暮らしを実現していく、そのためには、イノベーションを支える多様な視点や発想が不可欠であり、女性研究者・技術者の活躍が期待されています。

内閣府では、次代を担う理工系女性人材の育成に向けて、女子生徒の理工系分野への進路選択を促進するため、「理工チャレンジ（リコチャレ）」として、科学技術や理工系分野に対する興味関心や理解を向上させるための取組を推進しています。



日本の理工系分野の現状

専門分野別に見た大学等の研究本務者の男女別割合



(備考) 総務省「科学技術研究調査」(平成30年)より作成

女性研究者数及び研究者総数に占める女性研究者の割合は年々増加傾向にあるものの、特に理工系分野においては低い水準に留まっています。

進路について

中学生の進路についての悩み (n=1,729)



(備考) 平成29年度 内閣府「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」

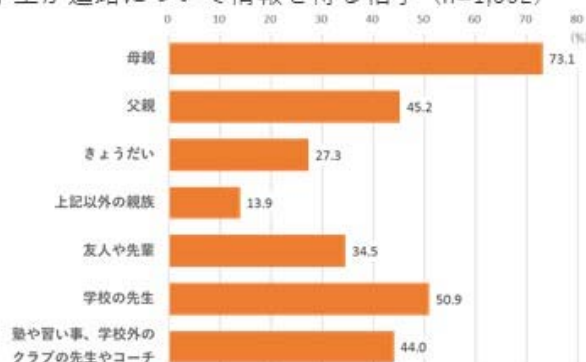
中学生の9割近くは、進路に関して何らかの悩みを持っています。

成績のほか、「何からはじめたらよいかわからない」「進路のイメージができない」等が多く回答されています。



中学生にとって、進路選択は様々な悩みになります。では、そういった悩みを誰に相談しているのでしょうか。

中学生が進路について情報を得る相手 (n=1,592)



(備考) 平成29年度 内閣府「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」

進路について情報を得る相手は母親、学校の先生、父親の順に多くなっています。

なお、男子生徒のみについても、母親が最も多くなっています。

生徒の進路意向には一定程度、親の最終学歴が影響している可能性があることから、家庭での保護者と子の間での接し方、そして提供する情報等も、子にとっては数少ない「進路」に関する重要な情報との指摘もあります。

将来希望する進路

将来はどちらの進路に進みたいか (n=1,710)



(備考) 平成29年度 内閣府「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」

中学生の将来希望する進路については、男女ともに理系が文系を上回っています。ただし、理系を希望する割合は男子に比べ女子が低くなっています。

産業界は理工系人材を求めています！

5年後技術者が不足すると予想される分野 (n=1,324、90分類中上位10のみ表示)



(備考) 経済産業省「平成29年度産業界技術調査事業 (産業界に寄与する理工系人材の需給実態等調査) 報告書」より作成

平成29年度4月入社採用において、全体として採用実績人数は採用予定者数を下回っており、特に、機械工学、電力・アナログデジタル回路、土木工学、ハード・ソフトプログラム系、建築構造などで人数が不足しています。

今後技術者が不足する分野は、「機械工学」「電力、アナログ・デジタル回路」「通信、ネットワーク、セキュリティ系」「ハード・ソフト (OS、アプリ)、プログラム系」「土木工学」などの理工系分野で人材が不足することが予想されています。



理工系への進学やその先にある限りない未来について
あらためて知って、考えてみませんか？

もっと理工系について知りたい！

リコチャレイベント情報

主に女子小中高生や保護者を対象として実施する企業・大学等のイベントをご紹介します！

夏休み期間や週末などに、全国で開催しています。

先輩からのメッセージ

理工系分野で活躍している先輩から、メッセージをお届けしています。

先輩へ質問をすることもできます。

STEM Girls Ambassadors

女子生徒等が、STEM関連分野に興味関心を持ち、理工系分野への進路を自分自身の選択の一つとして前向きに捉えることを推進するため、2018年6月、「STEM Girls Ambassadors（理工系女子応援大使）」が立ち上げられました。

理工系分野で活躍するAmbassadorsが、その魅力をお伝えしていきます！

（STEM | Science, Technology, Engineering and Mathematics）

詳しくは内閣府「理工チャレンジ（リコチャレ）」サイトへ
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>



5-3 調査票

(1) 保護者調査

<スクリーニング>あなたご自身の性別・ご職業等についてそれぞれご記入ください。

①性別・年齢

1.女性	2.男性	3.その他
------	------	-------

②年齢_____歳

③※居住地は回答者の基礎データを用い、都市部＝3大都市圏とそれ以外の2区分に利用する

④お子さまに中学生または高校生の女子がいますか

1. 中学生女子がいる	2. 高校生女子がいる	3. いない(⇒調査終了)
-------------	-------------	---------------

⑤(該当者に該当項目のみ表示)

お子さまには、どの教育機関まで進学して欲しいと考えていますか。

複数いる場合(例: 中学1年生女子と中学3年生女子のお子さまがいる場合)は、上の学年のお子さまについてご回答ください。

	大学院	大学・短大	専門学校	高校
a. 中学生女子	1	2	3	4
b. 高校生女子	1	2	3	4

※いずれにも1・2の回答がなかった場合は調査対象外として打ち切り。

⇒以上から、年代2区分、地域2区分、回答にあたって基準とする子が中学生か高校生かの2区分を割り付ける。

本調査に進む方には、

「以降の質問で、お子さまについておたずねする質問については、(中学生 or 高校生)のお子さま(複数いらっしゃる場合は、上の学年のお子さま)についてご回答ください」と表示する。

<本調査>

【問1】 お子さまのことについてそれぞれあてはまるものをお選びください。

①学年

1. (以降、中学 1～高校 3 年の選択肢、ただし、中学生の親には中学生選択肢のみ見せる)

②通学先の学校の種類

1. 国立 2. 私立 3. 都道府県立 4. 市区町村立 5. その他 ()

③現在の通学先の学校が共学かどうか

1. 女子中・女子高 2. 共学

④お子さまの中学 3 年時の成績 (中学生の保護者の方は、現在の成績)

	上の方	やや上	中くらい	やや下	下の方
a. 国語	1	2	3	4	5
b. 外国語	1	2	3	4	5
c. 社会 (地理歴史・公民)	1	2	3	4	5
d. 数学	1	2	3	4	5
e. 理科	1	2	3	4	5

※化学・物理・生物・地学の分類は、保護者目線では把握していない可能性があるため、理科の再分類化はしない

【問2】 以下のそれぞれの文章について、あなたの考えに近いものをそれぞれ 1 つ選んでください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかと思わない	どちらかといえばそう	そう思わない
a. 呆護者は、男子に比べ女子に対しては文系に進学することを望む傾向がある	1	2	3	4	
b. 呆護者は、男子に比べ女子に対しては理系に進学することを望む傾向がある	1	2	3	4	
c. 女子は男子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い	1	2	3	4	
d. 男子は女子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い	1	2	3	4	
e. お子さまが進学する場合、異性の学生が多い学問領域は選びづらだろう	1	2	3	4	
f. お子さまが就職する場合、異性の人が多い職場は働きづらだろう	1	2	3	4	
g. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成である	1	2	3	4	

【問3】 お子さまの進路について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ 1 つに○)

(1) 現在、お子さまは文系の進路を希望していますか、理系の進路を希望していますか

1. 文系
2. どちらかといえば文系
3. 理工系
4. どちらかといえば理工系
5. 生物学・農学系 (医歯薬学・医療系除く)
6. どちらかといえば生物学・農学系 (医歯薬学・医療系除く)
7. 医歯薬学・医療系
8. どちらかといえば医歯薬学・医療系
9. わからない

(2) 将来は文系／理系どちらの進路に進んでほしいか

1. 文系
2. どちらかといえば文系
3. 理工系
4. どちらかといえば理工系
5. 生物学・農学系（医歯薬学・医療系除く）
6. どちらかといえば生物学・農学系（医歯薬学・医療系除く）
7. 医歯薬学・医療系
8. どちらかといえば医歯薬学・医療系
9. わからない
10. 本人の希望・意向に任せたい

【問4】 お子さまの進学につき、以下についておこたえください。

①特に進学を目指すと思う学部（○は3つまで）

- | | | | | |
|-------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 1.理学部 | 4.薬学部 | 7.農学部 | 10. 法学部 | 13.その他（ ） |
| 2.工学部 | 5.保健・看護学部 | 8.文学部 | 11. 社会学部 | 14.特にない |
| 3.医学部 | 6.歯学部 | 9.経済学・経営学部 | 12. 外国語学部 | |

②その学部に進学するのが良いと思う理由（○は3つまで）

- | | | |
|---------------|-------------------|--------------|
| 1.専門性が高い | 5.女性に向いている | |
| 2.学部で学ぶ内容が魅力的 | 6.本人に向いている | 9.資格や免許が取れる |
| 3.将来の収入が高い | 7.将来仕事と家庭の両立がしやすい | 10.本人が希望している |
| 4.就職・転職に有利である | 8.将来像が明確である | 11.その他（ ） |

【問5】 お子さまの教育に関する1か月あたりの費用（学校の学費を除きます）について最も近いものをお選びください。

①学習塾・予備校・通信教育やオンラインの学習講座

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1.5000円未満 | 3.1万円以上 2万円未満 | 5.3万円以上 5万円未満 |
| 2.5000円以上 1万円未満 | 4.2万円以上 3万円未満 | 6.5万円以上 |

②ならいごと（ピアノ、書道、絵画、バレエ、スポーツクラブ、コンピュータ等）

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1.5000円未満 | 3.1万円以上 2万円未満 | 5.3万円以上 5万円未満 |
| 2.5000円以上 1万円未満 | 4.2万円以上 3万円未満 | 6.5万円以上 |

【問6】 お子さまの進路選択に関する情報を、どのように入手していますか

1. 保護者仲間・お勤め先の方・友人
2. 学校の教員
3. お子さまの通う塾の先生・スタッフ
4. お子さまの通うならいごとの先生・スタッフ
5. インターネット（進学先候補の学校等のホームページ）
6. インターネット（進学・学習情報サービス機関、学習塾、教育誌等のホームページ）（具体的に： ）
7. インターネット（口コミサイト）（具体的に： ）
8. テレビ・ラジオ（具体的に： ）
9. 新聞
10. 雑誌（具体的に： ）
11. その他（具体的に： ）

**【問7】 お子さまの進路選択に関する情報で ①重要なもの ②現在不足しているものはそれぞれどれですか。
(WEB では回答欄を2列用意し表示)**

1. 大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)
2. 大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問/教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連
3. 様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)
4. 女性に向いている仕事・職種の情報
5. 社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)
6. 入試に向けた勉強方法・塾の情報
7. 新しい入試の仕組み・内容
8. 進学にかかる費用
9. 各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問/教育・研究内容
10. 各大学・学部・学科の就職実績
11. 各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績
12. 各大学・学部・学科の資格取得の状況
13. 各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)
14. 各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容
15. 各大学・学部・学科の校風や雰囲気
16. 各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)
17. 各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況
18. その他(具体的に ;)

【問8】 進路の選択につき、お子さまにとって、どのような情報を知らせる必要があると思いますか。(大学等進学を前提に記載)

1. 大学の各学部・学科の基本的な学問内容(研究の内容)と学び方の違い(ゼミ・研究室の仕組み等)
2. 大学の各学部・学科で学ばれる基本的な学問/教育・研究内容と将来の仕事での有効性との関連
3. 様々な仕事の情報(内容・ニーズ・給与・やりがい等)
4. 女性に向いている仕事・職種の情報
5. 社会全体の動向(働き方や男女の役割、科学技術の動きなど)
6. 入試に向けた勉強方法・塾の情報
7. 新しい入試の仕組み・内容
8. 進学にかかる費用
9. 各大学・学部・学科で学ぶ具体的な学問/教育・研究内容
10. 各大学・学部・学科の就職実績
11. 各大学・学部・学科の奨学金の取得の実績
12. 各大学・学部・学科の資格取得の状況
13. 各大学・学部・学科の入試科目とその傾向、難易度(偏差値)
14. 各大学・学部・学科の推薦・AO等学力試験以外の様々な入試選抜の方法・内容
15. 各大学・学部・学科の校風や雰囲気
16. 各大学・学部・学科の通学時間等(自宅からの通学が可能か)
17. 各大学・学部・学科の出身女性の活躍状況
18. その他(具体的に ;)

【問9】 将来お子さまが就きたいと考えている職業を知っていますか。

1. 本人から聞いたので知っている
2. 直接聞いたわけではないが、日ごろの態度、行動などから推測できている
3. まだ就きたい職業は決まっていない(本人から聞いた)
4. まだ就きたい職業は決まっていないと思う(直接ではないが、推測できる)
5. 知らない・わからない

選択肢 1.2⇒自由回答欄に職業名記載

【問10】 あなたご自身の学生時代（中高生時代）に、それぞれの教科を勉強することが好きでしたか

	好き	好き といえ ば	ど ち ら か	嫌 い	ど ち ら か	嫌 い	わ か ら な い
a. 国語	1	2	3	4	5		
b. 外国語	1	2	3	4	5		
c. 社会（地理歴史・公民）	1	2	3	4	5		
d. 数学	1	2	3	4	5		
e. 理科のうち化学に関する内容	1	2	3	4	5		
f. 理科のうち物理に関する内容	1	2	3	4	5		
g. 理科のうち生物に関する内容	1	2	3	4	5		
h. 理科のうち地学に関する内容	1	2	3	4	5		

【問11】 これまでのお子さまへの教育面でのかかわり方（今後の見込みも含む）につき、それぞれあてはまるものをお選びください。

	主 に 自 分 が 行 う ・ 行 っ た	主 に 配 偶 者 が 行 う ・ 行 っ た	自 分 も 配 偶 者 も 同 程 度 行 う ・ 行 っ た	自 分 も 配 偶 者 も 行 わ な い ・ 行 わ な か っ た	ま だ 行 っ て お ら ず 、 今 後 の こ と は わ か ら な い
a. 普通の学校の様子をきく	1	2	3	4	5
b. 理科や算数・数学の勉強を教える	1	2	3	4	5
c. 科学館や博物館に連れて行く	1	2	3	4	5
d. 理科の自由研究のアドバイスを	1	2	3	4	5
e. 大学や自治体が行っている理科実験教室に連れて行く	1	2	3	4	5
f. プログラミングやコンピュータの使い方を教える	1	2	3	4	5
g. 天体観測や植物の観察、昆虫採集等を行う	1	2	3	4	5
h. 日常の会話の中で科学的な知識を教える	1	2	3	4	5
i. 進学に向けての勉強方法や塾の選び方の相談にのる	1	2	3	4	5
j. 高校での文系・理系などのコース分けの相談にのる	1	2	3	4	5
k. 高校で文系のコースを選択するようアドバイスする	1	2	3	4	5
l. 高校で理系のコースを選択するようアドバイスする	1	2	3	4	5
m. 大学での専攻分野について相談にのる	1	2	3	4	5
n. 大学で文系学部を選択することを勧める	1	2	3	4	5
o. 大学で理系学部（医薬系以外）を選択することを勧める	1	2	3	4	5
p. 大学で医薬系学部を選択することを勧める	1	2	3	4	5
q. 就職について相談にのる	1	2	3	4	5

【問12】理系の進路についてのイメージをお尋ねします。理工学（理学・工学）／医歯薬学・医療系（看護等）／農学／バイオ・生物学それぞれについて、大学や大学院を卒業・修了したあとの就職につき、あなたのイメージにあてはまるものをそれぞれ全ておえらびください。

	理工学（理学・工学）	医歯薬学・医療系	農学	バイオ・生物学	いずれもあてはまらない
a. 資格を取得でき、就職がしやすい	1	2	3	4	5
b. 資格を取得できず、就職がしづらい	1	2	3	4	5
c. 就職先は、家庭と仕事の両立がしやすい	1	2	3	4	5
d. 就職先は、家庭と仕事の両立がしづらい	1	2	3	4	5
e. 就職する仕事は、今後、需要の高まる職業である	1	2	3	4	5
f. 就職する仕事は、今後、需要の低下する職業である	1	2	3	4	5

【問13】現在、国では理系の研究者の新規採用者に占める女性の割合を向上させる目標のもと、科学技術・学術における男女共同参画の推進の取組みを進めています。

この点、理工系を目指す学生・生徒を増やすには、国や教育機関がどのような取組みを行う必要があると思いますか。

1. 理工系の仕事・職場を明るい雰囲気に変え、女性もいきいきと働ける環境をつくっていく（あるいはそういう情報をより積極的に伝える）
2. 理工系の仕事が、育児・家事をしても働き続けられるようにする（あるいはそうであることを伝える）
3. 理工系の仕事の資格や免許制度を増やし、普及させる
4. 理工系の仕事・職場において、男女が等しい条件で働き、等しく評価されるようにする
5. 大学の理工系分野の学部・学科の魅力伝える
6. 大学の理工系学部・学科で、女性は生き生きと学べる環境にしてい（あるいは、女性がいきいきと学んでいることを伝える）
7. 中学・高校の数学や理科の授業を魅力あるものに変える
8. 数学や理科を大学の入試をより易しくする
9. 推薦入試やAO入試でもより広く理工系学部に進学できるようにする
10. その他（具体的に； ）
11. いずれも必要はない

【問14】お子さまの将来について、あなたの考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。

	そう思う	そう思う	どちらかといえは	どちらかといえは	どちらかといえは	そう思わない
a. 将来に役立つ資格を身につけてほしい	1	2	3	4	5	
b. 収入や雇用が安定している仕事をしてほしい	1	2	3	4	5	
c. 将来は手に職をつけてほしい	1	2	3	4	5	
d. できるだけ地元の大学に進学してほしい	1	2	3	4	5	
e. できるだけ地元で就職してほしい	1	2	3	4	5	
f. 自分のやりたい仕事に就いてほしい	1	2	3	4	5	
g. 世界で活躍してほしい	1	2	3	4	5	
h. 結婚してほしい	1	2	3	4	5	

【問15】 女性の理想的な生き方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚や出産の後も、仕事量は変えない
2. 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚あるいは出産の後は、ワーク・ライフ・バランスに留意する
3. 結婚あるいは出産の機会にいったん退職（または休職）し、子育て後に再び仕事を持つ
4. 結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
5. 結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
6. 結婚せず、仕事を一生続ける
7. どれにもあてはまらない
8. その他（ ）

**【問16】 今回回答いただいたお子さまの、ごきょうだいの状況についてご記入ください。
（ごきょうだいがいない場合は、すべての欄に「0」をご記入ください）**

- | | | | |
|----|---|----|---|
| ①兄 | 人 | ②姉 | 人 |
| ③弟 | 人 | ④妹 | 人 |

最後にあなたと、あなたの配偶者のことについておたずねします。

【問17】

①.あなたのお仕事の状況

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 日常働いている
↓ | 2. 日常働いていない（休職中、専業主婦・専業主夫・年金受給含む）→⑥
↑ |
|-----------------|--|

②.職業<業種>

- | | |
|------------------|---|
| 1. 農林漁業 | 8. 卸売・小売業 |
| 2. 鉱業・採石業・砂利採取業 | 9. 医療、福祉 |
| 3. 建設業 | 10. サービス業
（不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、教育・学習支援業、金融・保険、郵便局・協同組合など含む） |
| 4. 製造業 ※（内訳たずねる） | 11. 公務 |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 12. その他（ ） |
| 6. 情報通信業 | |
| 7. 運輸業・郵便業 | |

③製造業の場合のみ、以下の内訳をたずねる。「製造業と回答した方は、具体的にご回答ください」

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 食品・飲料 | 6. 材料・部品（金属） |
| 2. 線維・革製品 | 7. 一般機械・器具 |
| 3. 木材・家具 | 8. 輸送用機械・器具 |
| 4. 紙・印刷 | 9. 電気・電子 |
| 5. 材料・部品（非金属） | 10. その他（ ） |

④.職業<職種>

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1. 管理職 | 7. 農林漁業従事 |
| 2. 専門・技術職 | 8. 生産職 |
| 3. 事務職 | 9. 輸送・機械運転従事 |
| 4. 販売職 | 10. 建設・採掘従事 |
| 5. サービス職 | 11. 運搬・清掃・包装等従事 |
| 6. 保安職 | 12. その他（ ） |

⑤.職業<役職>

1. 経営層・役員クラス（企業・団体）	5. 係長・主任クラス
2. 経営者（自営業）	6. 一般社員・一般職員クラス
3. 部長クラス	7. 派遣社員・契約社員など
4. 課長クラス	8. パート・アルバイトなど

⑥.最終学歴

1. 中学校	
2. 高校（a.普通科 b.理数科 c.総合学科 d.農業学科 e.工業学科 f.商業学科 g.看護科 h.その他（ ））	
3. 専門学校（a.文系 b.理工系 c.生物学・農学系 d.医歯薬学・医療系 e.その他）	
4. 大学・大学校（a.文系 b.理工系 c.生物学・農学系 d.医歯薬学・医療系 e.その他）	学部名・学科名・研究科名をご記入ください
5. 短期大学（a.文系 b.理工系 c.生物学・農学系 d.医歯薬学・医療系 e.その他）	_____
6. 高等専門学校（a.文系 b.理工系 c.生物学・農学系 d.医歯薬学・医療系 e.その他）	
7. 大学院（a.文系 b.理工系 c.生物学・農学系 d.医歯薬学・医療系 e.その他）	

⑦.配偶者のことについておたずねします。現在の配偶者との関係についてお答えください。

1.同居	2.別居（単身赴任等含む）	3.離別・死別
------	---------------	---------

⇒1,2 の場合は配偶者の年齢～最終学歴をそれぞれ再表示しお尋ねする

(2) 教員調査

【問1】 <属性質問>あなたご自身の性別・年齢等についてそれぞれご記入ください。

①性別・年齢

1.女性	2.男性	3.その他
------	------	-------

年齢 _____ 歳

⇒年齢と回答者居住地から、年代2区分、地域2区分を割り付ける。

②現在の担当教科・教科の受け持ち学年

教科	学年
1. 国語	1. 中学1年
2. 社会(中学)	2. 中学2年
3. 地理歴史(高校)	3. 中学3年
4. 公民(高校)	4. 高校1年
5. 数学	5. 高校2年
6. 理科	6. 高校3年
7. 芸術	7. その他()
8. 外国語	
9. 家庭	
10. 技術(中学)	
11. 情報	
12. その他()	

③役職など(該当するものをすべて選択)

1. 校長	5. 生徒指導主事
2. 教頭	6. 進路指導主事
3. 教務主任	7. 学級担任(受け持ち学年 _____ 年)
4. 学年主任	8. その他()

④勤務先の学校の種類

設置者等	共学か女子校か
1. 国立 中学	1. 共学
2. 国立 高校	2. 女子校
3. 国立 中高一貫校	
4. 公立 中学	
5. 公立 高校	
6. 公立 中高一貫校	
7. 私立 中学	
8. 私立 高校	
9. 私立 中高一貫校	
10. その他	

⑤最終学歴(大学・大学院の学問分野)

1. 教育学部・教育学研究科のいずれか・または両方の出身である
2. 教育学部・教育学研究科出身でない

⇒(1. の場合、いずれの教科に関するコースだったかをたずねる。
国語、外国語、.....、教科教育についての専門コースには属さなかった(特別支援教育コース等))

⑥<教育学部出身でない場合>出身学部の学問分類として最も近いものをお選びいただき、学部・学科・研究科名をご記入ください。

- 1.人文系
- 2.社会科学系
- 3.情報系
- 4.理工系

- 5.環境系
- 6.生物系
- 7.医歯薬系



学部・学科・研究科名

【問2】 あなたは学生時代（中高生時代）、それぞれの教科を勉強することが好き（または、得意）でしたか

	好き	好き といえ ば どちら か	嫌い といえ ば どちら か	嫌い	わ か ら な い
a. 国語	1	2	3	4	5
b. 英語	1	2	3	4	5
c. 社会	1	2	3	4	5
d. 数学	1	2	3	4	5
e. 理科のうち化学に関する内容（水溶液、原子・分子など）	1	2	3	4	5
f. 理科のうち物理に関する内容（力の働き、光と音など）	1	2	3	4	5
g. 理科のうち生物に関する内容（生物の観察と分類、細胞など）	1	2	3	4	5
h. 理科のうち地学に関する内容（地形や地層、火山と地震など）	1	2	3	4	5

【問3】 理科や数学の得意な女子生徒の進学につき、以下についておこたえください。

①本人に明確な希望がない場合に、特に進学を目指すと思える学部（○は1つ）

- | | | | | |
|-------|-----------|------------|----------|-----------|
| 1.理学部 | 4.薬学部 | 7.農学部 | 10.法学部 | 13.その他（ ） |
| 2.工学部 | 5.保健・看護学部 | 8.文学部 | 11.社会学部 | 14.特になし |
| 3.医学部 | 6.歯学部 | 9.経済学・経営学部 | 12.外国語学部 | |

②その学部に進学するのが良いと思う理由（○は3つまで）

- | | | |
|---------------|-------------------|-------------------|
| 1.専門性が高い | 4.就職・転職に有利である | 7.将来仕事と家庭の両立がしやすい |
| 2.学部で学ぶ内容が魅力的 | 5.女性に向いている | 8.将来像が明確である |
| 3.将来の収入が高い | 6.理科や数学を活かすことができる | 9.資格や免許が取れる |
| | 10.その他（ ） | |

【問4】 生徒の進路選択に関する情報を、どのように入手していますか

- | |
|-------------------------------|
| 1. 同じ学校の教員（職員会議等含む） |
| 2. 別の学校の教員 |
| 3. 自分の出身大学・短大・高専等の関係者 |
| 4. 3以外の大学・短大・高専等の関係者 |
| 5. 民間教育機関（進学塾、予備校等）や受験・教育情報産業 |
| 6. 教員免許更新講習 |
| 7. 研修会・セミナー・シンポジウムへの参加 |
| 8. テレビ・ラジオ（具体的に： _____） |
| 9. 新聞 |
| 10. 雑誌（具体的に： _____） |
| 11. インターネット（具体的に： _____） |
| 12. その他（具体的に： _____） |

【問7】 特に理工系への進学を希望する生徒への指導に際して必要と考えているものはどれですか。（WEB上、「理工系」に絞っていることが強調表示できるよう留意）

1. 自分の科学技術についての知識が少ない点を補完したい
2. 理工系分野については情報が日々新しくなるため、最新情報を得たい
3. 生徒に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい
4. 保護者に、進学先の学部・学科等で学んだり研究する内容についての具体的なイメージを持てるような情報を提供したい
5. 理工系に進学した者の就職する職種・仕事が、学部・学科との関連等を含めどのようなものであるかわからないので、情報を得たい
6. 理工系の学部での学び方(研究室に所属し、大学院に進学する学生が多い等)が独自なので、情報を得たい
7. 大学入試での科目選択とそのための学習方法の情報が不足しているのでその情報を得たい
8. 理工系学部・学科等で学んだ女性が、卒業後、どのように働いているのかわからないので、情報を得たい
9. 理工系学部・学科等で学んだ男性が、卒業後、どのように働いているのかわからないので、情報を得たい
10. 理工系学部・学科等で学ぶ女性が、学校ではどう異性と混じって学んでいるのか、わからないので、情報を得たい
11. 理工系学部・学科等で学ぶ男性が、学校ではどう異性と混じって学んでいるのか、わからないので、情報を得たい
12. その他
13. いずれもあてはまらない

【問8】 特に理工系への進学を希望する生徒への指導に際して不安な点・苦勞する点がありますか（WEB上、「理工系」に絞っていることが強調表示できるよう留意）

1. 理工系の中でも、どの分野の人材が社会で求められているのかわからない
2. 女子生徒の保護者が、他の系統への進学を希望することがある
3. 男子生徒の保護者が、他の系統への進学を希望することがある
4. 理数系科目に苦手なものがある生徒の進路指導が難しい
5. その他（具体的に； ）
6. いずれもあてはまらない

【問9】 以下のそれぞれの文章について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んでください。

	そう思う	思っ いえばそう どちらかと	思わな いえばそう どちらかと	そう思わ ない
a. 呆護者は、男子に比べ女子に対しては文系に進学することを望む傾向がある	1	2	3	4
b. 呆護者は、男子に比べ女子に対しては理系に進学することを望む傾向がある	1	2	3	4
c. 女子は男子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い	1	2	3	4
d. 男子は女子に比べ、家事の手伝いをするように保護者から言われることが多い	1	2	3	4
e. 男子生徒が進学する場合、異性の学生が多い学問領域は選びづらいだろう	1	2	3	4
f. 女子生徒が進学する場合、異性の学生が多い学問領域は選びづらいだろう	1	2	3	4
g. 男子生徒が就職する場合、異性の人が多い職場は働きづらいだろう	1	2	3	4
h. 女子生徒が就職する場合、異性の人が多い職場は働きづらいだろう	1	2	3	4
i. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成である	1	2	3	4

【問10】 女性の理想的な生き方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚や出産の後も、仕事量は変えない
2. 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける。結婚あるいは出産の後は、ワーク・ライフ・バランスに留意する
3. 結婚あるいは出産の機会にいったん退職（または休職）し、子育て後に再び仕事を持つ
4. 結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
5. 結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
6. 結婚せず、仕事を一生続ける
7. どれにもあてはまらない
8. その他（）